

平成 30（2018）年度

年 報  
Annual Report

公益財団法人 山階鳥類研究所  
Yamashina Institute for Ornithology

## はじめに

本冊子は、公益財団法人山階鳥類研究所の平成 30 年度の年報です。この年報は、当研究所に所属する全研究員、専門員のこの一年間の研究の成果、調査、社会活動の報告を編集しました。

文部科学省や環境省、公益財団法人、自治体、企業などからいただいている研究助成、業務委託には、それぞれ個々に報告書を提出していますので、この冊子は当研究所の研究活動を概括的にまとめたものです。

今日では日本のほとんどの研究機関、大学がこの種の年間成果報告を刊行し、それを外部評価し、今後の研究、社会活動がより円滑に進むように PDCA サイクルを回すということが行われています。山階鳥研でも、林良博前所長のもと、平成 22 年度から年報刊行を再開し、今号が 9 度目の年報になります。

これが他の研究機関で研究活動の活性化にある程度つながり、日本総体でみてもこれまで低迷していた日本の研究の国際的なランキングがしだいに向上しつつあるようです。同様に、山階鳥研でも、この年報は確実に研究活動の活性化の一翼を担いつつあります。

しかし、同時にほとんどの研究機関、大学で、研究成果報告と外部評価制度の見直しがおこっています。それは、報告の作成、評価のためにいわゆる「評価疲れ」が蔓延し、本来、研究や活動のために使うべき時間と労力を成果報告と評価のための作業にかなり割くことになってしまっているためです。

山階鳥類でも、そのようなことにならないように、この年報の作成を通じて各研究員、専門員が自己の研究、社会活動を振り返り、これを読まれた皆様方の評価をいただいて、いっそうの研究活動の深化、社会化、発信に努めたいと思います。実際に今回も、この冊子の作成を通じて、個々の研究活動を、山階鳥研総体からみてどれだけの成果になっているのかを知ることができました。

今後さらに、現在の自然誌研究室、保全研究室のそれぞれの研究を相互に連携させ、その融合によって、山階鳥研が文理を越えた総合的な「とり学」を構築し、この領域での世界のオンリーワンの研究機関になることをめざしたいと、所長としては考えています。

このためには、自然誌研では文化誌資料・標本の整理の一層の促進、電子化、公開にむけて具体的な活動を進めなければなりません。保全研では、現在の成果に今日の最先端技術を導入し、将来的には鳥類の保全と文化、地域貢献、観光のあるべき姿を提言し、比較的自然が残っている地域での保全活動とともに、大都市における鳥類と人々との多様で豊かな関係を創出する計画をもっています。

皆様からの忌憚のないご意見をいただくようお願いいたします。

令和元年 8 月

公益財団法人山階鳥類研究所  
所長 奥野卓司

# 目次

I	おもなできごと	1
II	トピックス	
II-1.	鳥島は総数が5000羽越え	5
II-2.	江崎保男博士に第20回山階芳麿賞を贈呈	5
II-3.	ウィーン自然史博物館と標本の交換	6
II-4.	下村兼史の写真展が好評裏に終了	7
II-5.	京都市動物園と連携協定を締結しました	8
II-6.	絶滅危惧種ナベヅル中国黒龍江から四国への渡りを確認	9
II-7.	小笠原のアホウドリ イチローとユキの最初の子も聳島に帰還しました	10
II-8.	ハワイのビショップ博物館と連携協定締結	11
III	事業内容	
III-1.	事業活動要約	14
III-2.	事業活動 事業別概要	15
III-3.	保全研究室の事業活動	29
III-4.	科学研究費補助金(特定奨励費)の研究事業	31
III-5.	研究所員の論文・講演等活動成果	58
III-6.	所蔵資料の利用実績・その他	68
III-7.	新聞・雑誌・メディア記事掲載記録	70
IV	資料編	
IV-1.	組織図	75
IV-2.	人員構成	76
IV-3.	評議員名簿	77
IV-4.	役員名簿	78
IV-5.	特任・客員研究員名簿	79
IV-6.	意見交換会記録	81
IV-7.	研究成果発表会記録	92
IV-8.	下村写真展来場者アンケート集計結果	109
V	財産目録等	
V-1.	平成30年度決算	115
V-2.	財産目録	118
VI	ご寄付・賛助等に関する資料	120

## I おもなできごと

- 4月18日 NHK テレビ「視点・論点」で出口室長がアホウドリの保護活動について解説
- 4月25日 前田健・山口大学教授が山階鳥研で野鳥につくマダニが媒介する感染症についてセミナー
- 5月6日～16日 このころ小笠原諸島聳島のアホウドリの新繁殖地形成事業で、2007年から繁殖しているつがいから生まれたヒナが3年連続で巣立ち
- 5月13日 Enjoy 手賀沼！バードウィーク手賀沼探鳥会開催（後援）（我孫子市）
- 5～6月 海鳥野外調査実習実施（合計3回、青森県八戸市蕪島、富田研究員）
- 5～8月 陸鳥野外調査実習実施（合計6回、福島県相馬市、仲村研究員が担当）
- 6月8日 韓国国立生物資源館ユン・ヨンフェ戦略企画課長ほか職員4名来所
- 6月13日 ウィーン自然史博物館より研究用鳥類標本25種30個体が交換として到着
- 6月16日 平成30年度新潟県野鳥保護の集い（新潟県野鳥愛護会）で仲村研究員が講演（新潟県十日町市松之山三省ハウス、十日町市）。
- 6月21日 定時評議員会、臨時理事会（東京都内）
- 6月23日 鳥類標本製作技術講習会（我孫子市鳥の博物館、我孫子市、岩見研究員）
- 6月30日 「ナショナル ジオグラフィック 日本版」7月号で山階鳥研のアホウドリ保護活動が紹介
- 7月2日 東日本・中部日本地区賛助会員の集いおよび第20回山階芳麿賞贈呈式（受賞者江崎保男博士）開催（グラントハイアット東京、東京都港区）（主催）
- 7月14日～
- 10月20日 「珠玉の昆虫標本～江戸から平成の昆虫研究を支えた東京大学秘蔵コレクション」で、山階芳麿博士が収集した昆虫標本が展示（東京大学総合博物館、東京都文京区）
- 7月14日 我孫子市鳥の博物館企画展「我孫子の都市鳥一都市の発展と鳥たちの移り変わり」開催  
山階鳥研所員が協力（～11月25日）
- 7月15日 鳥類標本製作技術講習会（富良野市博物館、北海道富良野市、岩見研究員）
- 7月21日～
- 2019年5月18日 展覧会「明治150年記念華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」が名古屋・秋田・京都・東京を巡回（山階鳥研所蔵の学習院大学史料館寄託品展示）
- 7月28日 「第1回 イセ食品たまご研究所・一般公開セミナー」で、アホウドリの保全に関して出口室長が講演（有楽町朝日ホール、東京都千代田区）
- 8月18日 「世界ふしぎ発見！」（TBSテレビ）でアホウドリと山階鳥研の保全活動が紹介
- 8月25日 映画「皇帝ペンギン\*たたいま\*」公開（後援）
- 8月26日 シンポジウム「島の自然と未来をみんなで考えよう！奄美大島からネコ対策の明日をつくる」で岡フェローがパネリストとして登壇（早稲田大学、東京都新宿区）
- 9月5日 意見交換会（所員、特任研究員ほか参加）（東京大学中島ホール、東京都文京区）
- 9月14日～17日 日本鳥学会2018年度大会で所員が発表（新潟大学、新潟県）
- 9月17日 日本鳥学会2018年度大会公開シンポジウム「トキの放鳥から10年：再導入による希少鳥類の保全」で尾崎副所長と出口室長が講演（朱鷺メッセ国際会議場、新潟市）
- 9月21日～26日 写真展「一下村兼史生誕115周年—100年前にカワセミを撮った男・写真展」開催（有楽町朝日ギャラリー、東京都千代田区）（主催）
- 9月28日 平成30年度北海道博物館協会学芸職員部会・研修会で、岩見研究員が講演（美幌博物館、北海道美幌町）。
- 9月29日 第20回山階芳麿賞記念シンポジウム「コウノトリ野生復帰と生物多様性の保全～鳥類生態学と応用生態工学の出会い～」開催（東京大学弥生講堂、東京都文京区）（主催）
- 9月29日 NHK総合テレビ「NHKスペシャル秘島探検東京ロストワールド第2集 嬌婦岩」放送  
佐藤研究員が取材協力

- 10月2日 サンパウロ大学動物学博物館の鳥類学キュレーター、L・F・シルベイラ教授と二宮正人同大学法学部教授が来所
- 10月2～29日 写真展「アホウドリ復活への挑戦～小笠原で行われたこと～」開催（キヤノンオープンギャラリー1、東京都港区）（共催）
- 10月6日 写真展「アホウドリ復活への挑戦～小笠原で行われたこと～」の関連行事として行われたトークイベントで出口室長が登壇
- 10月13日 「東京の野生鳥獣について考えるシンポジウム」で岡フェローが講演（東京女子大学、東京）
- 10月14日 北海道シンポジウム「恐竜と鳥のはざま」で森本研究員が講演（北海道大学・札幌市）
- 10月14日 手賀沼流域フォーラム「生き物のふしぎを体験しよう！」開催（アビスタ、我孫子市）（後援）
- 10月21日 「標本を作ろう！！」鳥類編。で岩見研究員が講演（佐渡トキ交流センター、新潟県佐渡市、岩見研究員）
- 10月20日 宮古島で絶滅危惧種ヒガシシナアジサシ1羽が観察・撮影される 山階鳥研で同定が確認され、10月25日に報道発表を行った
- 10月24日 全日本バードカービングコンクール（日本バードカービング協会）開催（～28日、東京都美術館、東京都台東区）山階鳥類研究所所長賞を贈呈
- 10月28日 「2018 鳥の年」市民サイエンス・ワークショップ 東アジアにおける渡り性スズメ目鳥類の現状と保全」で森本研究員が講演（東京大学弥生キャンパス、東京都文京区）
- 10月30日 松戸市地域環境調査研修会で平岡専門員が講演（京葉ガスビル、松戸市）
- 11月3～4日 ジャパンバードフェスティバル（JBF）開催  
第28回鳥学講座「スズメ研究のススメ」（三上修北海道大学函館校准教授）を開催。
- 11月4日 足立区生涯学習センター山階鳥類研究所連携教養講座「鳥と色彩～美しい色の機能や発色の“なぜ”に迫る」で森本研究員が講演（足立区生涯学習センター、東京都足立区）
- 11月5日 中国黒竜江省で足環を装着されたナベヅルが四万十市で観察され、黒竜江省から四国への移動が初めて確認
- 11月6日 シンポジウム「御蔵島のネコ問題の今」で岡フェローが講演（御蔵島観光資料館、東京都御蔵島村）
- 11月12日 京都市動物園と連携協定を締結
- 11月14日 外務省の海外発信サイト「Discuss Japan」（英・中）に出口保全研究室長によるアホウドリ保護活動についての解説文が掲載
- 11月15日 山階鳥学セミナー～捕獲技術入門編～開催（山階鳥研、我孫子市、森本研究員・千田専門員）
- 11月27～28日 ミャンマーの生物多様性と野生動物保護のワークショップで齋藤研究員が発表（ヤンゴン大学、ミャンマー）
- 11月27～29日 二国間渡り鳥等保護条約・協定等会議に参加（米・中・豪・韓国、日本）（沖縄県那覇市、尾崎副所長、出口室長ほか）
- 12月3日 東京環境工科専門学校で出口室長がアホウドリの保護活動について講義
- 12月5日 トークイベント「ユニークな南西諸島の鳥達の謎を探る」（ジュンク堂書店、東京都豊島区）で平岡専門員と齋藤研究員が講演
- 12月24～26日 鳥類標識調査講習会開催（山階鳥類研究所、我孫子市）
- 1月10日 奥野所長、関西学院大学で最終講義「メディア・コンテンツにおける「鳥」の意味…「鳥獣戯画」から「火の鳥」、そして。」（兵庫県西宮市）
- 1月18日 テント・レインウェアなど調査装備が株式会社モンベルより寄贈（2月7日に任生理事長名の感謝状を出口室長から贈呈）
- 1月20日 連携記念シンポジウム「鳥類系統学のいまーハヤブサはワルぶったインコなのかー」で山崎室長が講演（京都動物園、京都市）
- 1月25日 科学研究費補助金（特定奨励費）研究成果発表会（東大中島ホール、東京都文京区）

- 2月3日 鴨池早春講演会「鳥の標本ってどんなもの？標本作りの楽しさを知ろう！」で岩見研究員が標本について講演（加賀市鴨池観察館、石川県加賀市）
- 2月14日 MC FOREST 講演会で平岡専門員が講演「バードウォッチング入門～入門済みの人にはちょっと復習」（三菱商事MC FOREST、東京都千代田区）（共催）
- 2月16日 ハワイのビショップ博物館と連携協定締結
- 3月6日 中国・四国地区賛助会員の集い開催（道後山の手ホテル、愛媛県松山市）
- 3月2日 山階鳥学セミナー～捕獲技術入門編～開催（名古屋国際センター、名古屋市、森本研究員・千田専門員担当）
- 3月13日 山階武彦助成事業選考委員会、定時理事会（東京都内）

## Ⅱ トピックス

平成30年度にあったできごとから、トピックを、広報紙「山階鳥研NEWS」から抜粋して紹介します

## ●鳥島は総数が5000羽越え

本年2月～3月にかけて伊豆諸島鳥島のアホウドリの調査を、環境省の請負事業として行った結果、鳥島全体でのアホウドリの巣立ち数は708羽となり、鳥島のアホウドリ個体群の総数は5,000羽を越えたと推定されました。

鳥島の調査は、2月21日から3月13日まで、佐藤文男、富田直樹保全研究室研究員らが参加して実施されました。

戦後、一時は絶滅したと考えられたアホウドリですが、最大の繁殖地である鳥島の総個体数は、1999年の巣立ち期には1,000羽を越え、2017年3月には約4,400羽まで回復したと推定されていました。

(山階鳥研NEWS 2018年7月号より)

### Number of Short-tailed Albatross in Torishima Island exceeds 5,000 birds

Torishima Island in the Izu Islands holds the largest breeding population of the endangered Short-tailed Albatross. In the field survey conducted by YIO this February and March and commissioned by the Ministry of the Environment it was found that the number of Short-tailed Albatrosses about to fledge from this island in the spring of 2018 was 708 individuals, with the result that the estimated population of this species in Torishima will exceed 5,000 individuals. Thanks to the dedicated workers in and out of YIO and many supporters of the project, this species had been recovering from the brink of extinction it experienced soon after World War II, when it was announced in 1949 by American ornithologist Oliver Austin, Jr. that it had quite probably gone extinct. The total population in Torishima had exceeded 1,000 birds in the spring of 1999 and had reached an estimated number of about 4,400 individuals in March 2017.

(Excerpt from July 2018 issue of Yamashina Choken News)

## ●江崎保男博士に第20回山階芳麿賞を贈呈

日本の鳥類の研究や保護に携わられた方々を対象に贈呈する山階芳麿賞の第20回として、江崎保男博士（兵庫県立大学教授・兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長）に贈呈しました。贈呈式は、7月2日（月）に、グランドハイアット東京（東京都港区）で開催された、山階鳥研の「東日本・中部日本地区賛助会員の集い」の中で行われました。記念シンポジウムを、9月29日（土）に東京大学弥生講堂（東京都文京区）で開催しました。

今回、受賞者に決定した江崎保男博士は、多種多様な鳥類・鳥類群集など多岐にわたる生態学的研究を行い、保全の面でコウノトリの野生復帰に貢献し、さらに土木工学と生態学の融合を目指した応用生態工学の提唱と発展に尽力された功績が山階芳麿賞選考委員会（奥野卓司委員長）により評価されたものです。





総裁の秋篠宮殿下から賞状を受ける江崎保男博士（山階鳥研 NEWS 2018 年 9 月号より）

### **Professor Yasuo Ezaki receives Yamashina Yoshimaro Award**

The 20th Yamashina Yoshimaro Award was presented to Dr. Yasuo Ezaki, Professor at the University of Hyogo and Research Director General at the Hyogo Park of the Oriental White Stork, by His Imperial Highness Crown Prince Akishino, the President of YIO, at the presentation ceremony held on Monday 2nd July at the Grand Hyatt Tokyo. The ceremony was held separately preceding YIO's party for its supporting members from eastern and central Japan.

Professor Ezaki has made various scientific achievements in the ecology of birds and bird communities. In addition, in the field of conservation he has made a significant contribution to the reintroduction of the Oriental White Stork to Japan, which is now proving to be successful. At the same time, he has been instrumental in the proposal and advancement of the new field of applied science called "oyo-seitai-kogaku", which aims at the integration of ecology and civil engineering in order to prevent the frequently observed situation in which civil engineering works intended to prevent natural disasters may result in the degradation of biodiversity.

The memorial symposium will be held on Saturday 29th September.

The Yamashina Yoshimaro Award was established in 1992 to commemorate the achievements of the founder of YIO, Yoshimaro Yamashina, on the 50th anniversary of the institute. The award aims to reward individuals or organizations that have contributed to the development of ornithology research and the conservation of birds in Japan.

(Excerpt from September 2018 issue of Yamashina Choken News)

### **●ウィーン自然史博物館と標本の交換**

オーストリア、ウィーン自然史博物館との研究用鳥類標本交換の一環として、6月13日にウィーンから、仮剥製と骨格標本25種30個体分が山階鳥研に届きました。

ウィーン自然史博物館とは2014年に東京で開催された国際鳥類学会議をきっかけに、翌年の2015年に、同博物館の11点の標本（本紙2015年3月号参照）と山階鳥研からの10点の標本を交換した実績があり、今回の交換はこれに引き続いて進めているものです。



ウィーン自然史博物館から届いた交換標本。写真下にオオタカのヨーロッパ産亜種の成鳥と幼鳥、地中海産のキアシセグロカモメが見える。(山階鳥研 NEWS 2018 年 11 月号より)

### **Exchange of specimens between the Natural History Museum Vienna and YIO**

On 13rd June, study skins and skeletal specimens comprising 30 individuals of 25 species of birds collected mainly in Austria, arrived from the Natural History Museum Vienna. This is part of an exchange of specimens between the two institutions and now YIO will be sending specimens of Japanese birds. The Natural History Museum Vienna and YIO started specimen exchanges after the International Ornithological Congress held in 2014 in Tokyo, when a staff member of the Austrian museum visited YIO and discussed possible exchanges.

(Excerpt from November 2018 issue of Yamashina Choken News)

### **●下村兼史の写真展が好評裏に終了**

「下村兼史(しもむらけんじ) 生誕 115 周年 100 年前にカワセミを撮った男・写真展」(主催:山階鳥研)を 9 月 21 日~26 日の日程で、有楽町朝日ギャラリー(東京都千代田区)で開催し、盛会のうちに終了しました。6 日間の総入場者数は、1957 名でした。下村兼史は日本の野鳥生態写真の先駆者ですが、1967 年に亡くなっており、活躍したのは戦前と、戦後 20 年ほどでしたので、現代の若い年代の間での知名度は高くありませんでした。アンケートを見ると、この写真展を知るまで下村兼史を知らなかったという来場者も多数あったこと、それらの人たちに好感を持って受け止められたことが読み取れ、下村兼史の功績の再評価のために、一定の役割を果たせたのではないかと考えています。



多くの来場者が訪れた会場風景（9月24日）（山階鳥研 NEWS 2018年11月号より）

### “Exhibition of Kenji Shimomura’s Photos” is well received

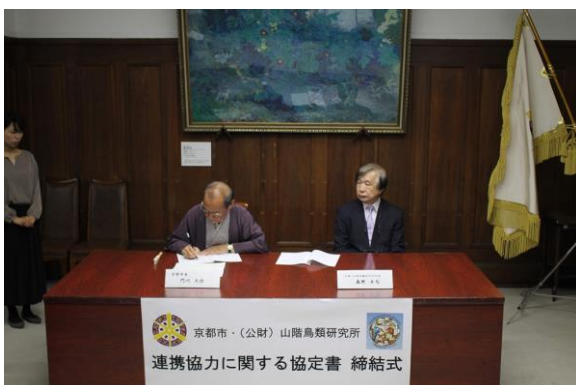
YIO held its “Exhibition of Kenji Shimomura’s Photos - The man who photographed a kingfisher 100 years ago”, from Friday 21st to Wednesday 26nd September at the Yurakucho Asahi Gallery near Yurakucho Station in downtown Tokyo. The exhibition was well received and the total number of visitors during the 6 days reached 1,957 people. Although Kenji Shimomura (1903-1967) was a pioneer in wildlife photography in Japan, he was only active prior to the war and for a 20-year period after the war, so he is not well known among today’s younger generations. The results of a questionnaire showed that, although the majority of visitors had not known about him before this exhibition, they liked his photographic work. It seems the exhibition has helped shed light on the achievements of this important figure of wildlife photography in Japan once again.

(Excerpt from November 2018 issue of Yamashina Choken News)

## ●京都市動物園と連携協定を締結しました

山階鳥研は、京都市動物園と、双方の野生動物に関する研究及び教育の事業を更に発展させるために、連携協定を昨年11月12日に締結し、京都市との間で協定書の調印式を行いました。

連携の内容は、(1)京都市動物園で飼育する動物の研究に関する事項、(2)京都市動物園における環境教育及び生涯学習に関する事項、(3)野生動物、特に絶滅危惧種の保全に関する事項、(4)京都市動物園及び山階鳥研が有する学術情報、資料及び試料の提供等に関する事項、(5)SDGs（持続可能な17の開発目標）に関する事項の5項目で、今後両者はこれにのっとり、相互連携を強化してゆく方針です。



協定書に調印する門川大作京都市長。右は奥野卓司山階鳥研所長（2018年11月12日、京都市役所）

（山階鳥研 NEWS 2019年1月号より）

## Mutual cooperation agreement concluded between the Kyoto City Zoo and YIO

The Kyoto City Zoo and YIO have concluded an agreement concerning mutual cooperation in research and wildlife education. The two parties agreed to cooperate on (1) research on the animals kept in the zoo, (2) environmental education and lifelong learning in the zoo, (3) conservation of wild animals, especially endangered species, (4) use of scientific information and materials held by both parties, and (5) 17 Sustainable Development Goals. On 12nd November a ceremony was held that was attended by Daisaku Kadokawa, Mayor of the City of Kyoto, and Takuji Okuno, Director General of YIO. The Mayor signed the agreement which Motohiro Mibu, Chairman of the Board of Directors of YIO, had signed in advance. (Excerpt from January 2019 issue of Yamashina Choken News)

## ●絶滅危惧種ナベヅル 中国黒龍江から四国への渡りを確認

環境省レッドリスト(2018)の絶滅危惧第Ⅱ類(VU)に位置づけられているナベヅルが、中国黒龍江省から、11月12日に徳島県阿南市中林町で観察されたことを皮切りに、高知県、鹿児島県に順次移動したことが色足環の証拠で初めて確認されました。

ナベヅルの大陸と鹿児島県出水市間の移動は色足環その他の証拠によって従来から確認されていましたが、今回の記録ならびに近年の色足環の観察事例によって、ナベヅルの、九州と四国の複数の越冬地間に個体の移動があって、関連していることが明確になりました。本種の保全上、越冬個体群の、鹿児島県出水市への過度の一極集中の緩和が必要とされており、今後の保全のためにもこれらの知見は有意義なものと考えられます。



中国からの渡来が足環によって確認されたナベヅル。赤い色足環に「354」という番号が刻されているのが見える

今回のナベヅルの足環装着場所★と渡来地●



左：2018年11月5日、高知県四万十市。有田修大氏撮影。右：2018年11月12日、徳島県阿南市。西川清氏撮影(山階鳥研NEWS2019年3月号より)

### Migration of Hooded Crane from China to Shikoku confirmed for the first time

A Hooded Crane (*Grus monacha*) has been confirmed by means of its red leg marker to have travelled from Heilongjiang Province, Northeast China, to Shikoku, one of the four main islands of Japan. The crane then travelled from Shikoku to Kyushu, another of the four main islands. This observation constitutes the first confirmed record of this species moving among the wintering grounds of Kyushu and Shikoku, as well as being the first confirmed instance of migration of this species between China and Shikoku.

The present over-concentration in the wintering grounds of Izumi in Kagoshima, Kyushu, the largest wintering grounds of this species in the world, may well be a risk factor for this endangered crane, and it has long been argued that improvement in this situation is urgently needed. The finding that cranes are moving between wintering grounds in Kyushu and Shikoku islands will prove useful in considering appropriate conservation strategies for this species.

(Excerpt from March 2019 issue of Yamashina Choken News)

### ●小笠原のアホウドリ イチローとユキの最初の子 聳島に帰還しました

小笠原諸島聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業において、イチローとユキの愛称で呼ばれるつがいから、2016年に最初に生まれた個体（色足環 赤Y75）が、この繁殖期に聳島に帰還したことが、東京都の委託による山階鳥研の調査で確認されました。

イチローはこの事業で2008年に聳島（むこじま）を巣立った人工飼育個体（色足環 赤Y01、11歳、雄）、ユキは野生個体（足環なし、雌）で、このつがいは2015～16年の繁殖期以来、過去3シーズン連続で繁殖に成功しています。

聳島で人工飼育した個体の子が小笠原諸島に帰還した事例はこれまでに、聳島から約5キロ南の媒島（なこうどじま）で、2009年生まれの子の人工飼育個体（色足環 赤Y11）から生まれ、2014年5月に巣立った雌個体（色足環 緑M170）が、2017年3月1日に聳島に帰還した例があります。

（注）この事業は、山階鳥研が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て、新しい繁殖地を形成する目的で、伊豆諸島鳥島のアホウドリの雛を小笠原諸島聳島に移送（2008～12年）し、その後、東京都の委託調査としてモニタリングを実施しているものです。



左から、Y75（イチローとユキの2016年生まれの子）、イチロー（2008年巣立ちの人工飼育個体）、ユキ（野生個体）、イチローとユキの今年生まれのヒナ（2019年2月15日、小笠原諸島聳島）。

（山階鳥研 NEWS 2019年5月号より）

## First offspring of Ichiro and Yuki returns to Mukojima Island

The first offspring born of the pair of endangered Short-tailed Albatross that has been breeding successfully since the 2015-16 breeding season on Mukojima Island, the site of the reintroduction project, was confirmed to have returned to its native island by the YIO research team that visited the island this February.

There is only one other instance of the return of an offspring that was born of an artificially raised albatross in this project: the individual fledged from Nakodjima in 2014 was observed to have returned to Mukojima in March 2017.

This reintroduction project has been conducted by YIO with the support of the Ministry of the Environment, the Tokyo Metropolitan Government, the U.S. Fish and Wildlife Service, The Mitsui & Co.

Environment Fund, The Suntory Fund for Bird Conservation, and many others. In this project YIO transported a total of 70 Short-tailed Albatross chicks from the traditional breeding site on Torishima in the Izu Islands to Mukojima in the Ogasawara Islands with the aim of re-establishing a breeding colony of the Short-tailed Albatross in the Ogasawara Islands, where the species used to breed before it was extirpated by plume hunters before World War II.

The monitoring of the status of the albatross has been commissioned to YIO by the Tokyo Metropolitan Government.

(Excerpt from May 2019 issue of Yamashina Choken News)

## ●ハワイのビショップ博物館と連携協定締結

山階鳥研はハワイのビショップ博物館（ホノルル）と学術交流と協力について連携することとなり、本年2月、北條政利事務局長ほか同博物館を訪問して協定を締結しました。

連携協定の有効期限は5年。連携の内容として、学術目的で情報、出版物、研究材料を相互に提供し、共同研究を行う両者の意図を確認し、特にハワイミツスイ類の適応放散の研究と保護に焦点を定めるとしています。協定締結にあわせて、山階鳥研から同博物館へ、内山春雄特任専門員の製作になるハワイミツスイ類の標識調査用バードカービング2体および博物館展示用のバードカービング5体、計7体を贈呈しました。ハワイミツスイ類は、ハワイ諸島で、共通の祖先からさまざまな環境での生活にあわせてさまざまな形態の50種ほどに進化したことが知られるハワイ固有の小鳥の仲間で、「適応放散」のわかりやすい事例として知られています。人間の持ち込んだ外来鳥類から伝染した鳥マラリアなどが原因で多くの種が絶滅し、現在生存しているのは16種程度とされています。（山階鳥研 NEWS 2019年5月号より）



協定契約書は壬生基博理事長があらかじめ署名したものを持参し、ビショップ博物館の館長で最高経営責任者であるメラニー・イデ（Mellanie Y. Ide）氏（右）が署名し締結が完了しました。左は北條事務局長。

### **Mutual cooperation agreement concluded between Bishop Museum and YIO**

The Bishop Museum of Hawaii and YIO have concluded an agreement concerning academic exchange and collaboration. In February 2019, members of YIO, including Secretary General Masatoshi Hojo, visited the museum to conclude the agreement. Among other things the two parties have agreed to focus on Hawaiian honeycreepers in regards to adaptive radiation research and conservation. Seven realistic carvings of Hawaiian honeycreepers carved by Haruo Uchiyama, an invited specialist from YIO, were presented by YIO to the Bishop Museum.

(Excerpt from May 2019 issue of Yamashina Choken News)

### Ⅲ 事業内容



## III-1. 事業活動要約

公益財団法人 山階鳥類研究所

### 【公益目的事業】

I 一般会計による事業	研究責任者／担当者
1 アホウドリの人為的コロニー計画に関する研究（継続）	佐藤文男、富田直樹
2 皇居調査一吹上御苑を中心とした皇居内鳥類相を明らかにする	浅井芝樹、小林さやか、 岩見恭子、齋藤武馬、 黒田清子
3 普及・広報事業 (1) PR誌刊行事業 (2) 講習会事業 (3) 顕彰事業	平岡 考
4 山階武彦助成事業（対象8名）	事務局
II 文部科学省科学研究費補助金（特定奨励費）による研究事業	研究責任者
事業名：日本最大の鳥類関連資料の維持管理・拡充・公開に関する研究事業 0班：総括 1班：資料の維持管理 2班：資料の拡充 3班：情報公開とネットワーク構築	0班：奥野卓司（所長） 1班：鶴見みや古 2班：山崎剛史 3班：平岡 考
III 科学研究費補助金（除 特定奨励費）による研究事業	研究代表者／分担者
1 「島の鳥の適応放散はなぜ起きるかー数理モデルと幾何学的形態測定学によるアプローチ」ー基盤研究C	代表者 山崎 剛史
2 「構造色由来の色彩個体差の発生機構〜性選択における構造色の意味を探る〜」ー基盤研究C	代表者 森本元
3 「明治期国立博物館所蔵鳥類学標本群成立過程の解明と標本情報の現代的意義に関する研究」ー基盤研究C、分担事業「標本情報収集・データ管理」	代表者 加藤 克（北海道大学助教） 分担者 小林さやか
4 「人為的環境改変によるリュウキュウコノハズクニ系統の同所化と浸透性交雑に関する研究」ー基盤研究B、分担事業「遺伝解析」	代表者 高木昌興（北海道大学教授） 分担者 齋藤武馬
5 「電柱鳥類学：電柱・電線を介した都市における人と鳥との共生関係の実態解明」ー基盤研究B、分担事業「野外調査、行動解析」	代表者 三上 修（北海道大学准教授） 分担者 森本 元
6 「河川の砂礫地減少の影響を受ける鳥類の渡り経路、越冬地および重要な中継地の解明」ー基盤研究C、分担事業「野外調査での追跡装置装着」	代表者 笠原里恵（弘前大学農学生命科学部研究機関研究員） 分担者 森本 元
7 「高山帯ガレ場に生息するヒバリ個体群の生活史適応と遺伝構造の解明」ー基盤研究C、分担事業「野外調査」	代表者 上田恵介（立教大学名誉教授） 分担者 森本 元
8 「微細構造を活用した生物のやわらかい飛翔と遊泳の原理解明と実装（略称：ソフトロボット学）」ー新学術領域、分担事業「鳥類標本の形態計測と比較生物学的解析」	代表者 田中博人（東京工業大学准教授） 分担者 山崎剛史
IV 民間助成金による研究事業	研究責任者
1 公益信託サントリー世界愛鳥基金 活動助成「琉球諸島のアジサシ類の保全」	尾崎清明
2 嵐山通船 「鶉飼に関する比較文化誌的研究(2022年まで)」	奥野卓司（所長）
3 森村豊明会 「世界の鳥類学研究を支えるDNA研究サンプルの保存と維持活動」	浅井茂樹
V 保全研究室 受託・請負事業	責任者
受託事業4件（環境省1件、東京都1件、国立大学法人1件、社団法人1件）、 請負事業10件（環境省関連8件、国立大学法人2件）、 合計14件（詳細別紙）	出口智広（保全研究室長）

### 【収益事業】

不動産賃貸事業（東京都渋谷区南平台町に所有するマンション3室の賃貸）	事務局
------------------------------------	-----

## Ⅲ-2. 事業活動概要

### 【公益目的事業】

#### I. 一般会計による事業

##### 1. アホウドリの人為的コロニー計画に関する研究（継続）

責任者 佐藤文男研究員、富田直樹研究員

（注：通信機器不使用状態のため、一般会計を原資とする通信費はゼロであった。以下に報告する活動はアホウドリ資金（環境省保護増殖事業）等により実施された。）

アホウドリの新コロニー調査を伊豆諸島鳥島において、平成31（2019）年2月から3月に20日間行った。定点観察の結果、アホウドリの雛285羽（2018年2月：268羽）が確認された。この結果、今年度の鳥島総雛数は732羽（2018年：708羽）で前年比3.4%（2018年：35.6%）の増加となった。新コロニーではアホウドリの同時着地数が639羽（2018年：555羽）を記録した。また、新コロニーの内部及び外縁部におけるアホウドリの飛翔障害となるハチジョウグワを伐採した。これらの結果から、アホウドリの鳥島推定個体群は概ね5,500～6,000羽となり、順調に増加していることが確認された。また、新コロニーにおいてアホウドリの次回繁殖期の飛来状況や抱卵状況をモニタリングするため、自動撮影カメラ4台を設置した。

##### 2. 皇居調査 — 吹上御苑を中心とした皇居内鳥類相を明らかにする

担当者：齋藤武馬研究員、黒田清子（フェロー）、小林さやか専門員、浅井芝樹研究員、岩見恭子研究員

事業費128千円

皇居内の鳥類相を調べるため、4/10、5/8、6/5、7/3、8/7、9/7、10/5、11/6、12/11、1/8、2/5、3/5を調査日として、9:00から12:00の間に約4.3kmのコースを3人の調査員で歩き、確認された鳥種を個体数とともに記録した。

同様の目的で、5/21の14:00から5/22の12:00にかけて、10/23の14:00から10/24の12:00にかけて標識調査を行った。5月の調査は繁殖種を対象に3人の調査員で行った。10月の調査は渡り途中の種を対象に4人の調査員で行い、吹上御苑内に3箇所かすみ網を設置して鳥を捕獲した。捕獲された個体はすべて足環を装着し、原則として採血、計測、写真撮影の後、放鳥した。

##### 3. 普及・広報事業 責任者 平岡 考 広報コミュニケーションディレクター

事業費総額6,291千円

###### (1) PR誌刊行事業 事業費4,443千円

###### (1-1) PR誌

広報紙「山階鳥研NEWS」を5、7、9、11、1、3月に刊行し、各号4,000部印刷した。NEWSの内容については、ウェブサイト「刊行物」に目次を掲載している。

###### (1-2) ウェブサイト

ウェブサイトについて、平成30年度は、随時行った「イベント情報」の更新と結果報告、論文の発行や人事異動に伴うお知らせ、事業案内、助成事業、山階芳麿賞関連の更新を行った。また、「山階鳥研NEWS」から

- ・ ヒゲガビチョウ 広がる外来鳥類
- ・ 山階鳥研の所員をインタビューした中学一年生自由研究がコンクールで受賞
- ・ マリアナ諸島に棲息する「ナンヨウヨシキリ類」の進化を探る
- ・ 動物の個性への興味から鳥類学へ
- ・ カシラダカが絶滅する？
- ・ 2019年 新年のご挨拶
- ・ 「明治150年記念 華ひらく皇室文化— 明治宮廷を彩る技と美 —」展開催によせて
- ・ 絶滅危惧種ナベヅル 中国黒竜江省から四国への渡りを確認

- ・ バードウォッチングでも増加を実感！アホウドリ 新たな保全へ
- ・ ポルトガルでの Behaviour 2017 に参加して  
などの記事をピックアップして掲載した。

### (1-3) ブログ、SNS

「山階鳥研 広報ブログ」では、1年で25件の情報発信を行った。2015年秋に開始したSNSサービスのFacebook、Twitterは引き続き発信を行い、Facebookでは36の国と地域から1,800人を超えるファンを、Twitterでは10の国と地域から2,100人を越えるフォロワーを獲得した。

### (1-4) 報道発表

下記6件のリリースを行った。

- 5月29日「アホウドリ新繁殖地形成事業による鴛島での人工飼育個体の繁殖について」
- 6月28日「第20回山階芳麿賞 江崎保男 兵庫県立大学 教授・兵庫県立コウノトリの郷公園 統括研究部長 への贈呈を決定しました」
- 7月11日「第20回山階芳麿賞記念シンポジウム『コウノトリ野生復帰と生物多様性の保全～鳥類生態学と応用生態工学の出会い～』のご案内」
- 10月25日「世界的な絶滅危惧種の日本への飛来を初確認 宮古島にヒガシシナアジサシ」
- 11月9日「京都市動物園との「野生動物に関する研究及び教育普及の連携に関する協定書」の締結について」
- 1月17日「中国黒龍江省から四国への絶滅危惧種ナベヅルの渡りが確認されました」

## (2) 講習会事業 事業費 533 千円

### (2-1) 所内見学会

所内見学会は、講堂で約1時間、スライドと口頭説明で山階鳥類研究所について紹介するもので、原則として第4金曜日の午前と午後に行っている。さらに、おもに環境保全や生物学関係の団体や学校教科の一環としての学生生徒の見学希望について、第4金曜日以外であっても日程その他の調整がつく範囲で限定的に対応している。これらの見学を平成30年度は合計12回行い、合計85名の参加者があった。個人のほか、団体として（一社）日本セカンドライフ協会、東松山保健所管内狂犬病予防対策協議会などの参加があった。

### (2-2) ジャパン・バード・フェスティバル

ジャパン・バード・フェスティバルは我孫子市、日本鳥類保護連盟、山階鳥類研究所、市民団体等で構成する実行委員会が我孫子市内を会場に実施するイベントである。

平成30年度は11月3日～4日に実施した。山階鳥類研究所では、30分ごと40名の総入れ替え制により、講堂で研究員が研究紹介をする「山階鳥研 見にレクチャー10」を実施した。11タイトル、22講演。2日間でのべ756名の入場者があった。

鳥学講座は、山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館の共催により、鳥類学の第一線で活躍する研究者が分かりやすく研究を紹介するものである。ジャパン・バード・フェスティバル会期中の11月3日（土）に、アビスタ（我孫子市生涯学習センター）で今回の講座は、「スズメ研究のスズメ」と題し、北海道教育大学函館校准教授の三上修氏による講演をおこない、161名の入場者があった。

### (2-3) 鳥の博物館におけるテーマトーク

山階鳥類研究所職員が研究の成果などについて約30分のレクチャーでわかりやすく紹介する「テーマトーク」を、毎月1回（第2土曜日）我孫子市鳥の博物館との共催で、同博物館を会場に実施し、入場者数は10回でのべ312名だった。

タイトル、日付と演者は次のとおり。

- ・ 富士山の野鳥と垂直分布～どの鳥がどの高さに棲んでいるのか～（4月20日・森本 元）
- ・ 鳥の木登り、ヒトの木登り（5月18日・仲村昇）
- ・ 拾われた珍鳥はどうなる？—標本材料収集の現場から（6月15日・浅井芝樹）
- ・ 博物画家・小林重三と日本の三大鳥類図鑑（7月20日・園部浩一郎）
- ・ 白い羽色異常はどういう仕組みで起きる？（8月17日・浅井芝樹）

- ・ フクロウの翼のひみつ～その知られざる苦勞～（10月19日・山崎剛史）
- ・ 協力したり、独占したり、託したり、だましたり～鳥達の多様な繁殖の仕方～（12月14日・油田照秋）
- ・ 小型ツグミはどこへ行った？～変化した昔の「ヒタキ科」の分類～（1月18日・平岡考）
- ・ 3種のカワセミの謎～山階鳥研のステンドグラス～（2月15日・鶴見みや古）
- ・ ヤンバルクイナ野生復帰の現状と課題～放鳥の技術開発から～（3月15日・平岡 考）

#### （2-4）問合せ対応

山階鳥類研究所では、一般、行政、警察、マスメディア等から電話、電子メール、郵送等で多数の問い合わせを受ける。平成30年度は、一旦受けた後に別の部署に回したものも含め、480件の問い合わせに対応した。これは所内の別の部署で直接受けた問い合わせ件数を含まない。

平成30年度広報対応質問内訳(分野別・分類群別・質問者別・通信手段別)

		件数	百分率
分野別	識別同定	159	33%
	生態	138	29%
	形態・構造・体色・器官・機能	31	6%
	救護・保護	28	6%
	標識	11	2%
	保全	9	2%
	鳥害	8	2%
	名称・文化・歴史・伝説(伝承)	7	1%
	標本	6	1%
	機能・生理	5	1%
	鑑定	2	0%
	監修	2	0%
	飼育	2	0%
	分類	2	0%
	鳥の生物学一般	1	0%
	学名・英名・和名	1	0%
	その他	68	14%
	合計	480	100%
対象分類群(科)	カモ	38	8%
	タカ	38	8%
	ハト	28	6%
	ツバメ	23	5%
	ヒタキ	20	4%
	カラス	20	4%
	フクロウ	20	4%
	キジ	17	4%
	スズメ	15	3%
	アホウドリ	15	3%
	カモメ	14	3%
	ホオジロ	11	2%
	サギ	10	2%
	インコ	9	2%
	地域の鳥	8	2%
	シギ	7	1%
	ウグイス	7	1%
	鳥類全般/鳥一般	7	1%
	ヒヨドリ	6	1%
	ハヤブサ	6	1%
	アトリ	6	1%
	カッコウ	6	1%
	ムクドリ	6	1%
	シジュウカラ	5	1%
	ツル	5	1%
	セキレイ	5	1%
	キツツキ	5	1%
	チドリ	5	1%
	ムシクイ	5	1%
	ミズナギドリ	4	1%
	ウ	4	1%
	カイツブリ	4	1%
	カワセミ	3	1%
	コウノトリ	3	1%
	ペンギン	3	1%
	メジロ	2	0%
	クイナ	2	0%
	モズ	2	0%
	エナガ	2	0%
	フラミンゴ	2	0%
	ヒバリ	2	0%
	渡り鳥(全般)	1	0%
海鳥全般	1	0%	
ウミツバメ	1	0%	
チメドリ	1	0%	
カササギヒタキ	1	0%	
その他	75	16%	
合計	480	100%	
質問者	個人	283	59%
	報道出版関係(うちNHK関係 43件)	163	34%
	一般事業会社・諸団体	23	5%
	官公庁・警察	11	2%
	教育関係(学校,博物館など)	0	0%
	合計	480	100%
通信手段	電話	275	57%
	e-mail/FAX	189	39%
	手紙・葉書	9	2%
	来所面談	3	1%
	Facebook、Twitter	4	1%
	合計	480	100%

### (3) 顕彰事業 事業費 1,315 千円

山階芳麿賞は、我が国の鳥学研究の発展と鳥類の保護活動に寄与された個人あるいは団体を顕彰する目的で設けられた賞で、現在は隔年に贈呈している。第 20 回山階芳麿賞は、選考委員会を、4 月 16 日と 6 月 12 日に開催した。その結果、江崎保男 兵庫県立大学教授・兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長を受賞者と決定した。

7 月 2 日にグランドハイアット東京（東京都港区）にて、東日本地区賛助会員の集いにあわせて、第 20 回山階芳麿賞贈呈式を開催し、総裁秋篠宮殿下から、江崎保男教授に表彰状と記念メダルを贈呈した。さらに、共催の朝日新聞社の町田智子上席執行役員 CSR 担当より副賞（朝日新聞社賞）として楯と賞金 50 万円が贈呈された。

9 月 29 日に東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区）にて「第 20 回山階芳麿賞記念シンポジウム『コウノトリ野生復帰と生物多様性の保全～鳥類生態学と応用生態工学の出会い～』（主催：（公財）山階鳥類研究所、共催：朝日新聞社、後援：我孫子市）を開催し、142 名の来場者があった。講演 2 題とコメントの後で、会場から受けた質問をもとに質疑応答を行った。講演タイトルと演者ならびにコメンテーターは次の通り。

- ・ 「日本の人と自然から野生復帰からみえてくるもの」 江崎保男 兵庫県立大学教授・兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長
- ・ 「湿地とコウノトリ～大規模野外研究の成果～」 佐川志朗 兵庫県立大学教授・兵庫県立コウノトリの郷公園研究部長
- ・ 「コメント」 萱場祐一 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ長

なお、9 月 29 日のこのシンポジウムの開催の告知のため、インターネット動画「第 20 回山階芳麿賞記念シンポジウム プロモーション・ビデオ」（4 分 30 秒）を動画公開サイト Youtube に公開した。

### 4. 山階武彦助成事業（事務局）事業費 1,984 千円

8 名に対し合計 1,984 千円の助成を行った。昭和 59 年度～平成 30 年度累計で 155 人に対し総額 53,529 千円の助成を行ったことになる。なお、公益という観点から、平成 24 年度の申請分（平成 25 年度実施分）からは助成対象者を外部（山階の所員ではない）者に限定している。平成 30 年度助成対象者 8 名の氏名、所属、出席した会議等の名称、開催地、助成金額を以下の表にまとめる。

助成対象者	所属機関及び職位	会議等名称・開催地・目的	助成金額 (千円)
風間健太郎	北海道大学水産科学院	欧州 3 か国の洋上風力発電施設の視察と鳥類保護・調査研究機関の訪問 イギリス、スコットランド、デンマーク 世界有数の欧州における洋上風力発電導入の現状と鳥類への影響軽減策および影響評価手法を学ぶ	260
田中博人	東京工業大学	SICB2019 アメリカフロリダ州タンパハチドリの羽の曲げ弾性がホバリング中の翼変形と空気に及ぼす影響の実験的研究	250
飯島大智	東邦大学地理生態学研究室	The 27th International Ornithological Congress カナダバンクーバー 乗鞍岳における鳥類の垂直	250

		分布（ポスター発表）	
小田谷嘉弥	我孫子市鳥の博物館	ドイツベルリン博物館、イギリスロンドン自然誌博物館 チョウシャクシギの比較分類学的研究のための標本調査	224
久井貴世	北海道大学大学院文学研究科	The27th International Ornithological Congress カナダバンクーバー 江戸時代の北海道における和人とアイヌの公益活動（共同発表）	250
天野一葉	滋賀県立琵琶湖博物館	The27th International Ornithological Congress カナダバンクーバー 遺伝情報に基づく外来鳥類の駆除管理ユニットの開発	250
斎藤美保	京都大学大学院理学研究科 野生動物研究センター	North American Congress for Conservation Biology NACCB 2018 カナダトロント、オンタリオ州 タンザニアカタヴィ国立公園に生息するキリンの休息場と子育て場の環境選択に関する研究（口頭発表）	250
辻大和	京都大学霊長類研究所	ヒヨケザルの生態調査 インドネシア西ジャワ州バカンダラン自然保護区 ヒヨケザルの保全に向けた基礎的研究	250
合計8名			1,984

なお、H29年度助成対象の庄司晶子氏より余剰金22,780円の入金あり、その結果本年度の支出は1,961,639円となった

## II. 文部科学省科学研究費補助金（特定奨励費）による研究事業

研究事業名：日本最大の鳥学関連資料の維持管理・拡充・公開に関する研究事業

（採択年度 平成30～32年度3年間 各年度事業費56,000千円）

### 目的：

当研究所には、鳥学とその関連分野の発展を支える基盤として、国内はもとより世界的にも第一級の重要性を持つ資料が保管されている。このため当研究所はこの分野を専門とする日本人研究者、東アジア・太平洋地域の鳥類に興味を持つ外国人研究者にとって、欠くことのできない研究の拠点となっている。しかし、当研究所が保有する資料の中には、例えば剥製標本のように、適切な管理を怠れば、昆虫による食害やカビの発生等によって、その価値がすぐに失われてしまうものが多数含まれている。そこで次の目的を設定する。

- ① 維持管理のための適切な処置を資料に施し、それを時代に受け継ぐ。
- ② 資料群の拡充に注力する。人間の活動の影響を受け、鳥類の世界が急速に変わりつつある現代の資料を収集し、次代に託すことは、資料の作成と長期保管のノウハウを持つ当研究所が果たすべき責務である。
- ③ 当研究所が保有する資料の一層の活用の促進、当研究所が蓄積してきた知識・技術の社会への還元を企図し、情報公開とネットワーク構築に取り組む。

**実施体制：**

- (0) 総括班 責任者 奥野卓司 (所長)
- (1) 資料の維持管理班 責任者 鶴見みや古 (コレクションディレクター)
- (2) 資料の拡充班 責任者 山崎剛史 (自然誌研究室室長)
- (3) 情報公開とネットワーク構築班 責任者 平岡考 (広報コミュニケーションディレクター)

**30 年度実施状況：**

**(0) 総括班**

**平成 30 年度意見交換会の開催**

開催日：平成 30 年 9 月 5 日 (水)

開催場所：東京大学農学部フードサイエンス棟

出席者：特任研究員、総括班メンバー、客員研究員、フェロー、外部有識者、総裁、職員等、合計 46 名

**平成 30 年度研究成果発表会の開催**

開催日：平成 31 年 1 月 25 日 (金)

開催場所：東京大学農学部フードサイエンス棟

出席者：公官庁幹部、総括班メンバー、特任研究員、客員研究員、フェロー、総裁、顧問、理事・監事、評議員、職員等、計 52 名

**(1) 資料の維持管理班**

**【資料の保守業務】**

標本庫・書庫の温湿度を一定の状態に保った。害虫・カビをモニタリングした結果、徘徊性昆虫等の侵入が確認されたため、庫内の徹底した清掃と文化財収蔵施設用防虫剤の噴霧を実施した。破損資料の修復については、図書資料 160 点を処理した。

**【資料の整理業務】**

標本 567 点、組織サンプル 442 点、図書資料 1, 286 点を新たに保管庫に配架した。

**【利用者対応】**

標本・図書資料の閲覧者数は、のべ 155 人であった。博物館 4 館に標本 956 点を貸し出した (うち 361 点は前年度から継続中の寄託。592 点は新規の寄託。3 点は企画展への貸し出し)。出版社 1 社に写真 1 点を提供した。文献複写依頼 5 件 15 文献を受け付けた。組織サンプルについては 9 件を審査し、7 件について提供を行った。

**(2) 資料の拡充班**

**【資料の拡充】**

標本・図書資料については大型コレクションの寄贈受け入れがあり、それぞれ 3, 378 点、1, 419 点を入手した。組織サンプルについては 442 点を集めた。

**【データの拡充】**

X線CT画像、電子顕微鏡画像、紫外線画像、DNAバーコードデータをそれぞれ 157 点、78 点、106 点、82 点作成した。

**(3) 情報公開とネットワーク構築班**

**【インターネットによる情報公開】**

標本データベースと蔵書検索システムを継続運用した。平成 30 年度の閲覧者数は『標本データベース』がのべ 976, 011 人、『蔵書検索システム』がのべ 167 人であった。また、今年度新たに標本 650 点と、図書資料 1, 626 点の情報を追加した。

組織サンプルの外部研究者への提供のために、所蔵する組織サンプルのリストをアップデートした。



鳥体内構造のX線CT画像データ、羽毛の走査電子顕微鏡画像データ、羽色の紫外線画像データをそれぞれ154、66、97点ずつ公開した。

DNAバーコードデータベース(BOLD System)に、84点のDNAバーコードデータを登録・公開した。

#### 【その他の情報公開】

『山階鳥類学雑誌』の第50巻1号、2号を発行した。J-Stageに公開したPDFの今年度閲覧者数は10,274人であった。一般からの質問を受け付ける窓口(電話・Eメール)を開設し、毎週月曜日、水曜日、金曜日に専任のボランティアスタッフを置いて質問に答えた。

我孫子市鳥の博物館にて一般向けセミナーを年10回開催し、のべ344人が参加した。また、11月3、4日に開催されたジャパンバードフェスティバルにおいて同様のセミナーを22回行い、のべ756人が参加した。

野外調査講習会を11月15日に山階鳥類研究所、3月2日に愛知県名古屋国際センターで開催した(参加者のべ29名)。

野外調査実習については、陸鳥対象を福島県で6回(参加者のべ12人)、海鳥対象を青森県で3回(参加者のべ13人)実施した。

標本作製実習を2月25～3月1日、3月13日、3月22日に山階鳥類研究所で実施した。また、6月23日に我孫子市鳥の博物館、7月15日に富良野市博物館、10月21日に佐渡トキ交流センターでも実施した(参加者のべ33人)。

新たな和名を整備し、山崎剛史・亀谷辰朗『鳥類の目と科の新しい和名(1)非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類』を山階鳥類学雑誌第50巻2号に掲載した。

#### 【ネットワーク構築】

地方博物館とコンソーシアムを作って標本情報を共同で発信することを目指した活動では、パイロットケースとして我孫子市鳥の博物館の標本コレクションを対象に1,340点の写真撮影を行った。また、これらの標本データの整形作業を進め、コンソーシアムデータベースのデザインを検討した。

### III. 科学研究費補助金(除 特定奨励費)による研究事業

#### 1 「島の鳥の適応放散はなぜ起きるか—数理モデルと幾何学的形態測定学によるアプローチ」

・基盤研究C(基金)H30～R2

・代表者：山崎剛史 自然誌研究室室長

・30年度 直接経費：1,500千円

本研究では(1)「なぜ強い海上分散力を持つ鳥類が狭い群島内で適応放散を起こすことができるのか?」、(2)「島で適応放散を起こす鳥と起こさない鳥はどう違うのか?」を問うた。

(1)については、強い海上分散力を持つ飛翔性鳥類に特化した数理モデルを構築し、島の適応放散の初期過程に関するシミュレーションを行った。群島が何個の島からなるか、島間の環境は一樣か・多様か、個体間に競争があるかないかなど、さまざまな初期値についてシミュレーションを実施した。その結果、島間の環境が異なり、個体間の競争が激しい場合には、海上分散力が急速に失われることがわかってきた。

(2)については、「鳥類においては一般にくちばしの形状に対する進化的制約が非常に強く、それが例外的に弱まったグループでのみ、島の鳥の適応放散が起こる」との説が出されている(進化的制約の解除説)。この説を検証するため、カラス類の頭骨を対象に幾何学的形態測定学の調査を実施した。その結果は、この仮説に対してネガティブなものであった。この結果はEcology & Evolution誌上に発表された。また、同じく同仮説の検証のため、スミソニアン博物館からクイナ科鳥類の頭骨標本を借り受け、CTスキャンを実施した。

なお、本研究課題は、当研究所の山崎研究員を代表者、慶應義塾大学の荻原直道教授と帝京科学大学の島田将喜准教授、東邦大学の土岐田昌和講師、高知工科大学の小林豊准教授を分担者とした研究体制としている

#### 2 「構造色由来の色彩個体差の発生機構～性選択における構造色の意味を探る～」

・基盤研究C(一般)H30～R2

・代表者：森本元 保全研究室兼自然誌研究室

・30年度 直接経費：1,300千円

本研究課題は、当研究所の森本研究員を代表者、東京大学博物館の松原始特任准教授と長崎大学の山口典之准教授を分担者とした研究体制で3年間(2018-2020年度)実施される。本研究は鳥類の色彩における構造色の発生機構の個体差を調べ、さらに、性選択といった動物の行動に関わる事象において、色彩という視覚信号がどのような機能を有しているかを探索する研究テーマである。構造色は様々な生物で見られる発色様式だが、鳥類の羽毛における発色機構は、鳥類ゆえの特徴を示す。代表者である森本研究員は総括、野外調査、顕微鏡解析、色彩分析を担う。研究プロジェクト

1 年目である今年は、野外や飼育下の個体からのサンプルとしての羽毛の収集、各種鳥類の構造色の情報整理と測定、特定種における羽毛微細構造の解明に重点をおいて研究を推進した。加えて、アウトリーチといった社会への情報発信も重視した。雑誌での記事および学会発表等、シンポジウムにおける招待講演等で、成果を発表した。

### 3 「明治期国立博物館所蔵鳥類学標本群成立過程の解明と標本情報の現代的意義に関する研究」

- ・基盤研究 C (基金) H28~30
- ・代表者：加藤 克 北海道大学助教
- ・分担者：小林さやか 自然誌研究室 専門員
- ・分担事業：標本情報収集/データ管理
- ・30年度 直接経費：325 千円

本研究では、山階鳥研に所蔵する明治・大正初期に収集された帝室博物館旧蔵鳥類標本コレクションについて調査研究を進めている。本年度は1877年に日本政府とパリ国立自然史博物館が交換した鳥類標本について、パリ国立自然誌博物館で当時の台帳類や日本から送られた標本などを調査した。また、1800年代にスミソニアン博物館と帝室博物館の前身が交換した鳥類標本について、スミソニアン自然史博物館において日本から送られた鳥類標本を調査した。スミソニアン博物館との交換標本の一部の成果は、日本鳥学会の「Ornithological Science」に投稿した。

### 4 「人為的環境変化によるリュウキュウコノハズク二系統の同所化と浸透性交雑に関する研究」

- ・基盤研究 B (基金) H28~30
- ・代表者：高木昌興 北海道大学 教授
- ・分担者 齋藤武馬 自然誌研究室
- ・分担事業：遺伝解析
- ・30年度 直接経費：30千円

研究代表者、北大の高木昌興教授との共同研究。リュウキュウコノハズクの繁殖分布域である、鹿児島県と沖縄県にまたがる南西諸島の島々(中之島、奄美大島、徳之島、南大東島、沖縄本島、伊平屋島、伊是名島、座間味島、久米島、宮古島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島)と福岡県の沖ノ島の全15島について、繁殖個体の遺伝的性質を調べた。各島で繁殖する個体の遺伝的差異を調べるために、進化速度が速く、地域個体群間の遺伝的差異を検出しやすいとされる、ミトコンドリアDNAの調節領域(Control region)と種判別に有用なCOI領域を用いて、それぞれの塩基配列を解読した。

### 5 「電柱鳥類学：電柱・電線を介した都市における人と鳥との共生関係の実態解明」

- ・基盤研究 B (補助金) H29~R2
- ・代表者：三上 修 北海道教育大学 教育学部准教授
- ・分担者：森本 元 保全研究室研究員
- ・分担事業：野外調査、行動解析
- ・30年度 直接経費：230千円

本研究課題は、北海道教育大の三上修准教授を代表者、石川県立大の上野裕介准教授と山階鳥研の森本元研究員を分担者とした研究体制で4年間(2017-2020年度)実施される。本研究は電柱・電線の存在が、鳥類多様性に影響する良い面・悪い面を総合的に評価する研究課題である。日本の全国のあらゆる都市に見られる、電柱・電線は、どの都市にも必ず存在する主要な構成要素の一つである。このような環境を、鳥類は巧みに利用しており、さえざる場所・餌を探す場所・巣場所等に使用している。これは、人間が作り出した環境が野生生物へ提供され、利用されるという都市生態系が構築されているといえよう。分担者である森本研究員は、野鳥による電柱電線利用状況の、関東地方での野外調査を担うと共に、日本鳥学会において電柱・電線を利用する鳥類の構成と利用傾向を発表するなど本課題を遂行した。我孫子市鳥の博物館における2018年度企画展「我孫子の都市鳥—都市の発展と鳥たちの移り変わり—」では、特設コーナー「電柱鳥類学」の展示を実施した。

## 6 「河川の砂礫地減少の影響を受ける鳥類の渡り経路、越冬地および重要な中継地の解明」

- ・基盤研究 C (基金) H29～R1
- ・代表者：笠原 里恵 弘前大学 農学生命科学部 研究機関研究員
- ・分担者：森本 元 保全研究室研究員
- ・分担事業：野外調査での追跡装置装着
- ・30年度 直接経費：150千円

本研究課題は、弘前大学の笠原里恵研究員を代表者、東京都市大の北村亘准教授と山階鳥研の森本元研究員を分担者とした研究体制で3年間（2017-2019年度）実施される。本研究は、絶滅危惧種であるシロチドリ・コチドリを中心的な研究対象として、河川の砂礫地に生息するチドリ類の生息上の重要地を明らかにし、水辺環境の保全や生態系管理の提言へ繋がる研究成果を目指すものである。日本の河川の多くは、洪水対策の護岸など、人間の管理下にある。他方、護岸管理が進み、攪乱・反乱環境が減少したことにより、河川の砂礫地の多くでは、砂や石が裸出した河川敷の樹林化が進行している。その結果、かつては普通種であったこれらの環境を利用する前述のチドリ類は、繁殖地や渡りの中継地を失う危機に瀕している。本研究は、追跡装置の装着により、こうした重要地の解明を明らかにすることを旨とする。森本研究員は分担者として、本年度は野外調査補助などを担った。現在、得られた成果の論文を代表者が筆頭著者として分担者とともに投稿中である。

## 7 「高山体ガレ場に生息するヒバリ個体群の生活史適応と遺伝構造の解析」

- ・基盤研究 C (基金) H30～R2
- ・代表者：上田 恵介 立教大学 名誉教授
- ・分担者：森本 元 保全研究室研究員
- ・分担事業：野外調査での追跡装置装着
- ・30年度 直接経費：300千円

本研究課題は、立教大学の上田恵介名誉教授を代表者、北海道教育大学の三上修准教授、東京農業大学の白木彩子准教授、東海大学の松井晋講師と山階鳥研の森本元研究員を分担者とした研究体制で4年間（2018-2021年度）実施される。本研究は、里の鳥と考えられているヒバリについて、山地のガレ場に生息するという特徴的な生態を明らかにするとともに、山地における生息状況や生活史適応といった知見の蓄積、および山地におけるヒバリ集団の遺伝構造の解明を目的とした研究成果を目指すものである。森本研究員は分担者として、本年度は野外調査補助などを担った。主に富士山地域において、標高2000m近くに生息するヒバリ集団の野外調査を実施した。また、研究のアウトリーチ活動として、その生態がNHKの生物番組「ダーウィンが来た」で紹介され放送された。その際、森本研究員は代表者の上田名誉教授とともに、富士山麓にて番組制作の作業を担い、撮影対象の発見や観察、撮影への助言といった取材協力をおこなった。

## 8 「微細構造を活用した生物のやわらかい飛行と遊泳の原理解明と実装」

- ・新学術領域研究 (補助金) H30～R4
- ・代表者：田中博人 東京工業大学准教授
- ・分担者：山崎剛史 自然誌研究室室長
- ・分担事業：形態学的解析
- ・30年度 直接経費：900千円

本研究は新学術領域「ソフトロボット学の創生：機電・物質・生体情報の有機的融合」（領域代表鈴木康一東京工業大学教授）の計画研究の一つとして実施された。鳥類の高度な飛行力、遊泳力について理解を深めるため、研究所の所蔵

標本を用いた 3 つのケーススタディを実施した。(1) ハチドリおよびその近縁種を対象にして翼のどの部位が相対的に硬く、どの部位が相対的に柔らかいかを測定した。(2) ペンギンの体表の微細をレーザー顕微鏡で観察した。(3) フクロウの翼の前縁部にある鋸歯構造の発達を種間で比較した。(1)~(3)のいずれについても、得られたパターンを高度な飛翔力、遊泳力に関連づけ、考察した。

#### I V. 民間助成金による研究事業

##### 1 公益信託サントリー世界愛鳥基金 活動助成

- ・活動名：琉球諸島のアジサシ類の保全
- ・責任者：尾崎清明 副所長
- ・29年度助成額：2,000千円

琉球諸島の無人島に生息するアジサシ類（ベニアジサシ・エリグロアジサシ：絶滅危惧Ⅱ類など）の営巣数は近年、減少傾向が著しい。マリンレジャーの活発化などによる営巣阻害が一因と推測されるが、情報不足である。また越冬地、渡り中継地に関する詳細は分かっておらず、効果的な保全ができない。そこで、29年度は渡嘉敷村慶伊瀬島での繁殖状況調査を実施するとともに、繁殖個体にGPS ロガーとジオロケータを装着した。今年度の繁殖状況は良好で、4種合計で約1,200 巣が確認された。レジャー施設の職員とマスコミ関係者に、保全の重要性を啓発した効果があったと思われる。

##### 2 嵐山通船

- ・活動名：「鶺鴒」に関する比較文化誌的研究
- ・責任者：奥野卓司 所長
- ・30年助成額：500千円（H30/1～H30/12）
- ・31年助成金：500千円（H31/1～R1/12）

初年度である平成30年は、京都嵐山、岐阜長良川を中心に、全国12カ所の鶺鴒地の観察調査を行ったが、鶺鴒シーズンに西日本豪雨や台風のみまわれ、各地で大幅な期間短縮に追い込まれた。この他、日立市鶺鴒の岬のウミウ捕獲場での観察、渡りの南端の山口県壁島での越冬状況、土居ヶ浜遺跡の鶺鴒を抱いている弥生人の人骨を見学した。また、サンパウロ大学動物学博物館のシルベイラ教授と山階鳥研の研究者との学術交流を行ったので、今後は中国のカワウによる放ち鶺鴒、ペルーの天野博物館の調査など、国際的な視点で鶺鴒文化を継続的に調査するとともに、鶺鴒サミットなどでの世界で鶺鴒文化の報告をしていく。

##### 3 森村豊明会助成金

- ・活動名：世界の鳥類学研究を支えるDNA研究サンプルの保存と維持活動
- ・責任者：浅井芝樹 研究員
- ・助成額：2,808千円（H30/10～R1/9）

当研究所が行ってきたDNA研究用組織サンプルの管理収集を継続するためには、保管用の超低温冷凍庫（-80℃）が必要であるが、使用中の冷凍庫2台は標準的耐用年数の10年を越えて不調をきたしており、故障などによって使用できなくなる恐れがあった。交換を待たずに故障などした場合、これまでに収集した1万件以上のサンプルを一度に失う恐れもあったため、本助成金により2台の冷凍庫の交換を行った。これによりDNA研究、組織サンプルの提供、収集活動を継続して実施している。

## V. 保全研究室 受託・請負事業

平成30年度の受託および請負事業は以下の通りである。

	発注者	受託・請負事業等の名称	金額 (円)	備考
1	環境省 自然環境局 生物多様性センター	平成30年度鳥類標識調査委託業務	35,090,000	受託随意 契約
2	東京都小笠原支庁	アホウドリモニタリング調査委託	11,556,000	受託随意 契約
3	国立大学法人宮崎大学	奄美・琉球における遺産価値の高い森林 棲絶滅危惧種に対応する保全技術開 発・ヤンバルクイナの野生復帰技術開発	4,248,692	受託 環境研究 総合推進 費研究分 担
4	一般社団法人バードラ イフ・インターナシヨ ナル東京	岡山県におけるブッポウソウの調査研 究	800,000	受託 共同事業 契約
5	環境省	平成30年度シギ・チドリ類追跡業務	1,998,000	請負随意 契約
6	環境省	平成30年度日中韓ズグロカモメワー クショップ開催支援業務	324,000	請負
7	環境省自然環境局 生物多様性センター	平成30年度重要生態系監視地域モニタ リング推進事業(海鳥調査)	13,446,000	請負一般 競争入札
8	環境省 自然環境局 生物多様性センター	平成30年度鳥類標識足環の購入	2,890,000	請負随意 契約
9	環境省 自然環境局 生物多様性センター	平成30年度鳥類標識足環の追加購入	2,498,000	請負随意 契約
10	環境省 自然環境局 生物多様性センター	平成30年度調査用具(かすみ網)の調 達及び管理業務	600,750	請負随意 契約
11	環境省 自然環境局 生物多様性センター	平成30年度調査用具(かすみ網)の追 加調達及び保管業務	2,764,800	請負随意 契約
12	環境省関東地方環境事 務所	平成30年度国内希少野生動植物種(ア ホウドリ)保護増殖事業	1,674,000	請負一般 競争入札
13	国立大学法人鳥取大学	野鳥捕獲及び検体採取業務(北海道)	1,674,000	請負随意 契約
14	国立大学法人鳥取大学	野鳥捕獲及び検体採取業務(鳥取、兵庫、 岡山)	4,428,000	請負随意 契約
	合計13件		90,310,242	

(注) 第4項 一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京 岡山県におけるブッポウソウの調査研究」は、  
ダウ・ケミカル日本株式会社による「ダウ・ケミカル日本 CSR 活動支援業務」の助成のもと実施される「岡山県にお  
けるブッポウソウの調査研究」の一部を、バードライフ・インターナショナル東京からの依頼により共同で実施したもの  
である

## H30年度 事業報告 保全研究室 補足説明

保全研究室が行っている鳥類標識調査講習会(通称バンダー講習会)について:

イ)バンダーとは鳥類標識調査(バンディング)を行う調査員のことである。バンダー講習会は、山階鳥類研究所が委

託を受けて行っている環境省事業の鳥類標識調査を支えているボランティアバンダー育成のため、山階鳥類研究所が行っているものである。

ロ) 講習は2回の実技講習と1回の講義講習で構成されており、実技講習は山階鳥類研究所職員が実施する鳥類標識調査中に個人指導を受ける形で行われる。講義講習は年1回山階鳥類研究所で行われ、鳥学の基礎から捕獲方法、種や年齢の識別、データ入力、法令、海外情報など調査に必要な広範囲の講義内容である。

ハ) 今年度は実技講習として、9～10月に北海道で2名、10～11月に新潟県で6名、10月に福井県で1名が受講し、その内7名が12月に山階鳥類研究所で行われた講義講習に参加した。すべての講義を修了した受講生全員8名が平成31年4月から新バンダーとして活動を開始する。

## VI. その他

### 1 下村兼史写真展

「下村兼史生誕115周年-100年前にカワセミを撮った男・写真展」(主催：(公財)山階鳥類研究所)を、有楽町朝日ギャラリー(東京都千代田区)で、9月21日～26日に開催し、来場者は1,957人だった。下村兼史(1903-1967)は日本の鳥類生態写真のパイオニアで、没後に遺族から寄贈された資料を山階鳥研が所蔵している。おもに平成17～20年に文部科学省科学研究費補助金(特定奨励費)によって、この資料の主要な部分を整理し、その結果を受けて、今回の写真展が実現した。この事業のために(公財)朝日新聞文化財団から助成を受けた。

### 2 職場体験学習生受け入れ

職場体験学習生2名を受け入れた。

- ・平成30年10月29日 千葉県流山市立東深井中学校 2年生2名

### 3 Bernice Pauahi Bishop Museum (米国、ハワイ州)との連携協定締結

平成31年2月16日、学術交流と協力についての連携協定を締結した。特にハワイミツスイ類の適応放散の研究と保護に焦点を定める。

### 4 京都市動物園との連携協定締結

京都市動物園と相互連携を強化することで双方の野生動物に関する研究及び教育の事業を更に発展させるために協定書を締結した。

連携に内容は(1)京都市動物園で飼育する動物の研究に関する事項、(2)京都市動物園における環境教育及び生涯学習に関する事項、(3)野生動物、特に絶滅危惧種の保全に関する事項、(4)京都市動物園及び山階鳥類研究所が有する学術情報、資料及び試料の提供等に関する事項、(5)SDGs17(持続可能な17の開発目標)に関する事項である。

12月11日に京都市動物園イーストギャラリーにて、山階鳥類研究所を紹介するポスター展示企画展を開催、1月20日には京都市動物園レクチャールームにて、連携記念シンポジウム「鳥類系統学のいまーハヤブサはワルぶったインコなのかー」を開催した。

## 【収益事業】

●東京都渋谷区南平台町に所有するマンション3室を賃貸し、その収益を公益目的事業の用に供する。

### 1. 103号室

専有面積：104.81平方メートル

賃料月額：350千円

敷金：700千円(賃料の2ヶ月相当額)

更新料：なし(賃料に含む)

契約期間：平成29年9月23日～令和元年9月22日(2年間)

### 2. 104号室

平成29年5月1日をもって収益事業財産となった(旧公益目的事業財産)。

専有面積：122.57平方メートル

賃料月額：500千円

敷金：2,000千円(賃料の4ヶ月相当額)

更新料：500 千円（新賃料の1ヵ月分相当額）

契約期間：平成29年7月1日～令和元年6月30日（2年間）

### 3.204号室

専有面積：113.27平方メートル。

賃料月額：360千円

敷金：720千円（賃料の2ヶ月相当額）

更新料：新賃料の0.5ヶ月分

契約期間：平成29年11月20日～令和元年11月19日（2年間）

以上

## Ⅲ-3. 保全研究室の事業活動

H30 年度は以下の内容で業務を受託または請負い、調査・研究を行った。( )内は業務の委託者および担当者。

### 1. 鳥類標識調査・モニタリング

- 鳥類標識調査委託業務 (環境省自然環境局生物多様性センター)

鳥類の渡り状況の推移を把握するため、全国各地のボランティア調査員約 400 名の協力を得て、野鳥を捕獲し個体識別用金属足環を装着、放鳥した。主要ステーションでは定量評価の可能な調査を実施し、得られた放鳥回収データはデータベース化した。鳥類観測ステーションの建築物および物品・消耗品類の点検を行った。検討会を実施し事業の評価と改善点の検討を行った。ボランティア調査員育成のための講習会を開催した。業務報告書・調査報告書を作成した。(出口・佐藤・仲村・富田・森本・吉安・千田)

- 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (海鳥調査) (環境省自然環境局生物多様性センター)

検討会を開催し、調査結果等について検討した。北海道大黒島、青森県弁天島、岩手県三貫島、東京都聳島列島、福岡県三池島、鹿児島県奄美諸島、沖縄県沖縄島沿岸離島・宮古群島・八重山諸島・仲ノ神島の各海鳥繁殖地において、繁殖数および個体数をモニタリングした。調査結果を過年度のデータと比較解析し、経年変化を明らかにした。第3期調査結果のとりまとめ方針を検討した。業務報告書・調査報告書を作成した。(佐藤・富田)

- 鳥類標識足環の購入 (環境省自然環境局生物多様性センター)

鳥類標識調査に必要な個体識別用金属足環を購入し、全国の協力調査員に配布した。(仲村)

- 鳥類標識足環の追加購入 (環境省自然環境局生物多様性センター)

鳥類標識調査に必要な個体識別用金属足環を追加購入した。(仲村)

- 調査用具 (かすみ網) の調達及び管理業務 (環境省自然環境局生物多様性センター)

鳥類標識調査に必要な捕獲用かすみ網を購入し、全国の調査協力員に貸与した。老朽化等により使用不能となった網の返納分については、直接処分場に運んで廃棄した。(仲村)

- 調査用具 (かすみ網) の追加調達及び保管業務 (環境省自然環境局生物多様性センター)

鳥類標識調査に必要な捕獲用かすみ網を追加購入した。(仲村)

- 奄美・琉球における遺産価値の高い森林棲絶滅危惧種に対応する保全技術開発・ヤンバルクイナの野生復帰技術開発 (国立大学法人宮崎大学)

ヤンバルクイナの野生復帰技術開発のため、行動追跡装置の開発、試験区域内への放鳥試験を実施し、行動や環境利用などの生態情報、生存率・死亡原因などに関する資料を収集した。(尾崎)

### 2. 保全

#### アホウドリ

- アホウドリ保全調査委託 (東京都小笠原支庁)

アホウドリ保護増殖分科会の資料を作成し、参加した。アホウドリの繁殖地の復元を図るため、雛移送が実施された聳島において、デコイや音声を使用して積極的なアホウドリの誘引を行った。また実地調査による飛来状況等のモニタリングを実施した。調査結果の取りまとめ・解析を行い、課題の整理と調査等の方向性に関する提言を行った。(出口・油田)

- 希少野生動植物種 (アホウドリ) 保護増殖事業 (環境省関東地方環境事務所)

伊豆諸島鳥島においてアホウドリのヒナに標識を装着した。繁殖地に影響を及ぼす要因の有無を調査し、必要に応じて応急処置を行った。飛来・抱卵状況のモニタリングのための自動撮影カメラを設置した。小型海鳥類繁殖地周辺に殺鼠剤を散布した。(佐藤・富田)

#### シギ・チドリ類

- シギ・チドリ類追跡事業 (環境省自然環境局野生生物課)



国内外のシギ・チドリ類渡り経路追跡のため、千葉県谷津干潟・三番瀬、北海道コムケ湖、千葉県/茨城県利根川下流域、宮城県鳥の海において、シギ・チドリ類を捕獲し、カラーフラッグを付けて放鳥した。また全国から寄せられたカラーフラッグ観察情報および回収情報の解析を行った。(出口・仲村・千田)

#### ズグロカモメ

- ・日中韓ズグロカモメワークショップ開催支援業務(環境省自然環境局野生生物課)  
ズグロカモメ保護関係者が参加するワークショップ資料を作成した。ワークショップ参加者の提案・連絡調整を行った。(尾崎)

#### カモ

- ・野鳥捕獲及び検体採取業務(北海道)(国立大学法人鳥取大学)  
高病原性鳥インフルエンザウィルスの持ち込みの可能性を検証するため、野生水禽 20 羽を捕獲し、検体を採取した。(佐藤)
- ・野鳥捕獲及び検体採取業務(鳥取、兵庫、岡山)(国立大学法人鳥取大学)  
高病原性インフルエンザウィルスの持ち込みの可能性を検証するため、野生水禽 20 羽を捕獲し、検体を採取した。鳥取県で捕獲したマガンとヒドリガモ各 10 羽を大学担当者に引き渡した。(佐藤)
- ・岡山県におけるブッポウソウの調査研究(一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京)  
ダウ・ケミカル社からの支援事業として、岡山県内でブッポウソウ成鳥 13 羽にGPSロガーを装着・放鳥した。(仲村)

### Ⅲ-4. 科学研究費補助金（特定奨励費）の研究事業

#### 平成30年度科学研究費助成事業（特定奨励費）状況報告書

1. 研究事業名等	日本最大の鳥学関連資料の維持管理・拡充・公開に関する研究事業						
学術研究諸団体の名称	公益財団法人山階鳥類研究所						
学術研究諸団体の代表者職名・氏名	職名		理事長				
	氏名	(フリガナ)	ミブ モトヒロ				
		(漢字等)	壬生 基博				
研究事業期間	平成30年度～平成32年度（3年間）						
交付（予定）額 （単位：千円）	平成30年度		平成31年度		平成32年度		総計
	56,000		56,000		56,000		168,000
平成30年度 実支出額 （単位：円）		合計	費目別内訳				
			物品費	旅費	人件費	謝金等	その他
	【計画額】 （交付申請書に記載の使用内訳）	56,000,000	4,990,000	3,789,000	22,630,000	13,730,000	10,861,000
	【実支出額】 （ ）内は利子で内数	56,000,207 (207)	6,863,334	2,533,057	22,580,276	12,983,640	11,039,900
事務担当者 連絡先	職名		事務局長				
	氏名	(フリガナ)	ミネザキ ヨシツグ				
		(漢字等)	峰崎善次				
	〒270-1145		(住所) 千葉県我孫子市高野山115				
	電話番号：04-7182-1101			F a x 番号：04-7182-1106			
	E-mail：minezaki@yamashina.or.jp						

## 2. 研究事業の目的

本欄には、事業計画書に記載の研究事業の全体構想及びその中での本研究事業の具体的な目的について記述してください。

山階鳥類研究所は、創設者である故・山階芳麿博士が皇籍を離脱した後、1932（昭和7）年に設立した山階家鳥類標本館を前身とする、アジアで最も古い鳥学専門の学術研究機関である。85年にわたるその歴史の中、当研究所は一貫して鳥学関連資料の収集に取り組み、鳥学およびその関連分野の発展を支えてきた。

標本資料については、現在、国内最大・約7万点を有するが、これは約1万種を数える世界の鳥種のほぼ半数をカバーする充実したコレクションで、とくに日本・韓国・台湾・太平洋地域の標本に富んでいる（同地域産の標本の保有数は世界最大である）。絶滅種や希少種の標本も多数含み、ミヤコショウビンの標本、カンムリツクシガモの雄標本は、世界で唯一、当研究所のみが保有している。また、新種や新亜種の報告の際の証拠とされ、動物の学名に関する規定集『国際動物命名規約』により、永続的な保管が求められるタイプ標本についても、上記の地域のものを中心に、230点もの資料を有している。

4万冊を数える図書資料についても世界的な稀覯書が含まれている。例えば、下図は19世紀のイギリスで活躍したジョン・グールドの鳥類図譜である。石版印刷で刷られたモノクロの図に職人が1点1点色を塗ることにより、カラーの図譜に仕上げられている。

このように、当研究所は、鳥学とその関連分野の発展を支える基盤として、国内はもとより、世界的にも第一級の重要性を持つ資料を保有している。このため、当研究所は、この分野を専門とする日本の研究者、あるいは、東アジア・太平洋地域の鳥類に興味を持つ外国人研究者にとって、欠くことのできない研究の拠点となってきた。しかし、当研究所が保有する資料には、例えば剥製標本のように、適切な管理を怠ると、昆虫による食害やカビの発生等により、その価値がすぐに失われるものが多数含まれている。



絶滅鳥カンムリツクシガモの標本（雌雄）、  
手前が世界に1つだけの雄標本



そこで本研究事業の第一の目的は、(1) **維持管理**のための適切な処置を資料に施し、それを次代に受け継ぐことに置かれる。また、本研究事業では、(2) **資料の拡充**にも注力する。人間の経済活動の影響を受け、鳥類の住む世界が急速に変わりつつある現代の資料を収集し、次代に託すことは、資料の作成と長期保管のノウハウを持つ当研究所が果たすべき責務である。さらに、本研究事業では、当研究所が保有する資料の一層の活用の促進、当研究所が蓄積してきた知識・技術の社会への還元を企図し、(3) **情報公開とネットワーク構築**にも取り組む。

### 3. 研究事業期間を通して行う研究事業の内容

本欄には、研究事業の目的を達成するための具体的な事業内容について、事業計画・方法等（実施体制を含む）を記述してください（研究項目を設定している場合は、研究項目ごとに記述してください。）。また、採択時の審査結果の所見及びその対応策等についても記述してください。

#### 【事業計画・方法等】

「2. 研究事業の目的」に対応する3つの研究項目 **(1) 資料の維持管理班**、**(2) 資料の拡充班**、**(3) 情報公開とネットワーク構築班**を設ける。また、**(0) 総括班**を組織し、進捗状況の自己点検と全体の統括にあたらせる。(1)～(3)の具体的な事業内容は以下の通りである。

**(1) 資料の維持管理班**：研究所が保有する (a) 標本、(b) 遺伝解析用組織サンプル（肉片・血液等）、(c) 図書資料の品質劣化を防ぐために日常的に必要な保守業務、整理業務に従事する。また、これらの資料の利用を希望する国内外の研究者をサポートし、資料の品質維持と研究への活用を両立させる。

**(2) 資料の拡充班**：野外採集、寄贈受け入れ、国内外の博物館等との交換、購入等により、(a) 標本、(b) 組織サンプル、(c) 図書資料の在庫を増やす。また、保有する資料と人材の活用により、学術的重要性と社会的ニーズが高いが、当研究所でなければ作成の難しい各種データの作成を進める（(d) 鳥体内部構造のX線CT画像、(e) 羽毛の走査電子顕微鏡画像、(f) 羽色の紫外線画像、(g) DNAバーコード）。これらのデータは、研究活動の振興のため、速やかにインターネット上に公開され、広く一般の利用に供される（下記(3)参照）。

**(3) 情報公開とネットワーク構築班**：当研究所が保有する資料、データの活用促進のため、情報公開を進める。具体的には、当研究所が運営するウェブサイト『標本データベース』<sup>\*1</sup>、『組織サンプルの利用』<sup>\*2</sup>、『蔵書検索システム』<sup>\*3</sup>において、(a) 標本、(b) 組織サンプル、(c) 図書資料の在庫状況を公開する。標本については、標本の写真、標本ラベルの写真をあわせて配信する。また、(2)で作成した(d) X線CT画像、(e) 走査電子顕微鏡画像、(f) 紫外線画像を上記『標本データベース』にて公開し、誰もが自由にダウンロードし、研究に利用できるようにする。(g) DNAバーコードデータについては、Consortium for Barcode of Lifeが運営するデータベース『Barcode of Life Data System (BOLD)』<sup>\*4</sup>から公開を行う。

<sup>\*1</sup> <http://decochan.net>; <sup>\*2</sup> [http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon\\_tosho/soshiki\\_sample.html](http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon_tosho/soshiki_sample.html); <sup>\*3</sup>

[http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon\\_tosho/toshoDB/toshoDB\\_toppage.html](http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon_tosho/toshoDB/toshoDB_toppage.html); <sup>\*4</sup> <http://www.boldsystems.org>

また、当研究所に蓄積された鳥学の知識・技術を社会に還元するため、以下の事業を行う。(h) 学術雑誌『山階鳥類学雑誌』の年2回刊行。(i) 一般からの質問を受け付ける窓口の開設。(j) 鳥学を一般向けにやさしく解説するセミナー、(k) 鳥類を対象にした野外調査のプロフェッショナルを育成するための講習会・実習、(l) 博物館・動物園等の関係者や生物系の学生に鳥類標本の作製技術を伝える実習の開催。(m) 『世界鳥類和名辞典』（山階、1986）の改訂作業。『世界鳥類和名辞典』は、現生のすべての鳥種について和名を整備した大著で、広く用いられてきたが、近年の分類学的研究の進展により、種の学名が変更になったり、多くの新種が報告されたりした結果、内容の古さが目立つようになってきた。平成27～29年度の特定奨励費事業にて作成し、意見の公募が行われた素案をもとに新和名を考案し、山階鳥類学雑誌上にて公表する。

さらに、当研究所は (n) 地方博物館とのネットワークの強化に取り組む計画を立てた。地方博物館には、鳥類標本コレクションを持つものの、予算の制約から、その在庫状況について十分な情報発信を行えていない機関も少なくない。将来的にこれらの博物館と当研究所がコンソーシアムを作り、標本コレクションの情報発信を共同で行うことを視野に入れた活動を開始する。具体的には、これまでに特定奨励費の支援を受けて構築してきたウェブサイト『標本データベース』のソースコードをもとにして、これらの博物館の情報発信が行えるデータベースの開発を進める。平成 30～32 年度は、パイロットケースとして、我孫子市鳥の博物館の標本コレクションを対象にこの作業を進める。

### 【採択時の審査結果の所見】

「貴団体は、昭和 7 年に設立された国内最大の鳥類研究所として、多数の鳥類標本と鳥類関係の文献収集を行い、それをデータベースにして広く国内外の研究者に公開している。7 万点におよぶ鳥類標本は、世界のほぼ半数の鳥類をカバーする貴重な資料である。

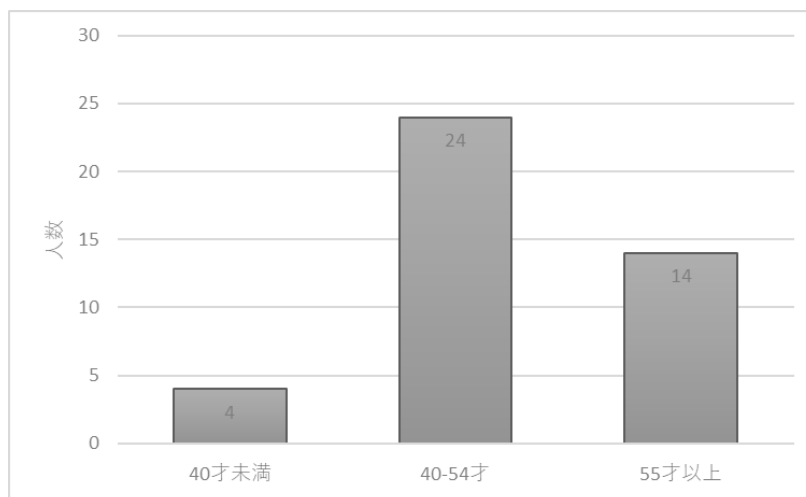
また、4 万点を越える図書資料にも世界的な稀観書が含まれている。これらの資料には学術的に大きな価値があり、散逸させることなく適切に維持管理し、更なる資料の拡充を図ることが求められる。

平成 30 年度から平成 32 年度の事業計画では、資料群の維持管理、拡充、及び情報公開を計画している。それぞれの研究事業の遂行に向けて、資料維持管理班、拡充班、情報公開とネットワーク支援班を組織し、それらの進捗管理と自己評価を総括班が行う体制を整えている。いずれの活動も他の競争的資金にはなじみにくく、特定奨励費による支援が妥当であると考えられる。

今後は、若手研究者の育成に力を入れるなど、貴重な資料の長期的な維持、拡充に向けた取組が進められることを期待する。」

### 【その対応策等】

資料の長期的な維持、拡充を考えるうえでとくに大きな問題となるのは、当研究所所員（臨時職員含む）の年齢構成である。平成 29 年度の状況を右図に示した。平均年齢は 50.5 歳で、若い世代が非常に少ないことから、長期的な事業の継続が危ぶまれる。



この問題への対策として、平成30年度には、資料の維持のために20代の所員（臨時職員）を、拡充のために30代の所員（正規職員）を新たに雇用し、トレーニングを開始した。

また、東邦大学および帝京科学大学とのあいだに結ばれていた連携大学院協定を活用し、資料の維持、拡充にあたる人材を育成する目的で当研究所所員が大学院生2名の指導を行った。日本国内には、地方の自然史博物館のように、当研究所ほどの規模ではないものの、鳥類に関するコレクションを有する機関があることもあり、指導した者のすべてが将来、必ずしも当研究所の事業に寄与するわけではない。しかし、大学院教育への参画は、裾野を広げていくための活動として重要であり、今後も継続して行う必要があるだろう。

4-1. 平成30年度の研究事業の実施体制			
研究事業の内容 (研究責任者等が担当する研究事業の内容について、研究項目名を記入してください。)	研究者氏名		所要額 (千円)
	研究責任者 (職・氏名を記入してください。)	研究者及び補助者 (研究者と補助者に分けて職・氏名を記入してください。)	
(0) 総括班	奥野卓司 (所長)	遠藤秀紀 (東京大学教授) 小川博 (東京農業大学教授) 真鍋真 (国立科学博物館標本資料センターコレクションディレクター) 美濃導彦 (京都大学教授) 綿貫豊 (北海道大学教授) 高橋敏之 (所員・事務担当)	23,864
(1) 資料の維持管理班	鶴見みや古 (コレクションディレクター・図書担当)	山崎剛史 (自然誌研究室室長・標本担当) 浅井芝樹 (研究員・組織サンプル担当) 齋藤武馬 (研究員・組織サンプル担当) 森本元 (研究員・図書担当)	10,992
(2) 資料の拡充班	山崎剛史 (自然誌研究室室長・CT/紫外線画像担当)	岩見恭子 (研究員・標本/CT担当) 小林さやか (専門員・標本担当) 鶴見みや古 (コレクションディレクター・図書担当) 浅井芝樹 (研究員・組織サンプル担当) 齋藤武馬 (研究員・組織サンプル/DNAバーコード担当) 森本元 (研究員・電頭担当)	12,189
(3) 情報公開とネットワーク構築班	平岡考 (広報コミュニケーションディレクター・質問対応/セミナー担当)	山崎剛史 (自然誌研究室室長・標本データベース/和名整備/コンソーシアム担当) 鶴見みや古 (コレクションディレクター・蔵書検索システム担当) 浅井芝樹 (研究員・雑誌編集担当) 仲村昇 (研究員・野外調査実習(陸鳥)担当) 富田直樹 (研究員・野外調査実習(海鳥)担当) 千田万里子 (専門員・質問対応/野外調査講習会担当)	8,955

		森本元（研究員・野外調査講習会担当） 岩見恭子（研究員・標本作製実習担当）	
--	--	--	--



#### 4-2. 平成30年度の進展状況及び主な成果

本欄には、上段に平成30年度の事業計画を、下段に平成30年度に行った研究事業の進展状況及び主な成果について記述してください（研究項目を設定している場合は、研究項目ごとに記述してください。）。その際、所見の反映状況、経費の効率化に向けた取組についても記述してください。

##### 【事業計画】

##### (1) 資料の維持管理班

**【資料の保守業務】** 標本庫・書庫について、(a) 温湿度管理、(b) 害虫・カビの発生状況のモニタリングと発生時の速やかな除去、(c) 清掃、(d) 破損資料の探索と修理を行う。

**【資料の整理業務】** 未整理の標本、組織サンプル、図書資料（今年度の新規収集品のほか、前年度までの収集品のうち、以下の作業が未完了のもの）について、(e)～(i)の作業を進める。(e) 資料に管理番号を与える（番号を記したラベルの装着作業等を含む）。(f) 管理に必要な情報（標本資料の場合、管理番号・種名・性別・齢・採集地名・採集年月日・採集者名・採集方法・標本の種類等の情報）をデジタル化する。(g) 標本と、古文書・古写真・書籍原画等の図書資料については、写真撮影を行い、資料の状態を記録する。(h) 図書資料については、既存資料との重複品の処分を行う（譲渡・交換・廃棄等。資料の価値によって適宜決定する）。(i) これら一連の作業を終えた資料を保管庫（標本庫・冷凍庫・書庫）に配架する。平成30年度には、標本400点、組織サンプル400点、図書資料1,000点について、これらの作業を行う。

**【利用者対応】** (k) 国内外の研究者からの資料の利用申請を随時受け付け（閲覧または貸出）、速やかに計画を審査し、適切と判断される場合には、利用の許可を与える。また、(1) 資料の利用に伴う業務も本班が担う（閲覧の場合は資料の準備、利用状況の監視、後片付け等、貸出の場合は借出書の取り交わし、梱包・発送、返却物の殺虫・殺カビ処理等）。

##### 【進展状況及び主な成果】

**【資料の保守業務】** すべての課題を計画通り実施した。

害虫・カビのモニタリングの結果、管理区域内への徘徊性昆虫等の侵入が確認されたため、庫内の徹底した清掃と、文化財収蔵施設用防虫剤の噴霧を実施した。破損資料の修復については、図書資料160点を処理した。

**【資料の整理業務】** すべての数値目標を達成した。

標本567点、組織サンプル442点、図書資料1,286点が新たに保管庫に配架された。

**【利用者対応】** すべての課題を計画通り実施した。

標本・図書をあわせ、のべ155人の閲覧者を受け入れた。博物館等4館に展示素材として標本956点を貸し出した（うち361点は前年度から継続中の寄託。592点は新規の寄託。3点は企画展への貸し出し）。出版社1社に写真1点を提供した。文献複写依頼5件15文献を受け付けた。組織サンプルについては9件を審査し、7件の提供を行った。

## 【事業計画】

### (2) 資料の拡充班

**【資料の拡充】** (a) 標本：野外で捕獲または遺体拾得した個体からの作製、他機関との交換、購入、寄贈受け入れ等により、380点の増加を目指す。(b) 組織サンプル：標本材料として保管している冷凍遺体からの作製、他機関との交換、寄贈受け入れ等により、400点の増加を目指す。(c) 図書資料：他機関との交換、購入、寄贈の受け入れ等により、80点の増加を目指す。ただし、これらの資料については、大型コレクションの寄贈受け入れがあった場合には（事前にその有無を予測するのは難しい）、目標点数を大幅に上回る資料が集まる可能性がある。

**【データの拡充】** (d) 鳥体内部構造のX線CT画像：標本の材料として保管されている鳥類の冷凍遺体や標本庫に保管されている標本をX線CTシステム（リース品。ただし、大型種については、東京大学総合研究博物館の機材を借用する）で撮影することにより、150点を作成する。(e) 羽毛の走査電子顕微鏡画像：骨格標本作製時に除去される羽毛は、従来廃棄されていたが、それを活用することにより、75点のデータを作成する。撮影は東京大学総合研究博物館の機材を借りて実施する。(f) 羽色の紫外線画像：現有の紫外線画像撮影装置と剥製標本を用いることにより、50点のデータを作成する。鳥類はヒトとは違い、紫外線を色として知覚できる。これらのデータは、紫外線の反射・吸収による紋様の有無を調べるための資料となる。(g) DNAバーコード：分析が比較的容易なCOI遺伝子の塩基配列を、現存するすべての生物について決定し、データベース化することにより、非専門家でも生物の種類を正確に同定できるシステムの構築を目指す国際プロジェクトBarcode of Lifeに協力する。日本産鳥類を主な対象としてCOI遺伝子の塩基配列決定実験を進め、70点のデータを揃える。

## 【進展状況及び主な成果】

**【資料の拡充】** すべての数値目標を達成した。

(a) 標本、(c) 図書資料については、大型コレクションの寄贈受け入れがあったため、それぞれ目標を大幅に上回る3,378点、1,419点の資料を入手できた。(b) 組織サンプルについては、442点を集めた。

**【データの拡充】** すべての数値目標を達成した。

(d) 157点のX線CT画像、(e) 78点の電子顕微鏡画像、(f) 106点の紫外線画像、(g) 82点のDNAバーコードデータを作成した。

## 【事業計画】

### (3) 情報公開とネットワーク構築班

**【インターネットによる情報公開】** (a) 標本：ウェブサイト『標本データベース』を運営し、400点の標本データ（標本の種類（剥製・骨格・卵・巣等）、標本番号、種名、性別、採集地名、採集年月日等のテキスト情報、標本写真、標本ラベル写真）を追加する。(b) 組織サンプル：ウェブページ『組織サンプルの利用』に現在の在庫状況を示すエクセルファイルをアップロードする（更新頻度年1回）。(c) 図書資料：ウェブサイト『蔵書検索システム』を運営し、1,000点の書誌情報を追加する。(d) X線CT画像、(e) 電子顕微鏡画像、(f) 紫外線画像：『標本データベース』にそれぞれ150点、75点、50点のデータを追加する。(g) DNAバーコード：ウェブサイト『Barcode of Life Data System (BOLD)』に70点のデータを追加する。

**【その他の情報公開】** (h) 学術雑誌『山階鳥類学雑誌』を2回刊行する（1巻2号）。(i) 一般からの質問を受け付ける窓口（電話・Eメール）を開設する。(j) 鳥学を一般向けにやさしく解説するセミナーを、我孫子市鳥の博物館（千葉県）にて年10回開催する。また、我孫子市が中心となって11月上旬に開かれるジャパンバードフェスティバルにおいても、同様のセミナーを行う（会場：当研究所（千葉県））。(k) 野外調査のプロフェッショナルを育成するための講習会を、当研究所（千葉県）と、くまもと森都心プラザ（熊本市）にて開催する。野外調査実習は、かすみ網による陸鳥の捕獲をテーマにしたものを福島県にて6回、海鳥の捕獲をテーマにしたものを青森県にて1回開催する。なお、これらの実習の実施場所は、平成27～29年度の特定奨励費事業において、鳥類の繁殖モニタリングデータを集めた場所と同じである。そこでは、捕獲努力量を一定に保った調査が毎年実施されており、捕獲個体数に占める幼鳥の割合等の情報が記録された。平成30年度に実施する野外調査実習は、講習生が参加している点異なるが、以前と同じ調査方法で行われる。したがって、この実習で得られる生データは、繁殖モニタリングデータとしての価値を持つ。これらの生データはすべて平成32年度に『山階鳥類学雑誌』の誌面上に公開され、一般の利用に供される。(l) 博物館・動物園等の関係者や生物系の学生に鳥類標本の作製技術を伝える実習は、当研究所（千葉県）と北海道斜里町（会場未定）にて開催する。(m) 新和名の整備については、目または科を単位にして報文をまとめ、『山階鳥類学雑誌』上で公表する。

**【ネットワーク構築】** (n) 我孫子市鳥の博物館が保有する約3,000点の標本のうち、約1,000点について標本写真・標本ラベル写真を撮影する。また、撮影した画像と、我孫子市鳥の博物館が保有するデータを用い、ウェブサイト『標本データベース』のフォーマットに合うデータを作成する。また、『標本データベース』のソースコードをもとにして、コンソーシアムのデータベースを作成する作業を進める。なお、データベースの設計は当研究所において行うが、その設計をもとにソースコードの修正を行う業務は九州大学工学部に委託する。

## 【進展状況及び主な成果】

**【インターネットによる情報公開】** 一部の数値目標を達成できなかった。

(a) 標本：ウェブサイト『標本データベース』を計画通りに運営し、目標を上回る650点の標本

データを追加した。平成30年度の同サイトの閲覧者数はのべ976,011人であった。

(b) 組織サンプル：計画通りに実施した。ウェブサイト『組織サンプルの利用』に現在の在庫状況を示すエクセルファイルをアップロードした。

(c) 図書資料：ウェブサイト『蔵書検索システム』を計画通りに運営し、目標を上回る1,626点の書誌情報を追加した。平成30年度の同サイトの閲覧者数はのべ167人であった。

(d) X線CT画像・(e) 電子顕微鏡画像・(f) 紫外線画像：目標を上回る154点のX線CT画像、97点の紫外線画像を『標本データベース』に追加した。電子顕微鏡画像については、アップロード作業を年度内に終わらせることができなかった。年度内に公開できたのは66点のみである。残り9点の画像については、令和元年6月に公開を開始する予定である。

(g) DNAバーコードデータ：『Barcode of Life Data System (BOLD)』において、目標を上回る84点のデータの配信を開始した。

#### 【その他の情報公開】一部計画を変更して実施した。

(h) 雑誌刊行：計画通り、『山階鳥類学雑誌』の第50巻1号、2号を刊行した。J-Stageに公開したPDFの今年度閲覧者数は10,274人であった。

(i) 質問対応：計画通り、一般からの質問を受け付ける窓口（電話・Eメール）を開設した。具体的には、毎週月曜日、水曜日、金曜日に専任のスタッフ（ボランティア）を置いて質問に答えた。

(j) セミナー開催：計画通り、我孫子市鳥の博物館にて一般向けセミナーを年10回開催した。のべ344人が参加した。また、2018年11月3日から4日にかけて開催されたジャパンバードフェスティバルにおいて同様のセミナーを22回行った。のべ756人が参加した。

(k) 講習会開催：野外調査講習会は会場側の都合により、場所を変更して実施した。当研究所（11月15日）、愛知県名古屋国際センター（3月2日）にて開催し、のべ29名が受講した。陸鳥を対象にした野外調査実習は計画通りに実施し、のべ12名が受講した。海鳥を対象にした野外調査実習は受講者の希望により、回数を増やし、5月から6月にかけて、3回実施した。のべ13名が受講した。

(l) 標本作製実習：当研究所での実習は計画通りに実施した（2月25日～3月1日、3月13日、3月22日）。北海道斜里町で予定していた実習は、会場確保の都合により、富良野市に場所を変更して実施した（富良野市博物館、7月15日）。このほか、計画にはないが、開講の打診を受けた2機関でも追加の実習を行った（我孫子市鳥の博物館、6月23日；佐渡トキ交流センター、10月21日）。のべ33名が受講した。

(m) 和名整備：計画通りに実施した。山崎剛史・亀谷辰朗『鳥類の目と科の新しい和名（1）非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類』を『山階鳥類学雑誌』第50巻2号に掲載した。

**【ネットワーク構築】** すべての数値目標を達成した。

(n) コンソーシアムデータベースの構築：我孫子市鳥の博物館が保有する標本の写真撮影は、目標を上回る 1,340点について完了した。また、計画通り、これらの標本について既存の標本データの整形作業を進めた。コンソーシアムデータベースのデザインについて検討した。

5-1. 経費の使用状況 (単位:円)						
研究事業の内容 (研究責任者等が担当する研究事業の内容について、研究項目名を記入してください。)	合 計	費 目 別 内 訳				
		物品費	旅 費	人件費	謝金等	その他
0. 総括	23,864,114	0	819,348	22,580,276	24,000	440,490
I. 資料の維持管理	10,991,683	1,705,041	55,526	0	7,829,420	1,401,696
II. 資料の拡充	12,188,811	4,020,411	672,798	0	2,823,480	4,672,122
III. 情報公開とネットワーク構築	8,955,599	1,137,882	985,385	0	2,306,740	4,525,592
合 計	56,000,207	6,863,334	2,533,057	22,580,276	12,983,640	11,039,900

5-2. 研究項目ごとの明細 (単位: 円)

「5-1. 経費の使用状況」に即し研究項目ごとに記入してください。

研究項目名		0. 総括		
物品費	品 名	数 量	金 額	
	計		0	
旅費	事項 (積算内訳)	数 量	金 額	
	意見交換会 旅費		458,534	
	成果発表 旅費		360,814	
	計		819,348	
人件費	事項 (積算内訳)	数 量	金 額	
	給料		22,281,456	
	社会保険料		298,820	
	計		22,580,276	
謝金等	事項 (積算内訳)	数 量	金 額	
	意見交換会 臨時職員謝金		12,000	
	成果発表会 臨時職員謝金		12,000	
	計		24,000	
その他	品 名	数 量	金 額	
	鳥研NEWS 印刷費		153,144	
	意見交換会 会議費		125,310	
	成果発表会 会議費		73,190	
	振込手数料		70,766	
	通信運搬費		18,080	
	計		440,490	

研究項目名		I. 資料の維持管理	
物品費	品名	数量	金額
	パソコン	2台	504,441
	保存用品		443,756
	文具等		234,227
	物品棚	1個	112,320
	PC関連用品		109,362
	ブックカバー作成機	1台	99,360
	冷蔵庫	1台	85,665
	デジタルカメラ	1個	60,068
	空気清浄機	1台	41,682
	標本整理作業 ガソリン代		14,160
計			1,705,041
旅費	事項 (積算内訳)	数量	金額
	打ち合わせ等交通費		55,526
	計		
人件費	事項 (積算内訳)	数量	金額
			0
	計		
謝金等	事項 (積算内訳)	数量	金額
	臨時職員謝金		7,829,420
	計		
その他	品名	数量	金額
	データ整理作業		584,660
	収蔵庫・書庫 防虫処理		350,676
	骨格標本の標本番号書き込み		212,750
	寄贈図書資料の整理		108,480
	所蔵資料の保管料		64,800
	システム利用料		53,553
	通信運搬費		26,777
計			1,401,696



研究項目名		II. 資料の拡充	
	品 名	数 量	金 額
物 品 費	雑誌購読料	31誌	1,290,303
	実験用品		761,837
	パソコン	2台	504,503
	DNA実験用 試薬等		329,400
	仮剥製標本	17体	300,000
	冷凍庫	1台	274,320
	単行本	43冊	201,267
	文具等		168,634
	PC関連用品		120,615
	保存用品		58,209
	調査 ガソリン代		11,323
		計	
旅 費	事項 (積算内訳)	数 量	金 額
	狩猟免許取得		187,456
	打ち合わせ等交通費		175,646
	捕獲調査		144,340
	標本譲受		94,520
	日本鳥学会参加		70,836
	計		672,798
人 件 費	事項 (積算内訳)	数 量	金 額
			0
	計		0
謝 金 等	事項 (積算内訳)	数 量	金 額
	臨時職員謝金		2,823,480
	計		2,823,480

	品 名	数 量	金 額
その他	標本作製		1,514,640
	DNA実験用器材保守契約		1,080,000
	X線CT装置保守・リース料		671,328
	標本燻蒸		305,478
	雑誌合本製本		297,972
	通信運搬費		229,986
	キセノンランプ交換		207,360
	標本台帳撮影		172,200
	調査 レンタカー代		77,873
	廃棄委託費		68,364
	冷蔵庫修理代		23,760
	会議費		14,961
	狩猟免許申請手数料		8,200
	計		4,672,122

研究項目名		Ⅲ. 情報公開とネットワーク構築	
物品費	品名	数量	金額
	パソコン	3台	428,155
	調査消耗品		356,149
	ソフトウェア	3個	141,546
	PC関連用品		130,048
	調査 ガソリン代		79,877
	書籍	1冊	2,107
計			1,137,882
旅費	事項 (積算内訳)	数量	金額
	調査		531,100
	日本鳥学会参加		179,880
	標本製作技術講習会		89,320
	鳥学セミナー		61,680
	打ち合わせ等交通費		56,930
	ヤンゴン大学ワークショップ参加		36,290
山階鳥類学雑誌編集委員会		30,185	
計			985,385
人件費	事項 (積算内訳)	数量	金額
			0
	計		
謝金等	事項 (積算内訳)	数量	金額
	臨時職員謝金		2,198,540
	調査員謝金		78,200
	英文校閲料		30,000
計			2,306,740
その他	品名	数量	金額
	山階鳥類学雑誌 印刷費		2,063,739
	図書整備業務		1,333,584
	鳥類標本データベースの構築等に関する業務委託		400,000
	収蔵品管理システム利用料		388,800
	通信運搬費		208,637
	調査 レンタカー代		83,672
	日本鳥学会参加費		26,000
会議費		21,160	
計			4,525,592

## 6. 研究事業の成果の公表状況

本欄には、当該事業の成果の公表状況や当該研究分野への貢献度等について記述してください。なお、研究項目を設定している場合は、研究項目ごとに記述してください。

### (1) 資料の維持管理班

本班は当研究所が保有する資料の劣化・散逸を防ぎ、その利用を希望する研究者や研究機関等に提供する活動を行っている。平成30年度には、資料や設備の利用者により、24編の論文が出版された。

1. Chiba A (2018) Wintering behavior of a Siberian Crane *Grus leucogeranus* in Niigata, Japan, with special regard to food, foraging and vocal habits. *Ornithol. Sci* 17: 187-194.
2. Eda M, Kikuchi H, Sun G, Matsui A (2019) Were chickens exploited in the Neolithic early rice cultivation society of the lower Yangtze River? *Archaeological and Anthropological Sciences* (online): 1-8.
3. Ikeda T, Ueda T, Nakata T, Noda R, Tanaka H, Fujii T, Liu H (2018) Morphology Effects of Leading-edge Serrations on Aerodynamic Force Production: An Integrated Study Using PIV and Force Measurements. *Journal of Bionic Engineering* 15 (4): 661-672.
4. Kano Y, Nakajima J, Yamasaki T, Kitamura J and Tabata R (2018) Photo images, 3D models and CT scanned data of loaches (Botiidae, Cobitidae and Nemacheilidae) of Japan. *Biodiversity Data Journal* 6: e26265.
5. 加藤 克 (2018) 国立科学博物館所蔵オーストラリア産骨格標本の採集情報の復元. *タクサ* 45: 61-72.
6. 仲村 昇・千田万里子・尾崎清明 (2018) 2017年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. *山階鳥類学雑誌* 49 (2): 97-108.
7. 奥野卓司 (2018) あんた、鳥のなんなのさ. *ヒトと動物の関係学会誌* 51: 9-13.
8. 奥野卓司 (2019) 現代日本文化としての「鳥と人間の関係」に関する一考察. *関西学院大学社会学部紀要* 130: 21-33.
9. 奥野卓司・細川博昭・鶴見みや古 (2018) 鳥と人間の関係と課題. *ヒトと動物の関係学会第24回学術シンポジウム (報告)*. *ヒトと動物の関係学会誌* 51: 32-39.
10. 奥野卓司 (2018) 「花鳥画」と「博物画」の皮膜で—若冲の鶏をめぐる—. *バイオストーリー* 28: 14-20.
11. Roulin A, Uva V, Romano A (2018) A melanin-based trait is more strongly related to body size in the tropics than in temperate regions in the globally distributed barn owl family. *Journal of Evolutionary Biology* 31 (12): 1932-1944.

12. 齋藤武馬・森本 元・小林さやか・浅井芝樹・平岡 考 (2018) 山階鳥類研究所の寄贈標本 —風間辰夫氏収集標本目録一. 山階鳥類学雑誌 50: 35-85.
  13. 鶴見みや古 (2018) 鳥とヒトとの関係を考える. 明治から昭和にかけて. ヒトと動物の関係学会誌 51:23-31.
  14. Soma M & Garamszegi LZ (2018) Evolution of patterned plumage as a sexual signal in estrildid finches. Behavioral Ecology 00(00), 1-10. doi:10.1093/beheco/ary021.
  15. 菅野一輝・巖島怜・山崎剛史・鹿野雄一 (2018). 福岡県糸島市で発見された過剰肢を持つブチサンショウウオとその3Dモデル. 爬虫両棲類学会報, 2018(2), 152-154.
  16. 富田直樹・成田 章・岩見恭子 (2018) ウミネコ繁殖地燕島における2012年から2017年の繁殖モニタリング: キツネの侵入に注目した考察. 山階鳥類学雑誌 49 (2): 63-68.
  17. Watanabe J (2018) Clade-specific evolutionary diversification along ontogenetic major axes in avian limb skeleton. Evolution doi:10.1111/evo.13627.
  18. Watanabe J, Matsuoka H, Hasegawa Y (2018) Pleistocene non-passeriform landbirds from Shiriya, northeast Japan. Acta Palaeontologica Polonica 63 (3): 469-491.
  19. Watanabe J, Matsuoka H, Hasegawa (2018) Pleistocene fossils from Japan show that the recently extinct Spectacle Cormorant (*Pharacrocorax perspicillatus*) was a relict. Auk: Ornithological Advances 135: 895-907.
  20. Watanabe J, Matsuoka H, Hasegawa (2018) Pleistocene seabirds from Shiriya, northeast Japan: systematics and oceanographic context. Historical Biology (online).
  21. Yamasaki T, Aoki S and Tokita M (2018) Allometry and integration does not strongly constrain beak shape evolution in Large-billed (*Corvus macrorhynchos*) and Carrion Crows (*C. corone*). Ecology and Evolution 8(20): 10057-10066.
  22. 山崎剛史・亀谷辰朗 (2018) 鳥類の目と科の新しい和名 (1) 非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類. 山階鳥類学雑誌 50(2): 141-151.
  23. 安田雅俊・川田伸一郎 (2018) モグラをめぐる冒険—岸田久吉の哺乳類学補遺. 哺乳類科学 58 (1): 175-182.
  24. Yoshikawa T, Higuchi H (2018) Invasion of the loquat *Eriobotrya japonica* into urban areas of central Tokyo facilitated by crows. Ornithol. Sci 17: 165-172.
- 9編の一般向け解説記事が出版された。
25. 池田旭彰 (2018). 鳥の飛翔のバイオミメティクス: フクロウに学ぶ. アグリバイオ9月号.
  26. 岩見恭子 (2018) 絶滅鳥ドードーの剥製レプリカを作る. BIRDERS8月号.

27. 岩見恭子 (2018) 思い出の道具でつづる、鳥見遍歴2 標本製作実習用ぬいぐるみ「かけすちゃん」. BIRDER 8月号.

28. 森本元 (2018) 鳥の色のバイオミメティクス. アグリバイオ9月号.

29. 中田敏是 (2018) 鳥の飛翔のバイオミメティクス: 形態・構造と機能に学ぶ. アグリバイオ9月号.

30. 田中博人 (2018) 鳥の飛翔のバイオミメティクス: ハチドリに学ぶ. アグリバイオ9月号.

31. 山崎剛史 (2019) キツツキの幸運な進化~彼らが幹の覇者になるまで~. BIRDER 1月号.

32. 山崎剛史 (2018) 鳥のバイオミメティクス. アグリバイオ 2 (10): 6-7.

33. 山崎剛史 (2018) フィンチの進化史~彼らはなぜ種子を食べはじめたのか? BIRDER 2月号.

10冊の書籍が出版された。

34. 石田秀輝 (2018) ビジュアル解説! 自然から学ぶ すごい技を持つ生き物図鑑. 文研出版.

35. マット・メリット (2018) My Picture Book 世界の鳥. 青幻社.

36. 水田拓・高木昌興 (2018) 島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史—. 海游舎.

37. 日本動物学会 (2018) 動物学の百科事典. 丸善.

38. 岡本依子・八木橋麗代 (2018) ちっちゃなプレNEO 2・3・4 さい きせつのえずかん 3冊セット. 小学館.

39. フォトクラシック (2018) 100年前にカワセミを撮った男. 下村兼史生誕115周年. 展覧会図録. 山階鳥類研究所.

40. 下坂玉起 (2018) 茶の湯の羽箒. 知られざる鳥の文化誌. 淡交社.

41. 小学館 (2018) キッズペディアこども大百科. もっと大図解. 小学館.

42. 矢後勝也・須田真一・山崎剛史 (2018) 珠玉の昆虫標本: 江戸から平成の昆虫研究を支えた東京大学秘蔵コレクション. 東京大学出版会.

43. 山崎剛史・森本元 (監訳) (2018) フクロウ大図鑑. 緑書房.

18件の学会発表があった。

44. 相澤誠浩・田中博人・山崎剛史 (2018). ハチドリを模倣した小型羽ばたき飛翔体における高性能弾性翼の研究. 日本機械工学会 第29回バイオフィロンティア講演会. 千葉大学.

45. 青木大輔ほか (2018) 絶滅した自然集団のDNA から生物が新しい集団形成を可能にする条件を探る日本鳥学会大会. 新潟大学.

46. シンバ・チャン (2018) シマアオジの調査と保全: ロシア・モンゴル・日本の野外調査と 2018 年度国際鳥類学会からの報告. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
47. 花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘 (2019) 青森県蕪島で繁殖するウミネコにおける頭骨成長の解析. 日本古生物学会. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
48. 花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘 (2019) ウミネコの頭骨における成長アロメトリーの解析. 動物学会関東支部大会. 中央大学.
49. 岩見恭子ほか (2018) 安定同位体比から見たオジロワシの長期的な食性の変化. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
50. 加藤ゆき (2018) 標本を作って残すってどういうこと?—実物証拠としての標本. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
51. 河原暁生・田中博人・山崎剛史 (2018) ハチドリ羽の羽根の曲げ剛性分布を規範とした人工羽ばたき翼. 日本機械学会大会. 関西大学.
52. 岸根宏明・前田将輝・田中博人・山崎剛史 (2018) ペンギンの羽枝構造が持つ摩擦抗力低減効果. 日本機械学会大会. 関西大学.
53. 水田拓・高木昌興 (2018) 島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
54. 中尾達郎・島田将喜・山崎剛史・荻原直道 (2018) ヤンバルクイナの基盤使用行動と脳におけるウルストの発達. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
55. 中尾達郎・島田将喜・山崎剛史・荻原直道 (2018) ヤンバルクイナの基盤使用行動と脳におけるウルストの発達. 沖縄生物学会大会. 沖縄県立芸術大学.
56. 森本 元 (2018) 半分青い〜構造色発色機構を考える・イソヒヨドリの青いオスと青くないオス〜. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
57. 小田谷嘉弥・山崎剛史・齋藤武馬 (2018) 形態的に異なる 2 タイプのチュウジシギ *Gallinago megala* の遺伝的關係. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
58. 萩野恭伍ほか (2018) ミサゴ趾骨格の可動状況および比較形態学的解析. 日本鳥学会大会. 新潟大学.
59. Saitoh, T (2018) DNA Barcoding of Japanese birds— An analysis of 234 Japanese breeding species—. Workshop on Myanmar Biodiversity and Wildlife Conservation (27–28 November 2018), University of Yangon, Yangon, Myanmar.
60. 杉田典正・長太伸章・山崎剛史・川上和人・西海功 (2018) 絶滅ムコジマメグロのミトコンドリアゲノムの復元. 日本鳥学会大会. 新潟大学.

61. 山崎剛史・中田敏是・田中博人 (2018) セレーシヨンの進化-フクロウ風切羽の幾何学的形態測定学-. 日本鳥学会大会. 新潟大学.

2つの展示会が開催された。

62. 下村兼史生誕 115 周年—100 年前にカワセミを撮った男・写真展. 主催: 山階鳥類研究所, 会場: 有楽町朝日ギャラリー, 会期: 2018 年 9 月 21 日-9 月 26 日.

63. バーチャルバードパーク. 主催・会場: 玉川高島屋, 会期: 2018 年 7 月 21 日-8 月 15 日.

## (2) 資料の拡充班

本班は当研究所が保有する資料を拡充する活動を行っている。収集した資料は、長期にわたって保存され、研究に活用される（実際、当研究所には 200 年以上前に作られた標本も保管されており、研究に用いられている）。収集した資料を活用した成果の公表状況は、「(1) 資料の維持管理班」および「(3) 情報公開とネットワーク構築班」に列挙した通りである。

## (3) 情報公開とネットワーク構築班

ウェブサイト『標本データベース』は、当研究所が所蔵する約 7 万点の標本のうち、65,614 点について、種名・性別・採集場所・採集年月日・採集者に関するテキスト情報と、標本画像、標本ラベル画像を配信している。また、同サイトからは、鳥体内部構造の X 線 CT 画像 763 点、羽毛の走査電子顕微鏡画像 364 点、羽色の紫外線画像 302 点がダウンロードできる。いずれも非営利の場合、出典を明記するという条件を満たすだけで誰もが自由に使用できるようになっている。このサイトは研究や普及啓発活動だけでなく、教育や創作活動をもサポートするツールとして、広く活用されている。4-2 に記した通り、平成 30 年度の利用者はのべ 976,011 人に上った。

なお、『標本データベース』から配信中の上記テキスト情報は、生物の分布情報の整備と全世界的な流通促進を目指す国際プロジェクトである『GBIF (Global Biodiversity Information Facility)』のデータベース、国立科学博物館が運営し、日本国内の生物標本の所在地情報の整備を目指すウェブサイト『サイエンスミュージアムネット』でも公開されている。

ウェブサイト『組織サンプルの利用』では、研究への提供が可能な組織サンプル 12,040 点について、種名、採集場所、採集年月日、性別の情報をまとめたエクセルファイルが公開されている。ウェブサイト『蔵書検索システム』では、当研究所所蔵の約 4 万冊の蔵書のうち、31,778 点について、書誌情報が公開されている。ウェブサイト『Barcode of Life Data System (BOLD)』では、当研究所が提供した DNA バーコードデータ 295 種 969 点が公開されている。

当研究所が年 2 回発刊する『山階鳥類学雑誌』は、発刊から 1 年が経過するまでは冊子体のみの公表に限られるが（各号約 1,000 部作成）、その後は、科学技術振興機構運営のウェブサイト『J-STAGE』にて PDF が公開される。同サイトの本誌 PDF の平成 30 年度利用者数は 10,274 人であった。



## 7. 研究事業を推進する上での問題点と対応策及び今後の研究事業の推進方策

本欄には、事業を推進する上での問題点と対応策、次年度以降の計画の変更や研究事業を更に発展させるための方策等について記述してください。

### 【事業を推進する上での問題点と対応策】

事業の進捗状況は4-2に記した通り順調で、電子顕微鏡画像の『標本データベース』へのアップロード以外のすべての項目について、目標を達成できた。遅れている電子顕微鏡画像の公開についても、令和元年6月には平成30年度目標を達成できる見込みである。平成29年度から令和2年度の3年間のプロジェクトである本研究事業の推進に大きな問題は見当たらない。

かつては懸案であった収蔵スペースの枯渇の問題もいまでは大幅に改善している。これは審査部会の指摘をふまえ、関連諸機関との連携を強化した結果として、592点の展示用標本の国立科学博物館への寄託が実現したこと、研究所の創設者である故・山階芳麿博士が収集した昆虫標本を昆虫を専門とする研究者が常駐する東京大学総合研究博物館に寄贈したことによっている。また、平成29年度から30年度にかけ、自己資金を投入し、宿直室を収蔵庫に改装するなど、当研究所施設のリフォームを進めたことによるところも大きい。

なお、長期的な事業の継続については、「3. 研究事業期間を通して行う研究事業の内容」で述べた年齢構成の問題があるが、これについてはそこで述べた対策である若い世代の積極的な採用、大学院教育への参画を今後も継続する。

### 【次年度以降の計画の変更】

変更はない。

### 【研究事業をさらに発展させるための方策】

ウェブサイト『標本データベース』から配信されている各種データは、非営利の場合、出典を明示しさえすれば、誰もが自由に利用できる。しかし、このポリシーはサイト上にわかりやすく表示されていない。このため、データ使用の許諾に関する問い合わせが少なからず寄せられている。

『標本データベース』のさらなる利用の促進のため、クリエイティブ・コモンズライセンスを採用し、データ利用に関するポリシーが利用者にすぐわかるようにしたいと考えている。具体的には、CC-BY-NCのライセンスマークを表示することを計画している。また、検索エンジンが各種データの利用ポリシーを理解できるよう、リエイティブ・コモンズメタデータをソースコードに書き込むことも検討中である。

8. 当該学術団体が受け入れた研究資金等（平成31年3月末時点）

本欄には、平成30年度において、貴団体に所属する研究者が研究代表者として応募し、採択となった科研費の研究課題について、研究種目、研究代表者名、研究課題名及び金額を記入してください。平成30年度以降については、継続の研究課題で採択予定となっているもの及び応募中のものについて記入してください。その際、年度ごとに点線で区切り、各年度の最下段には件数と金額の合計を記入してください。  
 なお、平成30年度以降については、採択予定と応募中それぞれについて、件数と金額の合計を記入してください。また、「②他の研究資金の採択状況」には、科研費以外の研究費について記入してください。

①科研費採択状況（特定奨励費以外）

年度	研究種目	研究課題名 (研究代表者名)	金額 (単位：千)	特定奨励費で行う事業との相違点
30	基盤C	島の鳥の適応放散はなぜ起きるのかー数理モデルと幾何学的形態測定学によるアプローチ（山崎剛史）	1,500（直） 450（間）	鳥類が適応放散を起こす／起こさない理由を解明しようとする研究であり、特定奨励費による研究事業目的とは異なる。  鳥類の構造色の発色機序とそれを操る生理状態の関係を解明し、この色彩信号の意味を解き明かす研究であり、特定奨励費による研究事業目的とは異なる。
	基盤C	構造色由来の色彩個体差の発生機構〜性選択における構造色の意味を探る（森本元）	1,300（直） 390（間）	
	合計2件		2,800（直） 840（間）	
31	基盤C	島の鳥の適応放散はなぜ起きるのかー数理モデルと幾何学的形態測定学によるアプローチ（山崎剛史）	600（直） 180（間）	同上
	基盤C	構造色由来の色彩個体差の発生機構〜性選択における構造色の意味を探る（森本元）	1,300（直） 390（間）	
	合計2件		1,900（直） 570（間）	
32（令和2）	基盤C	島の鳥の適応放散はなぜ起きるのかー数理モデルと幾何学的形態測定学によるアプローチ（山崎剛史）	1,300（直） 390（間）	同上
	基盤C	構造色由来の色彩個体差の発生機構〜性選択における構造色の意味を探る（森本元）	800（直） 240（間）	
	合計2件		2,100（直） 630（間）	

②他の研究資金の採択状況（府省、地方公共団体、研究助成法人、民間企業等からの研究費）					
年度	所管省庁等名	制度、助成金等名	研究課題等名 (代表者等名)	金額 (単位：千)	特定奨励費で行う事業との相違点
30	サントリーホールディングス株式会社	公益信託サントリー世界愛鳥基金	琉球諸島のアジサシ類の保全	2,000	琉球諸島に生息するアジサシ類の減少傾向が著しい。その保全に資するため、繁殖状況や阻害要因を把握し、保全策を提言するのが目的である。特定奨励費による研究事業とは明らかに異なる。 「鵜飼」に関する比較文化誌的研究を通して「鳥を使った観光」の健全な在り方と活性策を提案するのが目的であり、特定奨励費による研究事業とは明らかに異なる。
	嵐山通船株式会社	研究助成金	「鵜飼」に関する比較文化誌的研究	500	
	合計2件			2,500	
31	サントリーホールディングス株式会社	公益信託サントリー世界愛鳥基金	琉球諸島のアジサシ類の保全	2,000	同上
	嵐山通船株式会社	研究助成金	「鵜飼」に関する比較文化誌的研究	500	同上
	合計2件			2,500	
32 (令和2)	嵐山通船株式会社	研究助成金	「鵜飼」に関する比較文化誌的研究	500	同上
	合計1件			500	
33 (令和3)	嵐山通船株式会社	研究助成金	「鵜飼」に関する比較文化誌的研究	500	同上
	合計1件			500	
34 (令和4)	嵐山通船株式会社	研究助成金	「鵜飼」に関する比較文化誌的研究	500	同上
	合計1件			500	

## 9. 次年度以降の事業計画

本欄には、平成31年度以降の事業計画について記述してください（研究項目を設定している場合は、研究項目ごとに記述してください）。

### 【平成31年度の事業計画】

(1) 資料の維持管理班、(2) 資料の拡充班：「4-2. 平成30年度の進展状況及び主な成果」の上段にある平成30年度の事業計画と同様の業務を実施する。

(3) 情報公開とネットワーク構築班：「4-2. 平成30年度の進展状況及び主な成果」の上段にある平成30年度の事業計画と同様の業務を実施するが、(k) 野外調査講習会、(l) 標本作製実習については受講希望者の要望を聞いて開催場所を決定する。

### 【令和2年度の事業計画】

(1) 資料の維持管理班、(2) 資料の拡充班：前年度と同様の業務を実施する。

(3) 情報公開とネットワーク構築班：前年度と同様の業務を実施するが、(k) 野外調査実習については、3年間に得られたすべての生データ（繁殖モニタリングデータ）を『山階鳥類学雑誌』上に公開する。(n) コンソーシアムデータベースについては、我孫子市鳥の博物館の標本コレクション情報のインターネット配信を開始する。

### III-5. 研究所員の論文・講演等活動成果

#### 1. 原著論文・総説（査読あり）

- Kano, Y., Kurita, Y., Kanno, K., Saito, K., Hayashi, H., Onikura, N., Yamasaki, T. 2019. Photo images, 3D/CT data and mtDNA of the freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Kyushu and Ryukyu Islands, Japan, with SEM/EDS analysis of the shell. *Biodivers Data J.* 2019; (7): e32114.
- Kano, Y., Nakajima, J., Yamasaki, T., Kitamura, J., Tabata, R. 2018. Photo images, 3D models and CT scanned data of loaches (Botiidae, Cobitidae and Nemacheilidae) of Japan. *Biodiversity Data Journal* 6: e26265.
- Kazama, K., Harada, T., Deguchi, T., Suzuki, H., Wataniki, Y. 2019. Foraging behavior of black-footed albatross *Phoebastria nigripes* rearing chicks on the Ogasawara Islands. *Ornithological Science* 18: 27-37.
- Nakajima, I., Juzoji, H., Ozaki, K., Nakamura, N. 2018. Communications protocol used in the wireless token rings for bird-to-bird. *Journal of Multimedia Information System* 5 (3) : 163-170.
- Orben, R. A., O'Connor, A. J., Suryan, R. M., Ozaki, K., Sato, F., Deguchi, T. 2018. Ontogenetic changes in at-sea distributions of immature short-tailed albatrosses *Phoebastria albatrus*. *Endangered Species Research* 35: 23-37.
- 富田直樹・成田章・岩見恭子. 2018. ウミネコ繁殖地燕島における2012年から2017年の繁殖モニタリング：キツネの侵入に注目した考察. *山階鳥類学雑誌* 49 (2) : 63-68.
- Yamasaki T., Aoki S., Tokita M. 2018. Allometry and integration does not strongly constrain beak shape evolution in Large-billed (*Corvus macrorhynchos*) and Carrion Crows (*C. corone*). *Ecology and Evolution* 8 (20): 10057-10066.
- Yamashita, R., Takada, H., Nakazawa, A., Takahashi, A., Ito, M., Yamamoto, T., Watanabe, Y., Kokubun, N., Sato, K., Wanless, S., Daunt, F., Hyrenbach, D., Hester, M., Deguchi, T., Nishizawa, B., Shoji, A., Watanuki, Y. 2018. Global monitoring of persistent organic pollutants (POPs) using seabird preen gland oil. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*. 75: 545-556.
- Yuta, T., Nomi, D., Ihle, M., Koizumi, I. 2018. Simulated hatching failure predicts female plasticity in extra-pair behavior over successive broods. *Behavioral Ecology* 27: 1264-1270.

#### 2. 著書（論文集・分担執筆・翻訳・監修含む）

- 平岡 考. (分担執筆) 2018. 琉球列島研究の先駆者小川三紀・黒田長禮と幻の絶滅鳥ミヤコショウビン. 水田拓・高木昌興 (共編) 島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史—. 海游舎, 東京.
- 岩見恭子. (指導協力) 2018. 小学館編. キッズペディアこども大百科. もっと大図解. 小学館, 東京.
- 岩見恭子. (指導協力) 2018. 石田秀輝 (監修) ビジュアル解説! 自然から学ぶ すごい技を持つ生き物図鑑. 文研出版, 東京.
- 森本 元. (指導協力) 2018. 岡本依子 (監修). 八木橋麗代 (イラスト). ちっちゃなプレNEO 2・3・4さい きせつのえ ずかんはる・なつのしぜん : 2-5. 小学館, 東京.
- 齋藤武馬. (分担執筆) 2018. 南西諸島の鳥類の系統と分類. 水田拓・高木昌興 (共編) 島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史—. 海游舎, 東京.
- 齋藤武馬・森本 元 (監修). マット・メリット (著). 2018. My Picture Book 世界の鳥. 青幻社, 京都.
- 富田直樹. (分担執筆) 2018. 内分泌物質と生活史. 鳥類の生活史と環境適応 (江口和洋・高木昌興 編). 北海道大学出版会, 札幌.
- 矢後勝也・須田真一・山崎剛史. 2018. 珠玉の昆虫標本: 江戸から平成の昆虫研究を支えた東京大学秘蔵コレクション. 東京大学出版会.
- 山崎剛史・森本元 (監訳). 2018. フクロウ大図鑑. 緑書房.

山崎剛史 (分担執筆). 2018. 動物学の百科事典. 丸善.

### 3. 報告その他 (査読なし)

出口智広・森本 元・千田万里子. 2019. フォーラム・続・標識事業の現状とこれからについて. 日本鳥学会誌 68: 123-124.

小林さやか・加藤 克・川田伸一郎・平岡 考. 2018. フォーラム. 標本史研究っておもしろい—日本の鳥学を支えた人達. 日本鳥学会誌 67: 153-154.

森本 元. 2018. 講演報告: 羽の青い色が生じる仕組み~他の色とは異なる成り立ち~. 第15回バード&スモールアニマルフェア開催報告書: 7-8.

奥野卓司・細川博昭・鶴見みや古. 2018. 鳥と人間の関係と課題. ヒトと動物の関係学会第24回学術シンポジウム (報告). ヒトと動物の関係学会誌 51: 32-39.

奥野卓司. 2018. あんた, 鳥のなんなのさ. ヒトと動物の関係学会誌 51: 9-13.

奥野卓司. 2018. 「花鳥画」と「博物画」の皮膜で—若冲の鶏をめぐる. ビオヒストリー 28: 14-20.

奥野卓司. 2019. 現代日本文化としての「鳥と人間の関係」に関する一考察. 関西学院大学社会学部紀要 130: 21-33.

齋藤武馬・森本 元・小林さやか・浅井芝樹・平岡 考. 2018. 山階鳥類研究所の寄贈標本—風間辰夫氏収集標本目録一. 山階鳥類学雑誌 50 (1): 35-85.

菅野一輝・巖島怜・山崎剛史・鹿野雄一. 2018. 福岡県糸島市で発見された過剰肢を持つブチサンショウウオとその3Dモデル. 爬虫両棲類学会報, 2018 (2): 152-154.

鶴見みや古. 2018. 鳥とヒトとの関係を考える. 明治から昭和にかけて. ヒトと動物の関係学会誌 51: 23-31.

山崎剛史・亀谷辰朗. 2019. 鳥類の目と科の新しい和名 (1) 非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類. 山階鳥学誌 50: 141-151.

### 4. 学会発表等

相澤誠浩・田中博人・山崎剛史. 2018. ハチドリを模倣した小型羽ばたき飛翔体における高性能弾性翼の研究. 日本機械工学会 第29回バイオフロンティア講演会 (10月24日, 千葉大学, 千葉市).

出口智広・森本 元・千田万里子. 2018. 続・標識事業の現状とこれからについて. 日本鳥学会2018年度大会自由集会 (企画: 出口智広・森本 元・千田万里子) (9月15日, 新潟大学, 新潟市).

Deguchi, T., Suryan, R. M., Ozaki, K. 2019. Determinants of post-fledging survival in translocated albatross chicks. Pacific Seabird Group 46<sup>th</sup> annual meeting (27 Feb. – 2 Mar., Kauai).

花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘. 2019. 青森県蕪島で繁殖するウミネコにおける頭骨成長の解析. 日本古生物学会第168回例会 (1月25~27日, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市).

花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘. 2019. ウミネコの頭骨における成長アロメトリーの解析. 2019 動物学会関東支部大会 (3月9日, 中央大学後楽園キャンパス, 東京).

平岡 考. 2018. 自由集会コメンテーター. 日本鳥学会2018年度大会 (9月14日, 新潟大学) 自由集会W01. 絶滅危惧種シマフクロウの観光利用に必要なもの—失われた保全との「持ちつ持たれつ」関係—. 日本鳥学会2018年度大会講演要旨集, p. 140.

平岡 考. 2018. 琉球列島研究の先駆者小川三紀・黒田長禮と幻の絶滅鳥ミヤコシヨウビン. 日本鳥学会2018年度大会 (9月14日, 新潟大学) 自由集会W04. 島の鳥類学—南西諸島の島をめぐる自然史. 日本鳥学会2018年度大会講演要旨集, p. 143.

Iijima, D., Morimoto, G. 2018. Altitudinal distribution of birds along four gradients in Mount Norikura, Central Japan: the impact of altitudinal distribution by structure feature of vegetation for birds. 27th International Ornithological Congress. (22 Aug., Vancouver).

岩見恭子・富田直樹・渡辺有希子・齋藤慶輔. 2018. 安定同位体比から見たオジロワシの長期的な食性の変化. 日本鳥学会 2018 年度大会 (9月15日, 新潟大学, 新潟市).

岩見恭子. 2018. 学術標本を収集する意義—山階鳥類研究所での取り組み. 自由集会 (W13) 日本鳥学会 2018 年度大会

- (9月15日, 新潟大学, 新潟市).
- 笠原里恵・森本 元・北村 亘・今西貞夫・東 信行. 2018. 長野県の千曲川で繁殖するコチドリ越冬地と重要な中継地. 日本鳥学会 2018 年度大会(9月15日, 新潟大学, 新潟市).
- Kasahara, S., Morimoto, G., Kitamura, W., Imanishi, S., Azuma, N. 2018. Taiwan is an important stopover site for migration of the Little Ringed Plover breeding in central Japan. 2018 International Consortium of Landscape and Ecological Engineering 9th Conference. (27 Nov., Chaoyang University of Technology, Taiwan).
- 河原暁生・田中博人・山崎剛史. 2018. ハチドリ羽根の曲げ剛性分布を規範とした人工羽ばたき翼. 日本機械学会大会 (9月9日, 関西大学, 吹田市).
- 岸根宏明・前田将輝・田中博人・山崎剛史. 2018. ペンギンの羽枝構造が持つ摩擦抗力低減効果. 日本機械学会大会 (9月9日, 関西大学, 吹田市).
- 森本 元. 2018. 半分青い〜構造色発色機構を考える・イソヒヨドリ青いオスと青くないオス〜. 日本鳥学会 2018 年度大会 (9月16日, 新潟大学, 新潟市).
- 森本 元. 2018. スズメの発色と年齢・性別の関係を考える. 日本鳥類標識協会 2018 年度 (第 33 回) 全国大会 (12月9日, フクラシア大阪ベイ, 大阪).
- 中尾達郎・島田将喜・山崎剛史・荻原直道. 2018. ヤンバルクイナの基盤使用行動と脳におけるウルストの発達. 沖縄生物学会大会 (5月19日, 沖縄県立芸術大学, 那覇市).
- 中尾達郎・島田将喜・山崎剛史・荻原直道. 2018. ヤンバルクイナの基盤使用行動と脳におけるウルストの発達. 日本鳥学会大会 (9月16日, 新潟大学, 新潟市).
- 小田谷嘉弥・山崎剛史・齋藤武馬. 2018. 形態的に異なる 2 タイプのチュウジシギ *Gallinago megala* の遺伝的關係. 日本鳥学会大会 (9月16日, 新潟大学, 新潟市).
- Ozaki, K., Toguchi, Y., Tamanaha, S., Mukai, S., Nakaya, Y. 2018. Reintroduction of Okinawa Rail (*Hypotaenidia okinawae*), 27th International Ornithological Congress (19-26 Aug., Vancouver).
- Ozaki, K. 2018. Declining of Yellow-breasted & Rustic Bunting in Japan, RTD (Migratory land bird), 27th International Ornithological Congress (19-26 Aug., Vancouver).
- Ozaki, K. 2018. Banding and Monitoring Survey on Roseate and Black-naped Tern in Okinawa, RTD (Seabird research and conservation in Pacific Ocean), 27th International Ornithological Congress (19-26 Aug., Vancouver).
- 尾崎清明・渡久地 豊・金城道男. 2018. ヤンバルクイナの野生復帰試験. 野生生物と社会学会第 24 回九州大会 (11月23日, 九州大学, 福岡市).
- 齋藤武馬. 2018. シマアオジ個体群の DNA 分析計画について. (W03) 自由集会. 日本鳥学会大会 (9月15日, 新潟大学, 新潟市).
- Saitoh, T. 2018. DNA Barcoding of Japanese birds –An analysis of 234 Japanese breeding species–. Workshop on Myanmar Biodiversity and Wildlife Conservation (27-28 Nov., University of Yangon, Yangon, Myanmar).
- 杉田典正・長太伸章・山崎剛史・川上和人・西海功. 2018. 絶滅ムコジマメグロのミトコンドリアゲノムの復元. 日本鳥学会大会 (9月16日, 新潟大学, 新潟市).
- Thiebot J.-B., Nishizawa B., Sato F., Tomita N., Watanuki Y. 2018. Albatross chicks reveal interactions of adults with artisanal longline fisheries within a short range. *Journal of Ornithology* 159: 935-944. <https://doi.org/10.1007/s10336-018-1579-3>
- 富田直樹・松丸一郎・澤祐介・佐藤達夫・奴賀俊光・平田和彦・樋口広芳. 2018. 東京都心のウミネコのビル街屋上繁殖および内湾運河部橋梁での繁殖. 日本鳥学会 2018 年度大会 (9月15日, 新潟大学, 新潟市).
- Torres, L., Orben, R., Adams, J., Hester, M., Shaffer, S., Connors, M., Ozaki, K., Sato, F., Deguchi, T., Suryan, R., Koordesma, D. 2019. Uncovering blind spots: Novel methods describe fine-scale albatross-fisheries overlap on the high seas. Pacific Seabird Group 2019 Annual Meeting (27 Feb. - 2 Mar., Kauai).
- 山崎剛史・中田敏是・田中博人. 2018. セレーションの進化 –フクロウ風切羽の幾何学的形態測定学–. 日本鳥学会大会 (9月15日, 新潟大学, 新潟市).

田田照秋・永田尚志. 2018. 野生下におけるトキの生息状況 (テーマセッション: トキの事例から野生復帰事業を考える～保護と管理のはざままで～). 野生動物と社会学会 (11月25日, 九州大学, 福岡市).

#### 5. シンポジウム・研究会等講演

出口智広. 2018. アホウドリ移住事業はどこまで進んだ? 日本鳥学会2018年度大会公開シンポジウム「トキの放鳥10年: 再導入による希少種の保全」(9月17日, 朱鷺メッセ, 新潟市).

出口智広. 2018. 標識調査結果と気象条件の関係 (福島潟を例に). 日本鳥学会2018年度大会自由集会「続・標識事業の現状とこれからについて」(9月15日, 新潟大学, 新潟市).

岩見恭子. 2018. 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業剥製の取り扱い～主に鳥類標本を例として～. (9月28～29日, 美幌博物館, 美幌町).

岩見恭子. 2019. 鳥類標本ってどんなもの? 標本作りの楽しさを知ろう!. (2月3日, 加賀市鴨池観察館, 加賀市).

森本 元. 2018. 我孫子市鳥の博物館企画展「我孫子の都市鳥」展: トピックス「電柱鳥類学」. 展示の作成協力・担当執筆 (7月14～11月25日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).

森本 元. 2018. 我孫子市鳥の博物館企画展「我孫子の都市鳥」展: トピックス「ハクセキレイと足指欠損」. 展示の作成協力・担当執筆 (7月14～11月25日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).

森本 元. 2018. 羽の青い色が生じる仕組み～他の色とは異なる成り立ち～. 第15回バード&スモールアニマルフェア (8月5日, 東京流通センター, 東京).

森本 元. 2018. バンダーはどのような研究を行っているのか. 日本鳥学会2018年度大会自由集会「続・標識事業の現状とこれからについて」(9月15日, 新潟大学, 新潟市).

森本 元. 2018. 鳥の色・恐竜の色～なぜ恐竜の色を現代の鳥類の発色から検討できるのか～. 北海道シンポジウム「恐竜と鳥のはざま」(10月14日, 北海道大学・札幌市).

森本 元. 2018. 「鳥と色彩」美しい色の機能や発色の“なぜ”に迫る. 足立区生涯学習センター山階鳥類研究所連携教養講座 (11月4日, 足立区生涯学習センター, 足立区).

尾崎清明. 2018. 太平洋地域のクイナ類の再導入. 公開シンポジウム「トキの放鳥から10年: 再導入による希少鳥類の保全」, 日本鳥学会2018年度大会 (9月17日, 新潟大学, 新潟市).

山崎剛史. 2019. 鳥類系統学のいまーハヤブサはワルぶったインコなのかー. 京都動物園・山階鳥類研究所連携記念シンポジウム (1月20日, 京都市動物園, 京都市).

#### 6. 一般講演・研修会等

浅井芝樹. 2018. 白い羽色異常はどういう仕組みで起きる?. 山階鳥研職員によるテーマトーク (8月18日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).

浅井芝樹. 2018. 学名が変わる! そのめんどくさい理由. ジャパンバードフェスティバル. 山階鳥研見にレクチャー (11月3日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).

出口智広. 2018. アホウドリの保全ー研究者の苦労と喜び. 第1回イセたまご研究所一般公開セミナー (8月2日, 有楽町朝日ホール, 東京).

出口智広. 2018. アホウドリの保全ー研究者の苦労と喜び. 専門学校講義 科目名「生態学II」(12月3日, 東京環境工科専門学校錦糸町校舎, 墨田区).

平岡 考. 2018. 松戸市地域環境調査員研修会. (10月30日, 京葉ガスビル, 松戸市).

平岡 考. 2018. 琉球列島研究の先駆者小川三紀・黒田長禮と幻の絶滅鳥ミヤコショウビン. JUNKUトークセッション ユニークな南西諸島の鳥たちの謎を探る (12月5日, ジュンク堂書店池袋本店, 東京都).

平岡 考. 2019. 小型ツグミはどこへ行った～変化した昔の「ヒタキ科」の分類～. 我孫子市鳥の博物館テーマトーク (1月19日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).

平岡 考. 2019. バードウォッチング入門～入門済みの人はちょっと復習～. MC FOREST講演会 (2月14日, 三菱商事 MC FOREST, 東京).



- 岩見恭子. 2018. 鳥類標本作製技術講習会. (6月23日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 岩見恭子. 2018. 鳥類標本作製技術講習会. (7月15日, 富良野市立博物館, 富良野市).
- 岩見恭子. 2018. 「標本を作ろう!!」鳥類編. (10月21日, 佐渡トキ交流館, 佐渡市).
- 岩見恭子. 2018. 鳥類標本ってどんなもの? 標本作りの楽しさを知ろう!. ジャパンバードフェスティバル見にレクチャー (11月3日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 岩見恭子. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月26日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 小林さやか. 2018. 拾われた珍鳥はどうする?—標本材料収集の現場から—. 山階鳥研職員によるテーマトーク (6月16日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 小林さやか. 2018. 拾われた珍鳥はどうする?—標本材料収集の現場から—. ジャパンバードフェスティバル. 山階鳥研見にレクチャー (11月4日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 森本 元. 2018. 富士山の野鳥と垂直分布〜どの鳥がどの高さに棲んでいるのか〜. 鳥の博物館テーマトーク (4月21日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 森本 元. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (10月16〜18日, 福島潟ステーション, 新潟市).
- 森本 元. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講師研修会 (10月18〜20日, 福島潟ステーション, 新潟市).
- 森本 元. 2018. 日本一の富士山と鳥・なぜか見られる里の鳥. 山階鳥研見にレクチャー (11月3日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 森本 元・千田万里子. 2018. 山階鳥学セミナー (捕獲技術入門編) 2018・我孫子. 山階鳥学セミナー (11月15日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 森本 元. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月24〜26日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 森本 元. 2019. 鳥類標識調査講習会・実技講師研修会 (1月27〜28日, 沖縄ステーション, 名護市).
- 森本 元. 2019. 鳥類標識調査講習会・実技講師研修会 (2月8〜10日, 出水ステーション, 出水市).
- 森本 元・千田万里子. 2019. 山階鳥学セミナー (捕獲技術入門編) 2018・長崎. 山階鳥学セミナー (3月2日, 名古屋国際センター, 名古屋市).
- 仲村 昇. 2018. 鳥の木登りヒトの木登り. 鳥の博物館テーマトーク (5月19日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 仲村 昇. 2種類の小型記録装置を用いたブッポウソウの渡り追跡. 新潟県野鳥愛護会 平成30年度新潟県野鳥保護の集い (6月16日, 新潟県十日町市松之山三省ハウス, 十日町市).
- 仲村 昇. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (9月28〜30日, 浜頓別ステーション, 北海道枝幸郡).
- 仲村 昇. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (10月11〜13日, 風蓮湖ステーション, 根室市).
- 仲村 昇. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (11月1〜3日, 福島潟ステーション, 新潟市).
- 仲村 昇. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月24〜26日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 尾崎清明. 2018. ヤンバルクイナの野生復帰技術開発. 環境省環境研究総合推進費アドバイザーボード会合 (1月22日, ていりる, 那覇市).
- 尾崎清明. 2018. ヤンバルクイナの野生復帰の現状と課題. 山階鳥研職員によるテーマトーク (3月16日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 尾崎清明. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (10月26〜30日, 福島潟ステーション, 新潟市).
- 齋藤武馬. 2018. 南西諸島の不思議をDNAから探る. ジャパンバードフェスティバル・山階鳥研見にレクチャー (11月3日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- Saitoh, T. 2018. “Arctic Warblers” *Phylloscopus borealis* (sensu lato) —three species instead of one—. (30 Nov., Zoological Department, University of Yangon, Yangon, Myanmar).
- 齋藤武馬. 2018. ユニークな南西諸島の鳥達 —その特殊性をDNAから探る—. JUNKUトークセッション ユニークな南西諸島の鳥たちの謎を探る(12月5日, ジュンク堂書店池袋本店, 豊島区).
- 佐藤文男. 2018. 鳥類標識調査講習会・実技講習 (10月24〜26日, 織田山ステーション, 福井県丹生郡).

- 千田万里子. 2018. 鳥にまつわる法律のハナシ. ジャパンバードフェスティバル・山階鳥研見にレクチャー (11月4日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 千田万里子. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月25～26日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 鶴見みや古. 2018. こんなものもあります. さまざまな所蔵品. ジャパンバードフェスティバル. 山階鳥研見にレクチャー (11月3日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 鶴見みや古. 2019. 3種のカワセミの謎. 山階鳥類研究所のステンドグラス. 山階鳥研職員によるテーマトーク (2月16日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 山崎剛史. 2018. テーマトーク. フクロウの翼のひみつ ～その知られざる苦勞. 我孫子市鳥の博物館テーマトーク (10月20日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 山崎剛史. 2018. ハヤブサはワルぶったインコなのかー鳥の系統分類学の現在ー. 山階鳥研見にレクチャー (11月4日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 吉安京子. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月24～26日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).
- 油田照秋. 2018. 協力したり, 独占したり, 託したり, だましたり... ～鳥たちの多様な繁殖の仕方～. 山階鳥研職員によるテーマトーク (12月15日, 我孫子市鳥の博物館, 我孫子市).
- 油田照秋. 2018. 鳥類標識調査講習会・講義講習 (12月25日, 山階鳥類研究所, 我孫子市).

## 7. 一般雑誌・新聞等への執筆

- 出口智広. 2018. ナショナルジオグラフィック2018年7月号「楽園を失う海鳥」(p32-65, 翻訳).
- 平岡 考. 2018. 毎日運行する漁船に営巣したツバメ. *Birder* 32 (5): 39.
- 岩見恭子. 2018. 絶滅鳥ドードーの剥製レプリカを作る. *Birder* 32 (8): 42.
- 岩見恭子. 2018. 思い出の道具でつづる, 鳥見遍歴2 標本製作実習用ぬいぐるみ「かけすちゃん」. *Birder* 32 (7): 33.
- 岩見恭子. 2018. 鳥博士の研究レポート「解剖して思うこと～鳥類学術標本製作現場から～」 *Birder* 31 (1): 70.
- 森本 元. 2018. 鳥類の羽色と機能は生き抜くために獲得された. *ヘルシスト* 42: 12-16.
- 森本 元. 2018. 鳥の色のバイオミメティクス. *アグリバイオ* 2: 956-962.
- 森本 元. 2018. かわいい!面白い!この鳥観察 ハクセキレイ. *野鳥* 5月号: 10-10.
- 森本 元. 2019. ハクセキレイの足指欠損. 私たちの自然 60: 5-7.
- 齋藤武馬. 2018. 「ナンヨウヨシキリ類」の進化「山階鳥研NEWS」7月号. 山階鳥類研究所.
- 千田万里子. 2018. 特集 冬の渡り鳥の現状 身近な冬鳥の危機: いつの間にか減っていたカシラダカ. 私たちの自然 59: 5-7. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 富田直樹. 2018. 10. 海鳥 鳥島で繁殖するオーストンウミツバメの危機. モニタリングサイト1000 ニュースレター 12: 4.
- 山崎剛史. (編) 2018. 鳥類の行動学, 形態学をヒントにしたバイオミメティクス. *アグリバイオ* 2018年9月号. 北陸館.
- 山崎剛史. 2018. 鳥のバイオミメティクス. *アグリバイオ* 2018年9月号. 北陸館.
- 山崎剛史. 2019. キツツキの幸運な進化～彼らが幹の覇者になるまで～. *BIRDER* 2019年1月号. 文一総合出版.

## 8. 特許・知的所有権等

なし

## 9. 査読

浅井芝樹

山階鳥類研究所『山階鳥類学雑誌』(1回)

出口智広

『PLOS ONE』(1回), 『Global Ecology and Conservation』(1回),  
日本鳥学会『Ornithological Science』(2回), 山階鳥類研究所『山階鳥類学雑誌』(1回)

森本 元

『Zoological Letters』(1回), 日本鳥学会『Ornithological Science』(1回), 日本鳥学会『日本鳥学会誌』(2回), 日本鳥類  
標識協会『日本鳥類標識協会誌』(4回)

仲村 昇

日本鳥学会『Ornithological Science』(1回)

尾崎清明

沖縄生物学会『沖縄生物学会誌』(1回), 日本鳥学会『日本鳥学会誌』(2回)

齋藤武馬

山階鳥類研究所『山階鳥類学雑誌』(1回), 日本鳥学会『日本鳥学会誌』(1回), 日本鳥類標識協会『日本鳥類標識協会誌』  
(2回), 『Scientific Reports』(2回)

富田直樹

日本鳥学会『日本鳥学会誌』(1回), 山階鳥類研究所『山階鳥類学雑誌』(1回)

山崎剛史

日本鳥学会『Ornithological Science』(2回), 日本鳥学会『日本鳥学会誌』(1回)

油田照秋

日本動物学会『Zoological Science』(1回)

#### 10. 社会的活動(行政、学会などの団体の委員等)

浅井芝樹

- ① 日本鳥学会事務局長
- ② 山階鳥類学雑誌編集委員(庶務幹事)
- ③ 我孫子市景観審議会委員

出口智広

- ① 環境省 POPs モニタリング検討会委員
- ② 水産庁混獲生物協議会委員
- ③ 日本鳥学会鳥類保護委員会委員
- ④ 日本鳥学会誌編集委員会委員
- ⑤ 山階鳥類学雑誌編集委員会委員
- ⑥ 認定NPO法人バードリサーチ運営委員
- ⑦ 認定NPO法人バードリサーチ調査研究支援プロジェクト審査員
- ⑧ 日本国際湿地保全連合理事

平岡 考

- ① 日本鳥学会日本産鳥類記録委員
- ② 日本鳥学会鳥類分類委員
- ③ 我孫子市環境審議会委員
- ④ 我孫子市谷津ミュージアム事業推進専門家会議委員
- ⑤ 松戸市緑推進委員
- ⑥ ジャパン・バード・フェスティバル実行委員
- ⑦ 日本鳥類保護連盟全国野生生物保護実績発表大会審査員
- ⑧ 日本鳥類保護連盟愛鳥週間野生生物保護功労者表彰審査員
- ⑨ 東京動物園友の会「どうぶつと動物園」編集委員会

岩見恭子

- ① 日本鳥学会 英文誌『Ornithological Science』編集事務
- ② 日本獣医生命科学大学 非常勤講師

小林さやか

- ① 日本鳥類標識協会庶務幹事
- ② 日本鳥学会和文誌編集委員会
- ③ 平成30年度ワシントン条約対象種検討会検討委員

森本 元

- ① 日本鳥類標識協会評議員
- ② 日本鳥類標識協会役員（編集幹事）
- ③ 日本鳥類標識協会編集委員会委員長
- ④ 日本鳥学会日本鳥学会誌編集委員
- ⑤ 全国鳥類繁殖分布調査解析ワーキンググループ
- ⑥ 東邦大学理学部非常勤講師
- ⑦ 東邦大学客員准教授

仲村 昇

- ① 国土交通省河川水辺の国勢調査 スクリーニング委員会委員
- ② 国土交通省河川水辺の国勢調査 アドバイザー
- ③ 日本鳥類標識協会庶務幹事

尾崎清明

- ① 環境省中央環境審議会自然環境部会臨時委員
- ② 環境省中央環境審議会野生生物小委員会委員
- ③ 環境省中央環境審議会鳥獣保護管理のあり方検討小委員会委員
- ④ 環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会委員鳥類分科会
- ⑤ 環境省野生生物保護対策検討会やんばる希少野生生物保護増殖分科会委員
- ⑥ 環境省野生生物保護対策検討会アホウドリ保護増殖検討会委員
- ⑦ 環境省トキ野生復帰検討委員
- ⑧ 環境省ノグチゲラ保護増殖事業ワーキンググループ委員
- ⑨ 環境省ヤンバルクイナ保護増殖事業ワーキンググループ委員
- ⑩ 環境省奄美・琉球世界遺産候補地科学委員会委員
- ⑪ 環境省奄美・琉球世界自然遺産候補地に関するワーキンググループ会議

- ⑫ 環境省国内希少野生動植物種の追加指定に関する検討会
- ⑬ 環境省ライチョウ保護増殖事業検討会検討員
- ⑭ (公財) 日本動物園協会高碕賞選考委員
- ⑮ 自然環境研究センター狩猟鳥獣のモニタリングのあり方に係る調査検討業務における検討委員 (環境省事業)
- ⑯ 日本野鳥の会ナベヅル・マナヅルの新越冬地形成等に関する専門家会合および検討会委員 (環境省事業)
- ⑰ 千葉県生態系ワーキンググループ委員
- ⑱ 周南市ツル保護協議会委員および専門委員
- ⑲ 日本鳥学会会長・評議員
- ⑳ 日本鳥学会鳥類保護委員
- ㉑ 山階鳥類研究所理事
- ㉒ 国際湿地連合日本委員会理事
- ㉓ 日本鳥類標識協会評議員
- ㉔ 日本鳥類標識協会海外担当幹事
- ㉕ 東邦大学大学院理学研究科客員教授
- ㉖ 新潟大学研究推進機構超域学術院 朱鷺・自然再生学研究センター協働研究員

齋藤武馬

- ① 日本鳥学会評議員
- ② 日本鳥学会鳥類分類委員会委員長
- ③ 山階鳥類学雑誌編集委員
- ④ 日本鳥類標識協会評議員
- ⑤ 日本鳥類標識協会 『日本鳥類標識協会誌』 編集幹事・編集委員

佐藤文男

- ① 国土交通省航空局鳥衝突防止対策委員
- ② 山梨県環境影響評価審議会委員
- ③ (一財) 航空保安協会理事
- ④ 日本鳥類標識協会評議員
- ⑤ 環境省東北地方事務所「平成 30 年度 国指定日出島鳥獣保護区裸地化対策業務」におけるアドバイス及び現地指導

千田万里子

- ① 日本鳥類標識協会庶務幹事
- ② 日本鳥学会企画委員
- ③ 日本鳥学会 2018 年度大会実行委員 (託児)

富田直樹

- ① 日本鳥類標識協会庶務幹事
- ② 日本鳥類標識協会 『日本鳥類標識協会誌』 編集委員
- ③ 日本鳥学会英文誌 『Ornithological Science』 編集委員
- ④ 日本獣医生命科学大学非常勤講師

鶴見みや古

- ① 千葉市環境影響評価審査会委員
- ② ヒトと動物の関係学会評議員

山崎剛史

- ① GBIF 日本ノード運営委員
- ② 日本鳥学会評議員
- ③ 日本鳥学会英文誌編集委員会副委員長
- ④ 日本鳥学会目録編集委員会副委員長
- ⑤ 日本鳥学会分類委員会副委員長
- ⑥ 日本鳥学会基金運営委員会委員
- ⑦ 日本鳥学会渉外担当(自然史学会連合)
- ⑧ 日本動物分類学会電子化に関する小委員会委員
- ⑨ 山階鳥類学雑誌編集委員会委員
- ⑩ 神戸学院大学非常勤講師

山階鳥類研究所

- ① 国連生物多様性の10年日本委員会

吉安京子

- ① 日本鳥類標識協会会計

油田照秋

- ① 日本鳥学会2018年度大会実行委員
- ② 日本鳥類標識協会誌編集委員

## Ⅲ-6. 所蔵資料の利用実績・その他

### 1. 標本

標本閲覧者 のべ 143 人

標本貸出 1 件 3 点

- ・玉川高島屋夏休み親子企画展『タッチ&トライ!“光”と“音”で遊ぶ バーチャルバーードパーク』(2018 年 7 月 19 日～8 月 17 日)。標本 3 点

画像提供 1 件 1 点

- ・株式会社アーテファクトリーに書籍『ぴっかりしぜんずかん』掲載のため、画像 1 点

### 2. 図書および文化誌資料

#### 図書

- ・図書資料閲覧者数 のべ 12 人
- ・文献複写 5 件 15 文献
- ・図書資料整理の成果として実施した本研究所主催写真展「下村兼史生誕 150 周年—100 年前にカワセミを撮った男」に下村兼史写真資料等 263 点を提供した。
- ・本研究所が所蔵するビデオテープ (U-matic) ビデオ 240 本を「NHK アーカイブス番組発掘プロジェクト」への協力として、貸出しを行った (継続中)。

#### 文化誌資料

- ・山階家史料 (学習院大学史料館寄託) 1 点 (硯箱) を学習院大学史料館 平成 30 年度春季特別展および関連出版物掲載のために (平成 30 年 4 月 2 日～5 月 26 日) に提供
- ・山階家史料 (学習院大学史料館寄託) 6 点 (硯箱、ボンボニエールなど) を華ひらく皇室文化展実行委員会企画「明治 150 年記念 華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美」展 (平成 30 年 4 月 17 日～平成 30 年 5 月 10 日、徳川美術館、秋田市立泉州美術館、京都府京都文化博物館、泉屋博古館分館、学習院史料館) および関連出版物掲載のために提供
- ・山階家史料 (学習院大学史料館寄託) 2 点 (ボンボニエール) を学習院同窓会・桜友会平成 30 年カレンダー掲載のために提供

### 3. 広報

資料提供・貸出等 2 件

- ・河邊久男(2018)「そして巣が見つかった～ホシガラス物語～」(千葉県野鳥の会会報「房総の鳥」no. 536.) に山階鳥研ウェブサイトの「所蔵名品から第3回 日本で初めて発見された巣—ホシガラス (スズメ目カラス科) —」所載のホシガラスの巣の写真を提供。
- ・「講談社の動く図鑑WONDER MOVE『世界遺産』」(高木秀雄・西谷大(監修)、2018、講談社) にアホウドリの小笠原移送の画像1点を提供。

### 4. データベースアクセス数

本年度のアクセス数は、標本データベースがのべ 976,011 人、蔵書検索(OPAC)はのべ 167 人であった。

## 5. 鳥類標識調査データ利用状況

鳥類標識調査データ利用申請書の提出を求め、審査し必要なデータの提供を行っている。

今年度は47件の申請があり、目的別にみると研究目的が32件、行政資料が8件、教育・啓発目的が6件、保全保護関係が1件であった。



## Ⅲ-7. 新聞・雑誌・メディア記事掲載記録

### ● 新聞・テレビニュース・ネットニュースでの報道

※ 同じ記事が同じ社の新聞とネットニュースに掲載されているのを知ることができた場合は、新聞を見出しとして「ネットニュースにも掲載」とした。

#### <アホウドリ保護>

- ・ アホウドリ 我孫子の鳥類彫刻家・内山さん、鳥島の絶滅危惧種救う 模型制作で復活計画に一役／千葉（毎日新聞（ネット）、2018/5/16）
- ・ アホウドリ 絶滅危機脱出 伊豆諸島・鳥島 5000羽突破（産経新聞、2018/5/17）
- ・ アホウドリのひな、3年連続で誕生 小笠原・鴛島（産経ニュース（ネット）、2018/5/29）
- ・ アホウドリのひな誕生、小笠原（どうしん電子版、2018/5/29、ほかに大分合同新聞、千葉日報、沖縄タイムス、西日本新聞、神奈川新聞、goo ニュース、山形新聞、新潟日報、佐賀新聞、デイリースポーツ、四国新聞、愛媛新聞等のネットニュースにも掲載）
- ・ （アホウドリのヒナの巣立ち）（日本経済新聞「窓」、2018/5/30）
- ・ アホウドリひな1羽誕生 小笠原諸島・鴛島／東京（毎日新聞（ネット）、2018/6/6）
- ・ アホウドリ小笠原に定着 「移住」プロジェクト10年（日本経済新聞（ネット）、2018/6/9）
- ・ アホウドリ写真展@品川（朝日新聞夕刊、2018/9/19、p. 7）
- ・ アホウドリ研究に「尖閣」の壁 上陸調査できず（朝日新聞DIGITAL、2018/10/20）
- ・ アホウドリ「完全復活」絶滅宣言乗り越え鳥島で1000つがい確認 42年の調査・保護「卒業」長谷川博さん 1000羽乱獲の歴史（読売新聞夕刊、2018/12/27、出口室長コメント）

#### <鳥類標識調査>

- ・ 7月の確認は初 クロツラヘラサギ 識別番号装着（宮古毎日新聞、2018/7/15、p. 15）
- ・ クロツラヘラサギ 伊良部に11羽飛来（宮古毎日新聞（ネット）、2018/12/14）
- ・ 最高齢のオオハクチョウ 別海で確認 放鳥から25年10ヵ月（どうしん電子版、2019/2/21）

#### <モニタリングサイト1000海鳥調査>

- ・ 海鳥が、消えて行く 60年間で7割減少（京都新聞夕刊、2019/2/5、p. 4、富田研究員コメント）
- ・ 世界の海鳥が減っている 漁網に混獲 温暖化の影響も心配（信濃毎日新聞夕刊、2019/2/6、p. 3、富田研究員コメント）

#### <ブッポウソウの渡り調査>

- ・ ブッポウソウの飛来ルート解明（南信州新聞社、2018/6/19）

#### <コブハクチョウ移動調査>

- ・ コブハクチョウ鳥と共存、道探れ 農業被害防止へ移動調査 我孫子市鳥の博物館など「首輪見たら報告を」／千葉（毎日新聞（ネット）、2018/4/19）

#### <ナベヅル保護>

- ・ ナベヅルのねぐらに豪雨の影響（NHK NEWS WEB、2018/10/3、尾崎副所長コメント）
- ・ 中国から越冬で四国へ、初確認 絶滅危惧種のナベヅル（共同通信（ネット）、2019/1/17、ほかに産経新聞、中日新聞、静岡新聞、四国新聞等のネットニュースにも掲載）
- ・ 黒竜江省で放鳥のナベヅル 四国にも飛来 同一個体が鹿児島、徳島、高知3県で観察は初（Science Portal China（科学技術振興機構サイト）、2019/1/18）
- ・ 四国への直接飛来、初確認＝絶滅危惧種ナベヅル―越冬地分散化に期待・山階研（時事ドットコム、2019/1/26、尾崎副所長コメント）

#### <ヒガシシナアジサシの確認>

- ・ 希少アジサシの飛来確認、日本初、宮古島で撮影、山階鳥類研が発表（沖縄タイムスプラス（ネット）、2018年10月26日、ほかに琉球新報、京都新聞にも掲載）
- ・ 世界的希少鳥 宮古島にヒガシシナアジサシ1羽、国内初確認（毎日新聞（ネット）、2018/10/26、平岡専門員コメ

ント)

- ・ 生息数が世界で100羽下回る鳥、宮古島で確認 (YOMIURI ONLINE、2018/10/26、尾崎副所長コメント)

#### <コウノトリの保全>

- ・ 4歳の雄コウノトリげんきくんを主役に児童書 郷公園園長出版 (神戸新聞、2018年10月3日、ネットニュースにも掲載)
- ・ コウノトリ主人公の児童書 豊岡の全小中校に寄贈 筆者の郷公園長・山岸さん (神戸新聞、2018年10月12日)
- ・ 野外で傷つくコウノトリ最多 野田では9羽放鳥 (産経新聞千葉版、2019/1/23、p. 23、奥野所長コメント)
- ・ コウノトリ野生復帰に貢献 豊岡・郷公園の園長退任 (産経ニュース (ネット)、2019/3/21)
- ・ コウノトリの野生復帰に尽力 郷公園 山岸園長退任へ 後任に江崎・統括研究部長 (神戸新聞、2019/3/21、p. 27、神戸新聞NEXT (ネット) にも掲載)
- ・ コウノトリ“普通の鳥”に 餌など環境に課題、後継者に託す 郷公園退任の山岸園長会見 (神戸新聞但馬版、2019/03/21)

#### <メボソムシクイの系統研究>

- ・ 見た目は同じに見えても、「さえずりの違い」で新種発見！メボソムシクイの秘密. From『図鑑.jp』山で出会う「これ何？」を教えます. (高木憲太郎) (ヤマケイオンライン 2018/9/6、齋藤研究員協力)

#### <山階鳥研から寄贈の昆虫標本>

- ・ 日本初公開アリ 15人の昆虫学者が集めた東京大学総合研究博物館「珠玉の昆虫標本」レポート (ほとんど0円大学 (ネット)、2018/10/25)

#### <下村兼史写真展>

- ・ 野鳥撮影 先駆者のとりこ 記録性と美しさ 生態写真家・下村兼史の作品を世に (塚本洋三) (日本経済新聞、2018/9/7 p. 36)
- ・ 野鳥写真の原点 下村兼史の生涯 100年前にカワセミを撮った男 有楽町で21日から 図鑑原画など展示 (東京新聞、2018/9/11、p. 23)
- ・ 100年前にカワセミを撮った男がいた！知られざる野鳥生態写真の先駆者、下村兼史の業績をしのぶ (米山正寛) (WEBRONZA (ネット)、2018/9/12)
- ・ 鳥を旅する (大塚茂夫) (ナショナルジオグラフィック日本版2018年9月号、24(9):30-51.)
- ・ 下村兼史生誕115周年 100年前にカワセミを撮った男・写真展 (カメラマン2018年9月号、p. 159)
- ・ 一下村兼史生誕115周年 — 100年前にカワセミを撮った男・写真展 (ユリカモメ (日本野鳥の会東京)、2018年9月号、p. 18)
- ・ 生誕115年記念「下村兼史写真展」が開催 乾板の時代、日本で初めて野鳥を撮った男 (CAPA 2018年9月号、p. 53)
- ・ 下村兼史生誕115周年 『100年前にカワセミを撮った男写真展』 (CAPA 2018年10月号、p. 168)
- ・ 1世紀前 野鳥に迫った 下村兼史写真展 (朝日新聞夕刊、2019/9/18)
- ・ 野鳥の一瞬 生き生きと26日まで、有楽町 下村兼史氏の作品展 (読売新聞、2018/9/22)
- ・ 山階鳥類研究所 下村兼史生誕115周年 「100年前にカワセミを撮った男・写真展」(告知) (Birder 2018年9月号32(9):75)
- ・ 下村兼史 生誕115周年100年前にカワセミを撮った男 (アサヒカメラ 2018年9月号)
- ・ 日本野鳥生態写真の父、下村兼史の写真展を開催 (ソトコト 2018年10月号)
- ・ 下村兼史生誕115周年 「100年前にカワセミを撮った男」写真展 (デジタルカメラマガジン 2018年9月号、19(9))
- ・ 一下村兼史生誕115周年 — 100年前にカワセミを撮った男・写真展 (野鳥 2018年8月号、83(7):37)
- ・ 下村兼史生誕115周年 — 100年前にカワセミを撮った男・写真展 (飯沢耕太郎) (Artscape, DNP Museum Information Japan (ネット)、2018/10/1)
- ・ 下村兼史生誕115周年 — 100年前にカワセミを撮った男・写真展 日本の自然写真の先駆者、下村兼史の展覧会 (飯沢耕太郎) (日本カメラ 2018年11月号、164-165)

#### <皇居の鳥類調査>

- ・ 皇居の自然<4> 緑地が野鳥の新天地に (読売新聞夕刊、2018年11月8日、p. 8)

#### <山階芳麿賞>

- ・ 山階賞に兵庫県立大・江崎さん コウノトリ復帰に貢献 (東京新聞 (ネット)、2018/6/28)
- ・ 山階芳麿賞に江崎保男さん (朝日新聞 2018/6/29 p. 33 社会、ネットニュースにも掲載)
- ・ 江崎部長に山階芳麿賞 コウノトリの郷公園 野生復帰に尽力 (読売新聞但馬版、2018/7/4、p. 29)
- ・ (e ひと) 山階芳麿賞を受けた、兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長・江崎保男さん 66 歳 真の野生復帰目指す (朝日新聞夕刊、2018/7/17、p. 7、ネットニュースにも掲載)
- ・ 編集委員インタビュー 生物多様性 復活の象徴 コウノトリ野生復帰の取り組み、どう生かす? 兵庫県立大学大学院 江崎保男さん (神戸新聞 2018 年 8 月 5 日、p. 7)
- ・ 時のひと コウノトリ保護の功績で山階芳麿賞を受賞した 江崎保男さん (京都新聞 2018/9/8 p. 7、ほかに静岡新聞等も掲載)

#### <京都市動物園と連携協定>

- ・ 野生動物や環境保全など 京都市動物園と山階鳥類研究所と連携 (KBS 京都 (ネット)、2018/11/12)
- ・ 京都市動物園と山階鳥研連携 協定締結 野生動物保護の研究や企画展 (京都新聞、2018/11/13、p. 28)
- ・ 野生動物研究で連携 (読売新聞地域版、2018/11/13、p. 33)

#### <ジャパン・バード・フェスティバル>

- ・ 秋の楽しみ十人十色 野鳥の姿に興奮 我孫子「バードフェス」 (朝日新聞 (千葉版?)、2018/11/4)

#### <「島の鳥類学」>

- ・ 南西諸島の島の歴史 28 人が紹介 (朝日新聞夕刊、2018/11/4、p. 11)

#### <関係者>

- ・ 鳥類学の第一人者中村司さん (山梨大名誉教授) 渡り鳥研究 常に最前線 追悼 この道 (山梨日日新聞地域版、2018/12/29、p. 16)
- ・ 鎌倉にもかつて旧皇族の別邸 山階宮家 敷地内に地震観測所 (産経ニュース (ネット)、2019/3/7)

#### <山階鳥研コメント>

※ 記事文中にコメントした所員の氏名があるものはその氏名を示し、山階鳥研のコメントとだけあるものはその旨示した。

- ・ 鮮やか珍鳥飛来 天売 チャバラアカゲラ撮影 (北海道新聞夕刊 p. 10、2018/5/17、山階鳥研コメント、ネットニュースにも掲載 (5/18))
- ・ 熱帯の海鳥 長崎に 14 年から確認、300 羽以上 繁殖確認へ高まる期待 (日本経済新聞夕刊、2018/12/15、p. 9、富田研究員コメント)
- ・ 長崎に熱帯の海鳥カツオドリの大群 五島列島の岩礁に 300 羽以上 (産経ニュース (ネット)、2018/12/12、富田研究員コメント)
- ・ 冬の翼 競演 (※豊岡市へのマナヅル飛来) (読売新聞但馬版・丹波版、2019/1/14、山階鳥研コメント、ネットニュースにも掲載)

#### <その他>

- ・ ウェブサイト「図鑑.jp」での種同定コメント (22 件、平岡広報 CD)

#### <テレビ・ラジオへの出演・コメント・協力>

- ・ NHK<1min ほっと> 一村兼史生誕 115 周年 — 「100 年前にカワセミを撮った男」写真展 (告知) 【ひるまえほっと〜関東甲信越】 (2018/9/25)
- ・ テレビ朝日 「ソノサキ『フラミンゴの形態について』」 (2018/8/9、岩見研究員協力)
- ・ NHK 「ダーウィンが来た! 『神社の島へGO! 青森ウミネコ物語』」 (2018/4/8放送、富田研究員協力)
- ・ NHK 「ダーウィンが来た! 『世界初調査! 東京の秘境 孀婦(そうふ)岩』」 (2019/4/28、佐藤研究員、岩見研究員協力)
- ・ NHK 「ダーウィンが来た! 第603回『熱帯のミステリー 踊る! 漆黒の人面鳥』」 (2019/6/25放送、森本研究員協力)
- ・ NHK 「ワイルドライフ『南太平洋 ニューギニア島踊る南国の鳥たち 求愛術を競う』」 (2019/04/22 放送、森本研究員、平岡広報 CD 協力)

- NHK「猫のしっぽカエルの手『2019 冬～京都 大原 ベニシアの手づくり暮らし～』」（鳥の同定確認、2019/2/23 放送、平岡広報 CD）
- NHK「グレートネイチャースペシャル『アマゾン天空の密林～新種発見に挑む～』」（ブラジル産鳥類の同定、2018/11/3 放送、平岡広報 CD）

#### 「さわやか自然百景」

- NHK「さわやか自然百景『東京 井の頭公園』」（鳥の同定確認、2018/4/29 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『北海道夕張岳』」（鳥の同定確認、2018/9/2 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『北アルプス 蝶ヶ岳』」（鳥の同定確認、2019/10/21 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『西表島浦内川』」（鳥の同定確認、2018/10/28 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『長良川 夏』」（鳥の同定確認、2018/11/4 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『房総半島いすみの海辺』」（鳥の同定確認、2018/11/11 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『北海道鶴川上流』」（鳥の同定確認、2018/11/25 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『秋 岩手山』」（鳥の同定確認、2019/12/2 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『石垣島名蔵アンパル』」（鳥の同定確認、2019/12/9 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『下北半島 夏から秋』」（鳥の同定確認、2019/12/16 放送、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景 新春特集『動く大地に命つなぐ』」（鳥の同定確認、2019/1/2、平岡広報 CD）
- NHK「さわやか自然百景『冬 北海道 美瑛』」（鳥の同定確認、2019/3/24、平岡広報 CD）

#### 「ニッポンの里山」

- NHK「ニッポンの里山『命にぎわう農家民宿の里』」（石川県能登町などの鳥の同定、2018/12/10 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『シマエナガ舞う北国の森』」（北海道占冠村の鳥の同定、2018/12/11 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『草刈りでよみがえった花園』」（千葉県佐倉市の鳥の同定、2018/12/22 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『ふたつの花園が生まれる畑』」（福島県金山町の鳥の同定、2019/1/19 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『虫たちの楽園 丘の畑』」（北海道美瑛町の鳥の同定、2019/2/4 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『サクラと暮らす島』」（愛媛県岩城島の鳥の同定、2019/2/5 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『野鳥が集まるカエデの森』」（埼玉県秩父市の鳥の同定、2019/2/11 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『アカコッコが舞うシダの島』」（東京都青ヶ島の鳥の同定、2019/2/23 放送、平岡広報 CD）
- NHK「ニッポンの里山『冬の蛍がまたたく南国の石垣』」（沖縄県西表島の鳥の同定、2019/3/23 放送、平岡広報 CD）

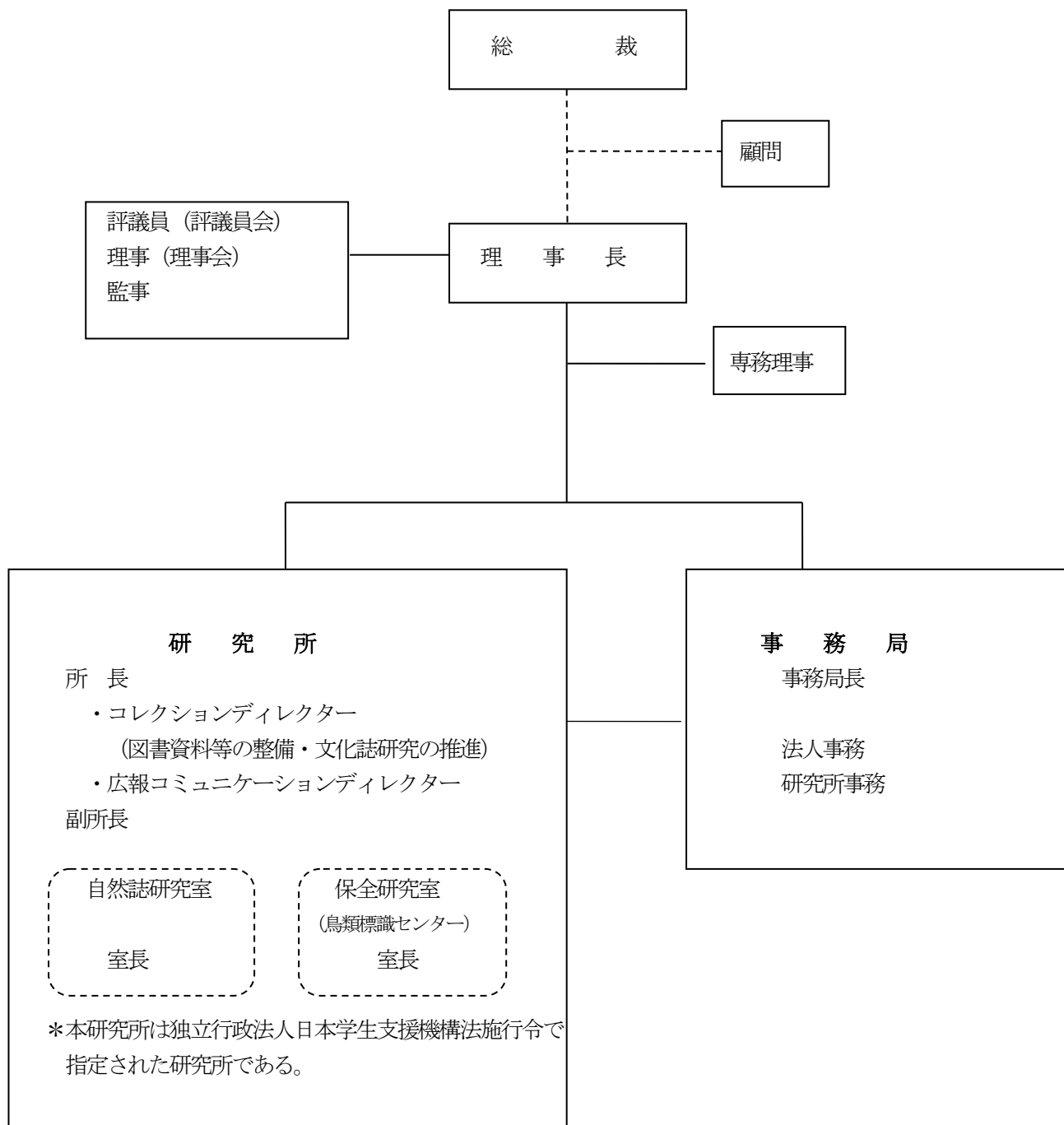
#### “Wild Hokkaido”

NHK World “Wild Hokkaido” （鳥の英名の確認、計6件、仲村研究員）

## IV 資料編

## IV-1. 組織図

(平成31年3月31日現在)



## IV-2. 人員構成

平成31年3月31日現在

総裁	秋篠宮文仁親王（理学博士）
顧問	島津久永（非常勤）
理事長	壬生基博（非常勤、理事）
副理事長	（空席）
専務理事	林 良博（非常勤、農学博士、理事）
研究所長	奥野卓司（非常勤、学術博士、理事）
研究所副所長	尾崎清明（非常勤、理学博士、理事）
事務局長	北條政利（常勤）

### ●研究所長直属（常勤 2名）

平岡 考	広報コミュニケーションディレクター（自然誌研究室専門員 兼務）
鶴見みや古	コレクションディレクター（自然誌研究室専門員 兼務）

### ●自然誌研究室（所属員 常勤5名）

山崎剛史（室長）	研究員（理学博士）
浅井芝樹	研究員（理学博士）
齊藤武馬	研究員（理学博士）
小林さやか	専門員
岩見恭子	研究員

### ●保全研究室（所属員 常勤8名）

出口智広（室長）	研究員（農学博士）
吉安京子	専門員
仲村 昇	研究員
富田直樹	研究員（理学博士）
千田万里子	専門員
森本 元	研究員（理学博士）
油田照秋	研究員（環境科学博士）
谷部百合子	経理担当

### ●事務局（所属員 常勤3名）

北條政利	局長
峰崎善次	事務局員
高橋敏之	経理担当
菅原真理	庶務担当

（以下、総裁及び顧問を除く）

●人員数：理事長1、専務理事1、所長1、副所長1、所員18 合計22

●性別：男性15、女性7 合計22

●博士号人員数：専務理事1、所長1、副所長1、所員7 合計10

### IV-3. 評議員名簿

公益財団法人山階鳥類研究所

平成31年3月31日

評議員定数12名 現在数数11名

	氏名	現職名	常勤/ 非常勤
評議員	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長	非常勤
"	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副会長	"
"	鈴木 榮一	(本法人評議員)	"
"	柳澤 紀夫	(本法人評議員)	"
"	赤木 攻	大阪外国語大学名誉教授	"
"	小宮 輝之	(本法人評議員) (元 恩賜上野動物園園長)	"
"	廣居 忠量	(本法人評議員) (元(独行)森林総合研究所理事長)	"
"	堀 由紀子	新江ノ島水族館 名誉館長	"
"	根津 公一	根津美術館 理事長 館長 (株)東武百貨店 名誉会長	"
"	越智 光夫	国立広島大学長	"
"	堀内 光一郎	富士急行株式会社代表取締役社長	"



## IV-4. 役員名簿

公益財団法人 山階鳥類研究所

平成31年3月31日

理事定数12名 現在数11名

役職名	氏名	現職名	常勤/非常勤
理事長	壬 生 基 博	森アーツセンター副理事長	非常勤
専務理事	林 良 博	(独)国立科学博物館館長(農学博士)	〃
理事	山 岸 哲	本財団研究所名誉顧問(理学博士)	〃
〃	小 林 隆 成	羽黒山今泉院大聖寺 住職	〃
〃	中 村 浩 志	中村浩志国際鳥類研究所代表理事 信州大学名誉教授(理学博士)	〃
〃	尾 崎 清 明	本財団研究所副所長(理学博士) 社会福祉法人かしわ学園代表理事	〃
〃	進 士 五 十 八	福井県立大学学長 東京農業大学名誉教授(農学博士)	〃
〃	山 田 健	サントリーホールディングス(株) エコ戦略部チーフスペシャリスト 兼 水科学研究所主席研究員	〃
〃	黒 田 玲 子	東京理科大学教授(理学博士) 東京大学名誉教授	〃
〃	奥 野 卓 司	本財団研究所長(学術博士) 関西学院大学先端社会研究所長 関西学院大学大学院社会学研究科教授	〃
〃	高 橋 進	TBS テレビ総務局CSR推進部 東京農大「食と博物館」運営委員 「生き物文化誌学会」常任理事	〃

監事定数2名 現在数2名

	氏 名	現職名	常勤/ 非常勤
監 事	小 宮 宗 太 郎	公認会計士	非常勤
〃	筒 井 眞	当法人監事	〃

## IV-5. 特任・客員研究員名簿

特任研究員(五十音順)

平成31年3月31日

	氏名	職名	研究テーマ
1	上田 恵介	立教大学名誉教授	鳥類の行動生態学・進化生態学に関する研究
2	上塚 浩司	茨城大学農学部食生命科学科 動物保健衛生学研究室 准教授	野鳥の腸内細菌叢の研究
3	遠藤 秀紀	東京大学総合研究博物館教授	鳥類の運動機能に関する比較機能形態学 的研究
4	岡島 秀治	東京農業大学名誉教授	鳥類と昆虫の関係に関する研究
5	小川 博	東京農業大学農学部生命資源開発学科 教授	鳥類の繁殖生物学に関する研究
6	小城 春雄	北海道大学名誉教授	海鳥類と水産資源の研究
7	加藤 克	北海道大学北方生物圏フィールド科学セ ンター助教	標本史および博物学的資料の調査研究
8	佐藤 克文	東京大学大気海洋研究所教授	水棲動物の生体力学研究
9	高木 昌興	北海道大学大学院理学研究院 生物科学部門教授	鳥類の行動生態学・系統地理学に関する 研究
10	高田 勝	(有)今帰仁アグー 代表	地域固有文化と鳥類の多面的関係の研 究
11	塚本 洋三	(有)バード・フォト・アーカイブス取締役	歴史的な写真資料および鳥学資料の 調査研究
12	中島 功	東海大学医学部医学科客員教授	鳥インフルエンザ感染個体の スクリーニングに関する共同研究
13	中村 浩志	一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 代表理事 信州大学名誉教授	野生鳥類の生態に関する研究
14	西海 功	(独)国立科学博物館 動物研究部研究主幹	鳥類の分子系統地理学・DNAバーコー ディング事業に関する共同研究
15	長谷川 政美	統計数理研究所名誉教授	鳥類の系統に関する研究
16	福田 勝洋	名古屋大学名誉教授	1. 鳥類羽毛の微細形態データの集積と 利用法の検討 2. 鳥類血管系の解析
17	藤巻 裕蔵	帯広畜産大学名誉教授	日本・ロシア産鳥類の鳥相、分類、系統 地理学に関する研究
18	真鍋 真	(独)国立科学博物館 標本資料センター コレクションディレク ター	古生物学に関する研究
19	綿貫 豊	北海道大学水産科学研究院教授	海洋性鳥類の生態研究

### 特任専門員

	氏名	職名	研究テーマ
1	内山 春雄	厚生労働省 卓越技能者 現代の名工 千 葉県指定伝統工芸品 楽堂象嵌 我孫子 市名誉市民 ほか	バードカービング作成技術の普及及び保 全研究・教育への応用 ※平成30年10月1日就任

## 客員研究員

	氏名	職名	研究テーマ
1	茂田 良光	元(公財)山階鳥類研究所研究員	鳥類の渡り・識別・分類 2017.5.1～2020.3.31
2	蘇 雲 山	(一財)環境文化創造研究所主席 研究員	①人とトキが共生できる自然環境・社会環境に関する研究 ②大陸におけるコウノトリ繁殖地・越冬地の情報研究 2019.4.8～2022.4.7
3	園部浩一郎	自営	日本の鳥学に係わる鳥類画の調査・整理および研究 2019.4.1～2022.3.31

## フェロー名簿

	氏名	職名	研究テーマ
1	黒田 清子	玉川大学教育博物館 外来研究員	カワセミの生態行動調査 ゲールド鳥類図譜調査
2	米田 重玄	元(公財)山階鳥類研究所研究員	2017.10.2～2027.10.1
3	岡 奈理子	元(公財)山階鳥類研究所研究員	2017.10.2～2027.10.1
4	佐藤 文男	元(公財)山階鳥類研究所研究員	2019.3.25～2029.3.24

## IV-6. 意見交換会 記録

鳥研事 30 第 9 号  
平成 30 年 7 月 24 日

公益財団法人山階鳥類研究所

特任研究員 及び 特定奨励費総括班メンバー各位

公益財団法人山階鳥類研究所  
所長 奥野卓司

### 意見交換会（開催のお知らせ）

拝啓

日頃より当研究所の活動にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当研究所は平成 23 年度以降、毎年秋に特任研究員とのカジュアルな意見交換会を開催してまいりました。当研究所全体の研究成果をご報告し研究所の活動に対するご理解を深めていただくとともに、研究の方向性について検討することが目的です。平成 27 年度からは科学研究費補助金（特定奨励費）総括班メンバーにもご出席をいただいております。私どもにとって大変有意義な会合でありますので本年も同様に実施したいと考えております。

本年度の発表は 4 題とし、うち 2 題は主に鳥類標識調査事業にかかわる内容とし、残り 2 題は X 線 CT 画像等のデータ配信事業と近年のオープンサイエンス／オープンデータの潮流を扱う予定です。演題は最終案が固まり次第お知らせいたしますが、本状宛先各位及び所員のほか、外部有識者にもご協力をいただく方向で考えております。

ご多忙中とは存じますが、是非ご出席の程よろしくお願い申し上げます。ささやかな懇親会も準備いたしますので、あわせてご参加ください。

なお、意見交換会及び懇親会には当法人総裁秋篠宮殿下もご臨席の予定です。

敬具

記

#### 【意見交換会】

日 時：平成 30 年 9 月 5 日（水）14：00～17：05

場 所：東京大学農学部 弥生キャンパス 中島董一郎記念ホール

#### 【懇親会】

時 間：17：30～18：30

場 所：アブルボア（農学部弥生キャンパス内）

会 費：@2,000 円

以上

意見交換会

日 時：平成30年(2018)9月5日(水) 14:00～17:05  
場 所：東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール

プログラム

- 14:00 開会のご挨拶 及び 趣旨説明 所長 奥野卓司
- 14:05～14:25 発表(1)  
「鳥類標識調査の概要」 保全研究室研究員 森本 元
- 14:25～14:45 発表(2)  
「野鳥の腸内細菌叢の調査」 特任研究員・茨城大学准教授 上塚浩司
- 14:45～15:00 休憩(15分)
- 15:00～15:20 発表(3)  
「当研究所データ配信事業の概要」 自然誌研究室室長 山崎剛史
- 15:20～15:40 発表(4)  
「オープンサイエンスの現在と将来」 国立情報学研究所教授 山地一禎
- 15:40～15:55 休憩(15分)
- 15:55～17:00 総合討論 司会 所長 奥野卓司
- 17:00～17:05 閉会のご挨拶 理事長 壬生基博

(各発表の持ち時間20分には、質疑応答の時間がふくまれています。)

※懇親会(@アブルボア) 17:30～18:30

非公開

非公開

非公開



非公開

非公開

## IV-7. 研究成果発表会 記録

平成 30 年度

文部科学省科学研究費補助金（特定奨励費）による研究事業の  
研究成果発表会

資料集

# プログラム

日時：平成31年1月25日（金）14:00～16:30

会場：東京大学農学部フードサイエンス棟 2F 中島薫一郎記念ホール

14:00～14:05 開会のご挨拶  
秋篠宮文仁親王殿下（山階鳥類研究所総裁）

14:05～14:10 趣旨説明  
奥野卓司（山階鳥類研究所所長）

## 特定奨励費成果報告

14:10～14:25 平成30年度成果報告（1）資料の維持管理班  
山崎剛史（山階鳥類研究所自然誌研究室室長）

14:25～14:40 平成30年度成果報告（2）資料の拡充班  
浅井芝樹（山階鳥類研究所自然誌研究室研究員）

14:40～14:55 平成30年度成果報告（3）情報公開とネットワーク構築班  
森本元（山階鳥類研究所自然誌研究室研究員）

14:55～15:30 総合討論（35分）  
司会：奥野卓司（山階鳥類研究所所長）

15:30～15:50 —— 休憩（20分） ——

15:50～16:15 総括班による自己評価

16:15～16:20 感想およびご挨拶  
磯谷桂介（文部科学省研究振興局長） <暫定>

16:20～16:25 感想およびご挨拶  
堀上勝（環境省自然環境局野生生物課長）

16:25～16:30 閉会のご挨拶  
壬生基博（山階鳥類研究所理事長）

## 研究成果発表会の趣旨説明

本会は、公益財団法人山階鳥類研究所が文部科学省から交付を受けた科学研究費補助金特定奨励費「日本最大の鳥学関連資料の維持管理・拡充・公開に関する研究事業」の平成30年度の事業の進捗を自己点検するとともに、その成果を支援者に報告することを目的としています。

この自己点検は、当研究所所長である私を班長とする総括班によって行われます。本会の前半では、総括班による自己点検の材料として、実務を担当する当研究所職員が事業の進捗を説明します（平成30年度成果報告(1)～(3)）。続いて、当研究所職員を補佐し、共に事業の推進にあたっている当研究所特任研究員を交え、総合討論を行います（この討論には総括班も加わります）。なお、事業の進捗にかかる情報をまとめた本資料集もまた、平成30年度成果報告(1)～(3)、総合討論と並び、総括班による自己点検の材料となります。

総括班による自己点検の結果は、総合討論後、休憩時間をはさんで発表されます。このような自己点検は、今後の事業のよりよい推進のため、不可欠なものだと私共は考えております。

本会には、自己点検の当事者（総括班、当研究所職員、当研究所特任研究員）に加え、当研究所役員及び評議員らが参加します。また、本会には、このほか、本事業の推進に対し、常日頃多大なご支援をくださっている皆様もお招きいたしました。

ご支援者の皆様にはこの場を借りて心より御礼を申し上げます。本会は、本事業の全体像を見ていただくのにとってもよい機会であり、当研究所が日々真摯に事業の推進に取り組んでいることをご理解いただけるものと期待しております。

総合討論の際には、ご支援者の皆様におかれましても、事業のよりよい推進のため、忌憚なくご発言をいただけますと幸いです。

公益財団法人山階鳥類研究所  
所長 奥野 卓司

## 資料 1

## 研究事業の目的

### 【文部科学省提出事業計画調書からの抜粋】

山階鳥類研究所は、創設者である故・山階芳麿博士が皇籍を離脱した後、1932（昭和7）年に設立した山階家鳥類標本館を前身とする、アジアで最も古い鳥学専門の学術研究機関である。85年にわたるその歴史の中、当研究所は一貫して鳥学関連資料の収集に取り組み、鳥学およびその関連分野の発展を支えてきた。

標本資料については、現在、国内最大・約7万点を有するが、これは約1万種を数える世界の鳥種のほぼ半数をカバーする充実したコレクションで、とくに日本・韓国・台湾・太平洋地域の標本に富んでいる（同地域産の標本の保有数は世界最大である）。絶滅種や希少種の標本も多数含み、ミヤコショウビンの標本、カンムリツクシガモの雄標本は、世界で唯一、当研究所のみが保有している。また、新種や新亜種の報告の際の証拠とされ、動物の学名に関する規定集『国際動物命名規約』により、永続的な保管が求められるタイプ標本についても、上記の地域のものを中心に、230点もの資料を有している。

4万冊を数える図書資料についても世界的な稀観書が含まれている。例えば、下図は19世紀のイギリスで活躍したジョン・グールドの鳥類図譜である。石版印刷で刷られたモノクロの図に職人が1点1点色を塗ることにより、カラーの図譜に仕上げられている。

このように、当研究所は、鳥学とその関連分野の発展を支える基盤として、国内はもとより、世界的にも第一級の重要性を持つ資料を保有している。このため、当研究所は、この分野を専門とする日本の研究者、あるいは、東アジア・太平洋地域の鳥類に興味を持つ外国人研究者にとって、欠くことのできない研究の拠点となってきた。しかし、当研究所が保有する資料には、例えば剥製標本のように、適切な管理を怠ると、昆虫による食害やカビの発生等により、その価値がすぐに失われるものが多数含まれている。

そこで本研究事業の第一の目的は、(1) 維持管理のための適切な処置を資料に施し、それを次代に受け継ぐことに置かれる。また、本研究事業では、(2) 資料の拡充にも注力する。人間の経済活動の影響を受け、鳥類の住む世界が急速に変わりつつある現代の資料を収集し、次代に託すことは、資料の作成と長期保管のノウハウを持つ当研究所が果たすべき責務である。さらに、本研究事業では、当研究所が保有する資料の一層の活用の促進、当研究所が蓄積してきた知識・技術の社会への還元を企図し、(3) 情報公開とネットワーク構築にも取り組む。



絶滅鳥カンムリツクシガモの標本（雌雄）。手前が世界に1つだけの雄標本



## 資料2 研究事業期間を通して行う研究事業の内容

### 【文部科学省提出事業計画調書からの抜粋】

「研究事業の目的」に対応する3つの研究項目(1)資料の維持管理班、(2)資料の拡充班、(3)情報公開とネットワーク構築班を設ける。また、(0)総括班を組織し、進捗状況の自己点検と全体の統括にあたらせる。(1)～(3)の具体的な事業内容は以下の通りである。

(1) **資料の維持管理班**：研究所が保有する(a)標本、(b)遺伝解析用組織サンプル(肉片・血液等)、(c)図書資料の品質劣化を防ぐために日常的に必要となる保守業務、整理業務に従事する。また、これらの資料の利用を希望する国内外の研究者をサポートし、資料の品質維持と研究への活用を両立させる。

(2) **資料の拡充班**：野外採集、寄贈受け入れ、国内外の博物館等との交換、購入等により、(a)標本、(b)組織サンプル、(c)図書資料の在庫を増やす。また、保有する資料と人材の活用により、学術的重要性と社会的ニーズが高いが、当研究所でなければ作成の難しい各種データの作成を進める((d)鳥体内部構造のX線CT画像、(e)羽毛の走査電子顕微鏡画像、(f)羽色の紫外線画像、(g)DNAバーコード)。これらのデータは、研究活動の振興のため、速やかにインターネット上に公開され、広く一般の利用に供される(下記(3)参照)。

(3) **情報公開とネットワーク構築班**：当研究所が保有する資料、データの活用促進のため、情報公開を進める。具体的には、当研究所が運営するウェブサイト『標本データベース』<sup>\*1</sup>、『組織サンプルの利用』<sup>\*2</sup>、『蔵書検索システム』<sup>\*3</sup>において、(a)標本、(b)組織サンプル、(c)図書資料の在庫状況を公開する。標本については、標本の写真、標本ラベルの写真をあわせて配信する。また、(2)で作成した(d)X線CT画像、(e)走査電子顕微鏡画像、(f)紫外線画像を上記『標本データベース』にて公開し、誰もが自由にダウンロードし、研究に利用できるようにする。(g)DNAバーコードデータについては、Consortium for Barcode of Lifeが運営するデータベース『Barcode of Life Data System (BOLD)』<sup>\*4</sup>から公開を行う。

<sup>\*1</sup> <http://decochan.net>; <sup>\*2</sup> [http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon\\_tosho/soshiki\\_sample.html](http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon_tosho/soshiki_sample.html);

<sup>\*3</sup> [http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon\\_tosho/toshoDB/toshoDB\\_toppage.html](http://www.yamashina.or.jp/hp/hyohon_tosho/toshoDB/toshoDB_toppage.html); <sup>\*4</sup> <http://www.boldsystems.org>

また、当研究所に蓄積された鳥学の知識・技術を社会に還元するため、以下の事業を行う。(h)学術雑誌『山階鳥類学雑誌』の年2回刊行。(i)一般からの質問を受け付ける窓口の開設。(j)鳥学を一般向けにやさしく解説するセミナー、(k)鳥類を対象にした野外調査のプロフェッショナルを育成するための講習会・実習、(l)博物館・動物園等の関係者や生物系の学生に鳥類標本の作製技術を伝える実習の開催。(m)『世界鳥類和名辞典』(山階, 1986)の改訂作業。『世界鳥類和名辞典』は、現生のすべての鳥種について和名を整備した大著で、広く一用いられてきたが、近年の分類学的研究の進展により、種の学名が変更になったり、多くの新種が報告されたりした結果、内容の古さが目立つようになってきた。平成27～29年度の特典奨励費事業にて作成し、意見の公募が行われた素案をもとに新和名を考案し、山階鳥類学雑誌上にて公表する。

さらに、当研究所は(n)地方博物館とのネットワークの強化に取り組む計画を立てた。地方博物館には、鳥類標本コレクションを持つものの、予算の制約から、その在庫状況について十分な情報発信を行っていない機関も少なくない。将来的にこれらの博物館と当研究所がコンソーシアムを作り、標本コレクションの情報発信を共同で行うことを視野に入れた活動を開始する。具体的には、これまでに特典奨励費の支援を受けて構築してきたウェブサイト『標本データベース』のソースコードをもとにして、これらの博物館の情報発信が行えるデータベースの開発を進める。平成30～32年度は、パイロットケースとして、我孫子市鳥の博物館の標本コレクションを対象にこの作業を進める。

### 資料3 研究事業を行う組織

#### 【文部科学省提出事業計画調書からの抜粋】

研究事業の内容	研究責任者	研究者及び補助者
(0) 総括班	奥野卓司（所長）	遠藤秀紀（東京大学教授） 小川博（東京農業大学教授） 真鍋真（国立科学博物館標本資料センター コレクションディレクター） 美濃導彦（京都大学教授） 綿貫豊（北海道大学教授） 高橋敏之（所員・事務担当）
(1) 資料の維持管理班	鶴見みや古（コレクションディレクター・図書担当）	山崎剛史（自然誌研究室室長・標本担当） 浅井芝樹（研究員・組織サンプル担当） 齋藤武馬（研究員・組織サンプル担当） 森本元（研究員・図書担当）
(2) 資料の拡充班	山崎剛史（自然誌研究室室長・CT/紫外線画像担当）	岩見恭子（研究員・標本/CT担当） 小林さやか（専門員・標本担当） 鶴見みや古（コレクションディレクター・ 図書担当） 浅井芝樹（研究員・組織サンプル担当） 齋藤武馬（研究員・組織サンプル/DNAバー コード担当） 森本元（研究員・電顕担当）
(3) 情報公開とネットワーク構築班	平岡考（広報コミュニケーションディレクター・質問対応/セミナー担当）	山崎剛史（自然誌研究室室長・標本データベース/和名整備/コンソーシアム担当） 鶴見みや古（コレクションディレクター・ 蔵書検索システム担当） 浅井芝樹（研究員・雑誌編集担当） 仲村昇（研究員・野外調査実習（陸鳥）担 当） 富田直樹（研究員・野外調査実習（海鳥） 担当） 千田万里子（専門員・質問対応/野外調査 講習会担当） 森本元（研究員・野外調査講習会担当） 岩見恭子（研究員・標本作製実習担当）



平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）  
「特定奨励費」の審査結果の所見について

別添

<（公財）山階鳥類研究所>

貴団体は、昭和7年に設立された国内最大の鳥類研究所として、多数の鳥類標本と鳥類関係の文献収集を行い、それをデータベースにして広く国内外の研究者に公開している。7万点におよぶ鳥類標本は、世界のほぼ半数の鳥類をカバーする貴重な資料である。

また、4万点を越える図書資料にも世界的な稀観書が含まれている。これらの資料には学術的に大きな価値があり、散逸させることなく適切に維持管理し、更なる資料の拡充を図ることが求められる。

平成30年度から平成32年度の事業計画では、資料群の維持管理、拡充、及び情報公開を計画している。それぞれの研究事業の遂行に向けて、資料維持管理班、拡充班、情報公開とネットワーク支援班を組織し、それらの進捗管理と自己評価を総括班が行う体制を整えている。いずれの活動も他の競争的資金にはなじみやすく、特定奨励費による支援が妥当であると考えられる。

今後は、若手研究者の育成に力を入れるなど、貴重な資料の長期的な維持、拡充に向けた取組が進められることを期待する。

科学技術・学術審議会学術分科会  
科学研究費補助金審査部会

## 資料5 事業計画調書の抜粋（上段）と今年度成果（下段）

### (1) 資料の維持管理班

#### 【事業計画における平成30年度事業の内容】

**資料の保守業務：**標本庫・書庫について、(a) 温湿度管理、(b) 害虫・カビの発生状況のモニタリングと発生時の速やかな除去、(c) 清掃、(d) 破損資料の探索と修理を行う。

**資料の整理業務：**未整理の標本、組織サンプル、図書資料について、(e)～(i)の作業を進める。(e) 資料に管理番号を与える。(f) 管理に必要な情報をデジタル化する。(g) 標本と、古文書・古写真・書籍原画等の図書資料については、写真撮影を行い、資料の状態を記録する。(h) 図書資料のうち、書籍については、既存資料との重複品の処分を行う。(i) これら一連の作業を終えた資料を保管庫に配架する。平成30年度には、標本400点、組織サンプル400点、図書資料1,000点について、これらの作業を行う。

**利用者対応：**(k) 国内外の研究者からの資料利用申請を随時受け付け（閲覧・貸出等）、速やかに計画を審査し、適切と判断される場合には、利用の許可を与える。また、(l) 資料の利用に伴う諸業務も本班が担う。

#### 【事業の進展状況及び主な成果】（12月末現在）

**資料の保守業務：**すべての課題を計画通り実施した。図書資料6点の修復を行った。

**資料の整理業務：**すべての目標を達成した。標本については400点の処理を済ませた。組織サンプルについては405点を整理した。図書資料については、未登録図書1,286冊の登録を済ませ、重複図書2,125冊のリストを作成した。なお、本特奨事業で実施した「下村兼史資料の整理」の成果として写真展\*を開催した。

\*「下村兼史生誕115周年—100年前にカワセミを撮った男・写真展」。主催：山階鳥類研究所，会場：有楽町朝日ギャラリー，会期：2018年9月21日—9月26日。

**利用者対応：**すべての課題を計画通り実施した。標本については、のべ121人の閲覧者を受け入れた。博物館等4館に展示素材として標本956点を貸し出した（うち361点は前年度から継続。595点は新規の貸与）。出版社・テレビ局2社に対し、3点の写真・映像資料を提供した。図書については、11人の閲覧者を受け入れた。組織サンプルについては8件の提供依頼があり、2019年1月までに7件について提供した（1件は提供が妥当か審査中）。

**(2) 資料の拡充班****【事業計画における平成30年度事業の内容】**

以下の (a) ~ (g) の資料点数を増やす活動を行う。

- (a) 標本：380 点の増加を目指す。
- (b) 組織サンプル：400 点の増加を目指す。
- (c) 図書資料：80 点の増加を目指す。
- (d) 鳥体内部構造の X 線 CT 画像データ：150 点作成する。
- (e) 羽毛の走査電子顕微鏡画像データ：75 点作成する。
- (f) 羽色の紫外線画像データ：50 点作成する。
- (g) DNA バーコードデータ：日本産鳥類について 70 点作成する。

**【事業の進展状況及び主な成果】（12月末現在）**

すべての目標を達成した。詳細は以下の通りである。

- (a) 標本・(b) 組織サンプル：標本については、収集した遺体・卵殻からの新規作成と寄贈受け入れにより、目標を大幅に上回る3,373点を入手した。組織サンプルについては、野外採集、冷凍保管遺体からの採取、寄贈受け入れにより、405点を入手した。これらの成果は、主として、関係諸機関（環境省、北海道大学、東京大学演習林）との連携強化を図った結果、および、退職した所員のコレクションの寄贈などにより、予想を超える寄贈があったことによるものである。なお、標本材料となる遺体・卵殻および組織サンプルの野外採集は、審査部会の指摘に従い、学術的価値のとくに高い資料の得られる地域（日本国内の12の離島）において重点的に実施した。
- (c) 図書資料：購入・寄贈・交換により、目標を上回る 214 冊を入手した。この成果は、おもに本研究所関係者等からのまとまった寄贈があったためである。
- (d) X線CT画像データ・(e) 電子顕微鏡画像データ：それぞれ154点、75点を作成した。
- (f) 羽色の紫外線画像データ：目標を上回る119点を作成した。
- (g) DNAバーコードデータ：目標を上回る82点のデータを作成した。

**(3) 情報公開とネットワーク構築班****【事業計画における平成30年度事業の内容】**

**インターネットによる情報公開：**(a)『標本データベース』を運営し、400点の標本データを追加する。(b)組織サンプルの在庫状況を示すエクセルファイルをアップロードする（更新頻度年1回）。(c)『蔵書検索システム』を運営し、1,000点の書誌情報を追加する。(d) X線CT画像、(e) 電子顕微鏡画像、(f) 紫外線画像を『標本データベース』にそれぞれ150点、75点、50点のデータを追加する。(g)『Barcode of Life Data System (BOLD)』に70点のDNAバーコードデータを追加する。

**その他の情報公開：**(h)学術雑誌『山階鳥類学雑誌』を刊行する（1巻2号）。(i)一般からの質問受付窓口を開設する。(j)一般向けの鳥学セミナーを、我孫子市鳥の博物館にて、年10回開催する。また、我孫子市が中心となって11月上旬に開かれるジャパンバードフェスティバルでも同様のセミナーを当研究所（千葉県）で行う。(k)野外調査のプロを育成する講習会を当研究所（千葉県）とくまもと森都心プラザ（熊本市）で開催する。また別に野外調査実習を陸鳥を対象として福島県で6回、海鳥を対象として青森県で1回開催する。これらは平成27～29年度の特典奨励費事業で実施された繁殖モニタリングデータ収集と同じ方法で行うため、繁殖モニタリングの継続としての価値も持つ。これらのデータは平成32年度に『山階鳥類学雑誌』で公開される。(l)鳥類標本作製の実習を当研究所（千葉県）と北海道斜里町で開催する。(m)目または科を単位とした新和名の整備を行い、『山階鳥類学雑誌』で公開する。

**ネットワーク構築：**(n)我孫子市鳥の博物館が保有する約3,000点の標本のうち、約1,000点について標本写真・標本ラベル写真を撮影し、同博物館が保有するデータと合わせて『標本データベース』のフォーマットに合うデータを作成する。また、『標本データベース』のソースコードをもとに、コンソーシアムのデータベース作成を進める。

**【事業の進展状況及び主な成果】（12月末現在）**

**インターネットによる情報公開：**(a)『標本データベース』を計画通り運営し、閲覧者数はのべ763,845人であった。年度末までに予定点数の標本データを追加できる見込みである。(b)年度末までに組織サンプルの在庫リストをアップロードできる見込みである。(c)『蔵書検索システム』を計画通り運営し、閲覧者数はのべ124人であった。目標を大きく上回る3,191冊の図書情報を登録した。これは、図書資料の整理作業が当初の想定以上に進んだことによるものである。(d) X線CT画像データ・(e) 電子顕微鏡画像データ・(f) 紫外線画像データは、年度末までに予定した点数のアップロードを終える見込みである。(g) DNAバーコードデータは『Barcode of Life Data System (BOLD)』上で、年度内までに計画を上回る87点のデータを配信開始予定である。

**その他の情報公開：**(h)『山階鳥類学雑誌』の第50巻1号を発行し、第50巻2号を校正中である。(i)一般からの質問約400件に対応した。(j)会場となる我孫子市鳥の博物館側の都合などで9月と11月の開催を見送り、2019年1月開催も含めて8回開催した。(k)野外調査のプロを育成する講習会を当研究所（11/15）で開催し、15名が受講した。2回目の講習会は、開催地を野外調査のプロの育成がより急務だと思われる東海地方に変更し、名古屋国際センター（3/2）で実施予定である。陸鳥を対象とした野外調査実習は、福島県で5月～8月に6回開催し、のべ12人が受講した。海鳥を対象とした野外調査実習は、青森県で5～6月に当初計画を超える3回開催し、のべ13人が受講した。これらの実習は、平成27～29年度の特典奨励費事業で実施された繁殖モニタリングデータ収集と同じ方法で実施された。(l)標本作製講習会は、我孫子市鳥の博物館（6/23）、富良野市博物館（7/15）、佐渡トキ交流センター（10/21）にて実施した。対象は、博物館・水族館・環境省職員等で、合わせて20名が受講した。内容は、標本収集の意義についての講義および標本作製の実習であった。その他、美幌博物館で標本修復および保存の講座および実習を行い（9/28～29）講座72名、実習25名が参加した。(m)現生鳥類の目レベル・科レベルの和名の約半分を整理した報文『鳥類の目と科の新しい和名（1）非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類』を『山階鳥類学雑誌』に投稿し、受理された。年度内に出版される予定である。

**ネットワーク構築：**(n)1,340点の標本を処理した。データベースのデザインについて検討した。

## 資料6 前回科研費事業の成果に対する科研費審査部会の所見

平成27年度～平成29年度科学研究費助成事業  
「特定奨励費」の進捗状況の確認結果について

別紙

### <公益財団法人山階鳥類研究所>

本研究事業については、標本作成、各種資料収集、データベースで公開されたデータが多くの人に利用されるなど、研究成果報告書により、事業計画が十分に実施されていることを確認した。また、OBやOG、知見の高いアマチュア、関係機関等との連携を強化するために、専門家や機関への標本の貸出や、野外調査講習会、標本作成講習会を行うなど、数多くの普及活動について、おおむね良好に実施されている。特に、個人、大学、動物園、環境庁、博物館などとの連携が進められている点は評価できる。

しかしながら、「和名整備」については、今後、どのように進めていくのか検討が必要である。なお、今後はデータベース利用による料金徴収など本事業の継続性を補完するための事業資金確保の方策を検討してはどうかといった意見があった。

科学技術・学術審議会学術分科会  
科学研究費補助金審査部会

平成30年度  
文部科学省科学研究費補助金（特定奨励費）による研究事業の  
研究成果発表会  
資料集

平成31年1月25日

公益財団法人 山階鳥類研究所  
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
<http://www.yamashina.or.jp/>

非公開

非公開

非公開



非公開

非公開

非公開

## VI-8. 下村写真展来場者アンケート集計結果

### アンケート結果について

「下村兼史生誕115周年100年前にカワセミを撮った男 写真展」のアンケート結果を別紙のようにまとめた。2000人近い入場者のうちの、約500通の回収ということで、入場者全体の偏りのないサンプルでは当然ないが、大変興味深い結果が読み取れると考えられた。以下にその概略を記す。

**設問1. 「この写真展を何で知りましたか？」**では、新聞で知ったという方が多く、新聞への広報を積極的に行い、複数の新聞紙上に大きく取り上げられたことが効を奏したと考えられた。さらに、ポスター・チラシや雑誌・会報も見られており、ネット関係も多いなど、幅広く告知の努力をした効果があったと感じる。その上で、友人・知人が飛び抜けて多いのも特徴的だった。友人・知人から聞いて来場した方が多いのは、実際に展示された写真作品の力によるところも大きいだろう。

**設問2. 「あなたは下村兼史を知っていましたか？」**で、3/4以上が知らなかったという結果が出た点は、**設問5. 「この写真展の感想を聞かせてください。」**で非常に好意的な評価だったことと併せて考えると、写真展を開催した甲斐が大いにあったと読み取ってよいと思う。

一方、**設問3. 「あなたはバードウォッチングや野鳥撮影をしますか？」**では、まったく経験がない人が4人に1人程度だったことは興味深い。とくだん鳥好きではない方たちも来場していたものの、来場者の中心は鳥好きの人だったと解釈できる。それは次の、**設問4. 「この写真展にご来場いただいたのはどのような人やテーマに興味があったからですか？」**に、「野鳥生態写真」「バードウォッチング」「鳥類学」といった選択肢が多く選ばれているのにも現れている。

4人に約1人いる、特段、鳥好きではないらしい層がどんな方たちなのかについては、**設問4. 「この写真展にご来場いただいたのはどのような人やテーマに興味があったからですか？」**で、「写真全般」「モノクロ写真」「ガラス乾板」「記録映画」といった選択肢を選ばれた、写真や記録映画好きの方がここに含まれるのかもしれない。

さらに**設問4.**について、感想として、「おもしろかった」「興味深かった」「良い物を見た」が多数選ばれたのはよかった。一方「懐かしい」「現代的だ」「古めかしい」といった時代的な印象にまつわる感想は、新しいほうも古いほうも選ばれなかったのは、下村兼史の写真の評価として興味深い。もともと古い時代のもので、尖鋭的に現代的とか新しいということはない一方、古く感じた人はほとんどいなかったということは言えるのだろう。

**来場者の属性**として性別は男女ともほぼ同様に見に来られたのがわかった。年齢層は、61～70と70超を合わせると約半数なので、高齢の方が多かったのは事実だが、20歳未満はごく少ないものの、20代、30代もおり、40代、50代はそれなりの割合だったのもよかった。**住所**は東京が半分、続いて、千葉、神奈川、埼玉が多いということで、都心での開催で予想される結果なのだろう。とはいえ、中部、近畿、九州、東北、北海道と全国からの来場者があり、1週間という短期の開催であることを考えると遠隔地からの集客もよかったと評価できるかもしれない。**職業**の内訳は、年齢層が高めに偏っていたことと関連して無職が多かったのと、学生などは当然少なかったということ以外に読み取れる特徴はわからなかった。

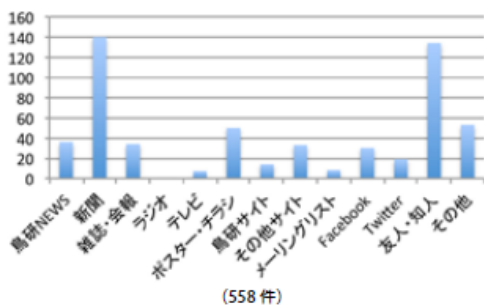
記述式の質問への回答も、当時の条件でこれだけの撮影をした下村へのおどろきとともに、展示の設計や解説パネルへの高評価や、会場係へのお誉めの言葉もあり、総合的に大変よい評価だったと判断してよいと思う。

以上

## 来場者アンケート集計結果

- 会期:2018年9月21日(金)～26日(水)
- 総入場者数:1957名
- 会場:有楽町朝日ギャラリー
- 回答者数:482通(回収率24.6%)

### 1. この写真展を何で知りましたか？(複数回答可)



**【新聞】**・日経新聞(47)・東京新聞(34)・読売新聞(29)・朝日新聞(22)・毎日新聞(3)・朝日OZ新聞(1)

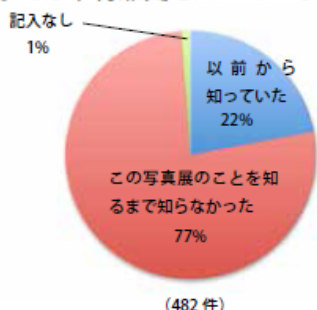
**【雑誌】**・野鳥(10)・野鳥の会(6)・ユリカモメ(2)・ナショナルジオグラフィック(1)・BIRDER(6)・ソトコト(1)

**【ポスター・チラシ場所】**・東京都写真美術館(1)・日本カメラ博物館(半蔵門)(1)・富士フォトサロン(1)・新宿御苑付近の写真ギャラリー(1)・朝日ホール(2)・東京文化会館(2)・我孫子市民プラザ(1)・我孫子市水の館(1)・横浜そごう(1)・上野の森美術館(1)・切手の博物館(1)・国立科学博物館(2)・千葉県立中央博物館(1)・多摩動物園(2)・東京港野鳥公園(1)・谷津干潟(1)・行徳野鳥観察会(1)・新宿御苑(1)・日本自然保護協会(1)・埼玉県生態系保護協会(1)・美学校(2)・野学校(1)・SONY(1)・会社(1)・郵送、DM(3)

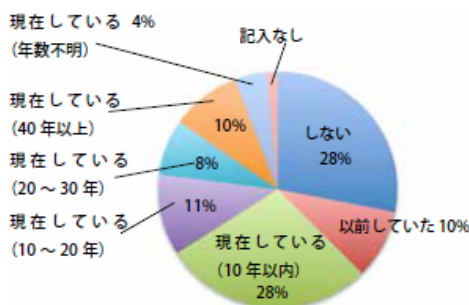
**【その他サイト】**・朝日(1)・webronza(1)・ナショナルジオグラフィック(1)・artscape(大日本印刷)(1)・スマートニュース(1)・日本野鳥の会(3)・日本野鳥の会メルマガ(1)・日本野鳥の会奥多摩支部(1)・バードフォトアーカイブス(4)・ホビーズワールド(2)・バードリサーチブログ(1)・野鳥識別回鑑(1)・マールン通信(1)・谷口さんのブログ(1)・職場(1)・Facebook(1)

**【その他】**・塚本さん、事務局、手紙、案内状(17)・山階鳥研(3)・バードリサーチ(1)・自然保護協会(1)・野鳥の会(2)・千葉県野鳥の会(1)・全写連メール(1)・東芸大SNS(1)・通りすがり、会場で(9)・金子兜太の記念講演会(2)・別のセミナー(1)・佐渡のトキの森の人(1)・堂立寺宮本公朗住職(1)・家族(3)・友人(2)・スタッフより(1)・誘われた(1)・インスタグラム(1)・ネット(1)・他の美術館で掲示されていたポスター(1)・覚えていない(1) (※金子兜太の記念講演会は9月25日(火)有楽町朝日ホールで開催)

### 2. あなたは下村兼史を知っていましたか？

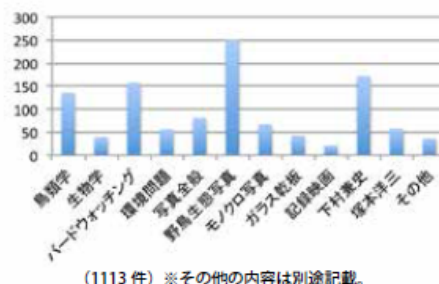


### 3. あなたはバードウォッチングや野鳥撮影をしますか？

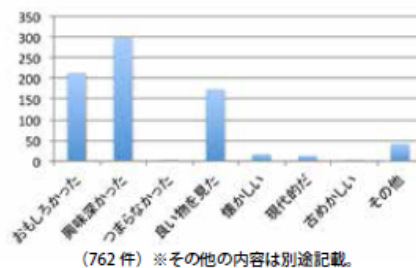


※設問に誤りがあり、「現在している(31～40年)」という選択肢がなかったが、結果をそのまま示した。

### 4. この写真展にご来場いただいたのはどのような人やテーマに興味があったからですか？(複数回答可)

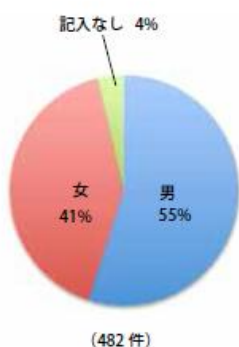


### 5. この写真展の感想を聞かせてください(複数回答可)。

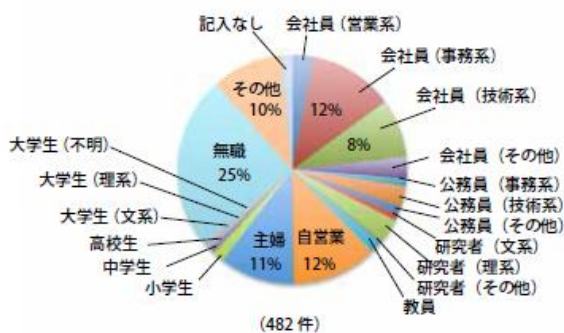


◆あなたご自身についてうかがいます。

●性別

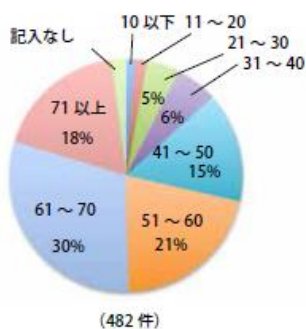


●職業



【その他】・団体職員 (10)・年金生活者 (6)・アルバイト (6)・パートタイマー (5)・イラストレーター (2)・会社役員 (2)・家事手伝い (1)・警備員 (1)・大学職員 (1)・看護師 (1)・福祉関係 (1)・医師 (1)・動物病院 (1)・写真家 (2)・編集者 (1)・デザイナー (1)・フリーライター (1)・美術館司書 (1)

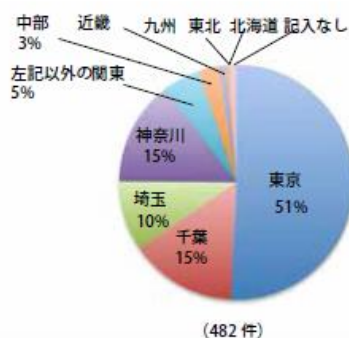
●年齢



●山階鳥研の賛助会員



●住所



## 「下村兼史生誕 115 周年 100 年前にカワセミを撮った男 写真展」アンケート

本日はご来場いただき、まことにありがとうございました。今後の参考にさせていただきますので、アンケートの記入にご協力をお願いいたします。

◆この催しについてうかがいます (該当するものに○をおつけください。複数回答可<以下同じ>)

### 1. この写真展を何で知りましたか？

山階鳥研 NEWS 新聞 ( ) 新聞 ( ) 雑誌・会報 ( )  
ラジオ ( ) テレビ ( ) ポスター・チラシ (場所 )  
山階鳥研のウェブサイト その他のウェブサイト ( ) メーリングリスト  
Facebook Twitter 友人・知人に教えられて その他 ( )

### 2. あなたは下村兼史を知っていましたか？

以前から知っていた この写真展のことを知るまで知らなかった

### 3. あなたはバードウォッチングや野鳥撮影をしますか？

しない 以前していた 現在している (10 年以内 10~20 年 20~30 年 40 年以上)

### 4. この写真展にご来場いただいたのはどのような人やテーマに興味があったからですか？

鳥類学 生物学 バードウォッチング 環境問題 写真全般 野鳥生態写真 モノクロ写真  
ガラス乾板 記録映画 下村兼史 塚本洋三  
その他 ( )

### 5. この写真展の感想を聞かせてください。

おもしろかった 興味深かった つまらなかった 良いものを見た 懐かしい  
現代的だ 古めかしい その他 ( )

### 6. この写真展にご意見がおありでしたらお書きください。(裏面もお使いください)

### 7. 講演会・シンポジウム等も含め、山階鳥研で行う催しでどのようなテーマを取り上げてほしいかご意見を聞かせ下さい。

◆あなたご自身についてうかがいます。

●性別 男 女 ●年令 10 以下 11~20 21~30 31~40 41~50 51~60 61~70 71 以上

●職業 会社員 (営業系 事務系 技術系) 公務員 (事務系 技術系) 研究者 (文系 理系)  
教員 自営業 主婦 生徒・学生 (小 中 高) 大学生・院生 (文系 理系) 無職  
その他 ( )

●住所 東京 千葉 埼玉 神奈川 左記以外の関東 中部 近畿 中国 四国 九州 沖縄 東北 北海道

●山階鳥研の賛助会員 である ではない これを機会に入会したい

ご協力ありがとうございました



## V 財産目録等

# V-1. 平成 30 年度決算資料

## 平成30年度 正味財産増減計算書内訳表(前年度比)

公益財団法人 山階鳥類研究所  
自 平成30年4月1日 至 31年3月31日

(単位：円)

科 目	当 年 度 計	前 年 度 計	増 減
<b>〔一般正味財産増減の部〕</b>			
〔経常増減の部〕			
〔経常収益〕			
【基本財産運用益】			
基本財産運用益	16,946,873	17,235,315	△ 288,442
【特定財産運用益】			
特定財産受取利息	0	26	△ 26
【受取会費】			
受 取 会 費	14,732,000	14,169,000	563,000
【事業収益】			
受託・請負事業収益	90,310,242	86,901,700	3,408,542
不動産賃貸事業収益	14,520,000	12,661,720	1,858,280
不動産契約更新料収益	0	180,000	△ 180,000
【補助金等収益】			
国庫補助金	56,000,000	56,000,000	0
独行・大学法人補助金	5,076,500	2,991,500	2,085,000
民間助成金	7,408,000	3,066,000	4,342,000
【受取寄附金】			
受 取 寄 附 金	65,793,938	50,002,747	15,791,191
指定正味財産からの振替額	0	260,000	△ 260,000
募 金 収 益	13,000	13,000	0
【受取利息】			
受 取 利 息	1,648	1,531	117
【雑収益】			
有価証券運用益	0	0	0
雑 収 益	4,910,166	3,750,046	1,160,120
【他会計からの繰入額】			
他会計からの繰入額	0	0	
経常収益計	275,712,367	247,232,585	28,479,782
〔経常費用〕			
【事業費】			
役 員 報 酬	1,404,000	1,404,000	0
通 勤 費(役員)	39,116	49,207	△ 10,091
人 件 費	109,117,242	107,745,729	1,371,513
業 務 費	97,840,961	85,275,326	12,565,635
物 品 費	18,856,019	15,581,009	3,275,010
修 繕 積 立 金	1,900,800	1,871,640	29,160
減 価 償 却 費	15,653,407	16,971,141	△ 1,317,734
賞与引当金繰入額	2,697,965	2,777,600	△ 79,635
退職共済掛金	3,270,004	3,411,264	△ 141,260
退職給与積立金	1,899,922	1,596,867	303,055
管 理 費 (東京分室・賃貸室)	1,320,000	1,299,750	20,250
そ の 他 事 業 費			
支払助成金	1,951,639	1,783,000	168,639
支払寄附金	0	2,000	△ 2,000
支払負担金	31,600	619,591	△ 587,991
事業費計	255,982,675	240,388,124	15,594,551
【管理費】			
役 員 報 酬	156,000	156,000	0
通 勤 費(役員)	4,346	5,471	△ 1,125
人 件 費	2,618,062	3,052,660	△ 434,598
業 務 費	2,776,870	2,638,408	138,462
物 品 費	243,344	258,971	△ 15,627
修 繕 積 立 金 (東京分室)	0	29,160	△ 29,160
減 価 償 却 費	1,084,920	1,085,473	△ 553
賞与引当金繰入額	89,546	93,067	△ 3,521
退職共済掛金	129,996	132,816	△ 2,820
管 理 費 (東京分室)	0	20,250	△ 20,250
支払寄附金	0	0	0
支払負担金	139,940	140,940	△ 1,000
管 理 費 計	7,243,024	7,613,216	△ 370,192
経常費用計	263,225,699	248,001,340	15,224,359
当期経常増減額	12,486,668	△ 768,755	13,255,423
〔経常外増減の部〕			
〔経常外収益〕			
固定資産売却益	0	0	0
退職引当金戻入	0	0	0
有価証券売却益	0	0	0
その他経常外収益	743	636	107
経常外収益計	743	636	107

(単位：円)

科 目	当 年 度 計	前 年 度 計	増 減
〔経常外費用〕			
固定資産除去損	805,624	6,924,876	△ 6,119,252
図書評価損	306,679	368,164	△ 61,485
その他経常外費用	0	0	0
経常外費用計	1,112,303	7,293,040	△ 6,180,737
当期経常外増減額	△ 1,111,560	△ 7,292,404	6,180,844
他会計振替額	0	0	0
税引き前当期一般正味財産増減額	11,375,108	△ 8,061,159	19,436,267
法人税・住民税及び事業税	670,200	222,300	447,900
当期一般正味財産増減額	10,704,908	△ 8,283,459	18,988,367
一般正味財産期首残高	1,430,367,415	1,438,650,874	△ 8,283,459
一般正味財産期末残高	1,441,072,323	1,430,367,415	10,704,908
〔指定正味財産増減の部〕			0
受取寄附金	500,000	0	500,000
受取寄附金利息	31	32	△ 1
〔一般正味財産への振替額〕			0
一般正味財産への振替額	0	△ 260,000	260,000
当期指定正味財産増減額	500,031	△ 259,968	759,999
指定正味財産期首残高	3,108,022	3,367,990	△ 259,968
指定正味財産期末残高	3,608,053	3,108,022	500,031
〔正味財産期末残高〕	1,444,680,376	1,433,475,437	11,204,939

※人件費内訳：給与手当、賃金、賞与、法定福利費、福利厚生費

※業務費内訳：委託費、旅費、交通費、通信運搬費、修繕費、印刷製本費、光熱水料費、借料及び損料

保険料、諸謝金、租税公課、会議費、交際費、雑費

## 貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	3,128,369	3,641,784	△ 513,415
普通預金	135,497,317	166,916,221	△ 31,418,904
郵便振替	2,619,711	3,075,186	△ 455,475
郵便貯金	561,031	296,812	264,219
有価証券	1,000,000	1,000,000	0
未収金	40,875,550	37,096,898	3,778,652
前払金(図書)	1,216,674	1,251,709	△ 35,035
前払費用	277,954	277,954	0
流動資産合計	185,176,606	213,556,564	△ 28,379,958
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	1,878,331	1,878,313	18
有価証券	573,466,627	523,988,809	49,477,818
土地	134,000,000	134,000,000	0
建物	192,787,045	201,441,976	△ 8,654,931
構築物	222,079	434,590	△ 212,511
貴重図書	128	128	0
標本(1点1円備忘価額)	65,614	64,871	743
標本(取得価額)	391,988	91,988	300,000
基本財産合計	902,811,812	861,900,675	40,911,137
(2) 特定資産			
現金	0	14,437	△ 14,437
普通預金	0	6,986,764	△ 6,986,764
退職給付引当資産	10,037,790	8,200,000	1,837,790
大規模修繕積立資産	9,146,609	5,146,564	4,000,045
その他積立資産	3,608,053	3,108,022	500,031
特定資産合計	22,792,452	23,455,787	△ 663,335
(3) その他固定資産			
土地	352,000,000	352,000,000	0
建物	14,692,927	15,758,627	△ 1,065,700
建物附属設備	2,658,584	2,864,617	△ 206,033
車両運搬具	1,059,701	1,588,756	△ 529,055
図書(1点1円備忘価額)	59,352	58,861	491
図書(取得価額)	201,267	307,170	△ 105,903
什器備品	11,047,096	9,360,925	1,686,171
預託金	9,550	9,550	0
長期前払費用	69,859	146,069	△ 76,210
無形固定資産	137,215	288,930	△ 151,715
その他固定資産合計	381,935,551	382,383,505	△ 447,954
固定資産合計	1,307,539,815	1,267,739,967	39,799,848
資産合計	1,492,716,421	1,481,296,531	11,419,890
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金(源泉所得税)	613,179	617,543	△ 4,364
預り金(個人住民税)	361,200	366,200	△ 5,000
未払金(旅費)	10,970	0	10,970
前受金	825,200	80,000	745,200
未払費用(社会保険料)	5,025,300	4,852,406	172,894
未払費用(輸入消費税)	48,500	0	48,500
未払消費税等	2,614,700	2,470,500	144,200
未払法人税等	670,200	222,300	447,900
賞与引当金	2,787,511	2,870,667	△ 83,156
流動負債合計	12,956,760	11,479,616	1,477,144
2. 固定負債			
退職給付引当金	31,659,285	32,921,478	△ 1,262,193
預り敷金	3,420,000	3,420,000	0
固定負債合計	35,079,285	36,341,478	△ 1,262,193
負債合計	48,036,045	47,821,094	214,951
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	3,608,053	3,108,022	500,031
指定正味財産合計	3,608,053	3,108,022	500,031
(うち特定資産への充当額)	3,608,053	3,108,022	500,031
2. 一般正味財産	1,441,072,323	1,430,367,415	10,704,908
(うち基本財産への充当額)	902,354,210	861,743,816	40,610,394
(うち特定資産への充当額)	19,184,399	13,361,001	5,823,398
正味財産合計	1,444,680,376	1,433,475,437	11,204,939
負債及び正味財産合計	1,492,716,421	1,481,296,531	11,419,890

## V-2. 財産目録

平成30年度 財産目録

公益財団法人 山階鳥類研究所

平成31年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金	額
〔資産の部〕		
【流動資産】		
現金	3,128,369	
普通預金	135,497,317	
定期預金	0	
郵便振替	2,619,711	
郵便貯金	561,031	
有価証券	1,000,000	
未収金	40,875,550	
前払金 (図書)	1,216,674	
前払費用	277,954	
流動資産合計		185,176,606
【固定資産】		
(基本財産)		
普通預金	1,878,331	
有価証券	573,466,627	
土地	134,000,000	
建物	192,787,045	
構築物	222,079	
貴重図書	128	
標本 (1点1円備忘価額)	65,614	
標本 (取得価額)	391,988	
基本財産合計	902,811,812	
(特定資産)		
現金 (写真展特別会計)	0	
退職給付引当資産	10,037,790	
大規模修繕積立資産	9,146,609	
指定正味財産用	3,608,053	
写真展特別会計 (H31.1月に解約)	0	
特定資産合計	22,792,452	
(その他固定資産)		
土地	352,000,000	
建物	14,692,927	
建物附属設備	2,658,584	
車両運搬具	1,059,701	
図書 (1点1円備忘価額)	59,352	
図書 (取得価額)	201,267	
什器備品	11,047,096	
預託金	9,550	
長期前払費用 (長期火災保険料)	69,859	
無形固定資産	137,215	
その他固定資産合計	381,935,551	
固定資産合計		1,307,539,815
資産合計		1,492,716,421
〔負債の部〕		
【流動負債】		
預り金 (源泉所得税)	613,179	
預り金 (個人住民税)	361,200	
未払金 (旅費)	10,970	
前受金	825,200	
未払費用 (社会保険料)	5,025,300	
未払費用 (輸入消費税)	48,500	
未払消費税等	2,614,700	
未払法人税等	670,200	
賞与引当金	2,787,511	
流動負債合計		12,956,760
【固定負債】		
退職給付引当金	31,659,285	
預り敷金	3,420,000	
固定負債合計		35,079,285
負債合計		48,036,045
正味財産		1,444,680,376

注1: 什器備品は公益目的事業分¥9,964,820、収益事業分¥1,082,276

## VI ご寄附・賛助等に関する資料

平成29年度・平成30年度 寄附金及び賛助会員増減数一覧

<寄附>

種別	平成29年度		平成30年度		比較増減額 金額(円)	対29年度 増減率 % 比率(%)	比較増減数 件数	備考
	金額(円)	件数	金額(円)	件数				
寄附金(法人)	2,347,500	8	6,248,000	11	3,900,500	166%	3	(平成29年度大口) (一社)霞会館1,500,000円 (平成30年度大口) (一社)霞会館 1,500,000円、大和証券(株) 1,000,000円、 (株)帝国ホテル 1,000,000円、(株)横浜銀行 細島支店 1,000,000円、
寄附金(個人)	7,548,247	31	9,372,938	34	1,824,691	24%	3	(平成29年度大口) 小倉幸一(故)中一様遺贈)5,000,000円 (平成30年度大口)佐藤洋一 5,000,000円、徳原榮輔 1,000,000円、 南場智子 1,000,000円
合計	9,895,747	39	15,620,938	45	5,725,191	58%	6	

<賛助会員>

種別	平成29年度		平成30年度		比較増減額 金額(円)	対29年度 増減率 % 比率(%)	比較増減数 件数	備考
	金額(円)	員数	金額(円)	員数				
法人賛助会員	40,110,000	245	42,810,000	228	2,700,000	6.7%	△17	平成30年度入会8件、平成30年度 未継続・退会 25件
地方自治体	2,800,000	14	2,750,000	13	△50,000	△1.8%	△1	平成30年度 未継続 △500,000円(福敷市)
団体賛助会員	514,000	14	514,000	14	0	0	0	
個人賛助会員	9,855,000	832	8,860,000	752	△995,000	△10%	△80	平成30年度入会 31人、平成30年度 未継続・退会 111人
合計	53,279,000	1,105	54,934,000	1,007	1,655,000	3.1%	△98	

寄附金・賛助会費 合計	63,174,747		70,554,938		7,380,191	△11.7%		
	0		1,608,000	134				東日本・中部日本地区賛助会員の集い 会費
	260,000		0					アホウドリの保護活動
	13,000	4	13,000	4				アルハトロス募金(サントリーホールディングス(株))
	4,000	1	18,000	1				特定賛助法人懇親会 寄附
	993,000	12	345,000	5				下村兼史写真展 寄附
	0		6,000,000	1				ハワイミツスイ
	0		2,000,000	1				保全研究室委託・請負事業特別会計
総計	64,444,747		80,538,938					

\* 金額は年度合計額。賛助会員数は期末時点における員数。

\* 法人賛助会員はP/L上寄附金扱いとなっている(除くサントリー1,000,000円。サントリーからの申出により賛助会費扱いとなっている。)



平成29年度・平成30年度 県別 賛助会員数一覧

(各年度末 3月31日現在)

	法人		地方自治体		団体		個人	
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
北海道							17	15
青森県							4	4
岩手県							3	3
宮城県	1	1					5	6
秋田県							7	5
山形県							1	1
福島県							4	5
茨城県	12	12	3	2			61	55
栃木県	1	1					4	3
群馬県							5	3
埼玉県	2	2					23	23
千葉県	8	8	6	6	10	10	95	96
東京都	78	72			2	2	155	146
神奈川県	4	4					56	47
新潟県			1	1	1	1	10	10
富山県							1	1
石川県							4	5
福井県		1					0	0
山梨県							2	2
長野県	4	4	2	2			26	24
岐阜県	1	1					18	9
静岡県	1						3	3
愛知県	6	5					57	53
三重県							4	3
滋賀県							4	3
京都府	17	17					7	5
大阪府	30	32					25	19
兵庫県	5	4	1	1			20	16
奈良県	3	2					2	1
和歌山県							4	2
鳥取県					1	1	3	3
島根県	2	2					6	5
岡山県	1	1					4	4
広島県	7	7					87	83
山口県							11	9
徳島県	1	1					1	1
香川県							4	4
愛媛県	20	21					29	29
高知県	2	2					3	4
福岡県	1	1					5	4
佐賀県							0	0
長崎県	2	1					3	2
熊本県	26	20					25	22
大分県	4	1					9	4
宮崎県							1	1
鹿児島県	6	5	1	1			9	4
沖縄県							5	5
合計	245	228	14	13	14	14	832	752

**賛助会員の集い 地区別・年度別 開催状況一覧**

	東日本 (東京)	東日本・中部 (東京)	中部・名古屋 (名古屋)	関西 (大阪・京都)	四国 (愛媛)	中国 (広島)	九州 (熊本)	中 部 (長野)	中国・四国 拡大 (広島・岐阜 他)	中国・四国
平成21年度				—	—		22.2.9		—	
平成22年度	22.6.23			—	—			23.2.14	—	22.12.7(広島)
平成23年度			23.12.1	23.7.4	—		24.2.7		—	
平成24年度	24.7.3				—				25.1.23	
平成25年度			25.11.8	25.7.10	—		25.3.5			
平成26年度	26.7.15				27.2.18					
平成27年度			28.1.20	27.7.2		27.4.6				
平成28年度	28.7.13				29.2.1					
平成29年度				29.7.3		29.4.12				
平成30年度		30.7.2								31.3.6(愛媛)



東日本・中部地区賛助会員の集い(2018年7月2日)



中国・四国地区賛助会員の集い (2019年3月6日)

平成31年3月31日現在

平成30年度 公共機関賛助金一覧

(縣市町村名)	(賛助員入会年度)	( 賛助金 ) 円	( 担当課 )
我孫子市 (千葉県)	S. 60年度	1, 150, 000	鳥の博物館
柏市 ( " )	4 年度	400, 000	文化課
松戸市 ( " )	4 年度	500, 000	みどりと花の課
千葉県 ( " )	2 年度	200, 000	自然保護課
野田市 ( " )	4 年度	100, 000	社会教育課
成田市 ( " )	1 2 年度	50, 000	環境計画課
牛久市 (茨城県)	5 年度	50, 000	都市計画課
利根町 ( " )	6 年度	50, 000	企画財政課
軽井沢町 (長野県)	1 7 年度	50, 000	観光経済課
中野市 ( " )	1 8 年度	50, 000	中野市教育委員会
新潟市 (新潟県)	4 年度	50, 000	福島潟みらい連合
豊岡市 (兵庫県)	5 年度	50, 000	コトリ共生推進課
出水市 (鹿児島県)	5 年度	50, 000	出水市ツル博物館

平成30年度 賛助法人リスト（五十音順） ※ 法人賛助員及び継続寄附法人を含む

（有）アート企画  
 アインズ商事（有）  
 （公財）旭硝子財団  
 （株）旭屋書店  
 麻布大学附属学術情報センター  
 アジア航測（株）  
 有限責任あずさ監査法人名古屋事務所  
 （株）あつまるホールディングス  
 （一社）我孫子ゴルフ倶楽部  
 我孫子市国際交流協会  
 我孫子市  
 我孫子野鳥を守る会  
 アブダビ石油（株）  
 （宗）雨引山楽法寺  
 嵐山通船（株）  
 アルファクラブ武蔵野（株）  
 安穏寺  
 （宗）安養院  
 （宗）安養寺  
 （株）イーストネットワーク  
 （株）イープレス  
 イカリ消毒（株）  
 （有）池田製茶  
 出水市  
 （株）イズミヤ  
 （株）泉屋商店  
 出雲大社  
 イセ食品（株）  
 市川甚商事（株）  
 巖島神社  
 （株）一保堂  
 （株）いとや  
 岩谷産業（株）  
 上野製薬（株）  
 （有）上野剥製所  
 牛久市  
 （医）英香会  
 ANAホールディングス（株）  
 （株）えがお  
 （株）NHKエンタープライズ  
 （株）NYK西日本  
 （株）江ノ島マリンコーポレーション  
 （株）愛媛銀行  
 愛媛パッケージ（株）  
 （株）応用生物  
 大阪ガス（株）  
 大崎電気工業（株）  
 （株）大林組大阪本店  
 （株）大林組東京本店  
 （株）オービックビジネスコンサルタント  
 小笠原海運（株）  
 オカモト（株）  
 小川香料（株）  
 オザキエンタープライズ（株）  
 小田原製紙（株）  
 おべ工業（株）  
 （株）鹿児島県クリーニングセンター  
 鹿島建設（株）  
 鹿島神宮  
 柏市  
 （一社）霞会館  
 香取神宮  
 加納屋運送（株）  
 賀茂鶴酒造（株）

（宗）賀茂別雷神社  
 軽井沢町  
 川北化学（株）  
 関西電力（株）  
 キッコーマン（株）  
 キヤノン（株）  
 （株）キューネット  
 キョーラク（株）  
 （宗）清澄寺  
 近鉄グループホールディングス（株）  
 （株）熊谷組名古屋支店  
 熊本朝日放送（株）  
 （株）熊本県民テレビ  
 熊本交通運輸（株）  
 （株）クリーンサービス  
 桑原運輸（株）  
 月桂冠（株）  
 ケネディクス（株）  
 （株）建設環境研究所  
 （一財）建設経済研究所  
 （株）亘徳 東京支店  
 鴻池運輸（株）  
 （株）コーエーテックモホールディングス  
 （株）コーシンコンストラクション  
 （株）コーセー  
 （株）国際文献社  
 コクヨ（株）  
 黒龍酒造（株）  
 小島慶嗣公認会計士事務所  
 寿精版印刷（株）  
 西方寺  
 佐藤製薬（株）  
 サラヤ（株）  
 山九（株）  
 （株）SUNデザイン研究所  
 三徳電機（株）  
 サントリーホールディングス（株）  
 三宝電機（株）  
 （株）シアーズホーム  
 （株）シー・アイ・シー  
 （株）シグナル交通  
 四国建設コンサルタント（株）  
 （株）資生堂  
 （株）七光  
 信濃毎日新聞（株）  
 澁谷工業（株） 関西営業部  
 （株）島津興業  
 清水建設（株）  
 （一財）住環境財団  
 （学）修道学園  
 （株）ジュンアシダ  
 （株）聖護院八ツ橋總本店  
 （一社）昭和会館  
 新和印刷（株）  
 （株）親和技術コンサルタント  
 （一財）水源地環境センター  
 セイコーホールディングス（株）  
 （株）成武建設  
 （有）セイフティーテクノス  
 （株）聖林公司  
 積水ハウス（株）  
 （株）セキュリティエヒメ  
 （株）セルモ  
 セレモアホールディングス（株）

全国農業協同組合連合会  
（学）洗足学園  
（株）仙波工業  
綜合警備保障（株）茨城支社  
（学）君が淵学園 崇城大学  
ソニー（株）  
ソニー生命保険（株）  
（株）第一製版  
ダイキン工業（株）  
（株）大正クエスト  
（宗）大聖寺  
（株）大宣  
大日本印刷（株）  
（医）ますお会 第2北総病院  
（株）大任建設  
大和証券（株）  
（株）高尾輸送サービス  
高野石材  
宝ホールディングス（株）  
（株）竹中工務店  
（株）田中伊雅佛具店  
（株）玉越  
（株）地域情報センター  
千葉県  
中央学院大学  
中外製薬（株）  
（株）中国新聞社  
鶴崎商事（株）  
（株）ティールワイリミテッド  
（株）帝国ホテル  
（公財）摘水軒記念文化振興財団  
テラル（株）  
（株）テレビ熊本  
（一財）電力中央研究所  
（株）ドゥ・ヨネザワ  
東映（株）  
東京エレクトロン（株）  
（公財）東京動物園協会  
東京戸張（株）  
東京リボン（株）  
東西化学産業（株）  
（株）東伸  
（宗）東大寺  
（株）トーセ  
東レ（株）  
常磐神社  
（株）トサトーヨー  
凸版印刷（株）  
利根町  
（株）友清白蟻  
豊岡市  
長野朝日放送（株）  
中野市  
（株）長野ホテル犀北館  
（医）あゆみ会中原歯科  
（医）蛭水会 名戸ヶ谷病院  
成田市  
NISSHA（株）  
（株）日清製粉グループ本社  
日本航空（株）  
日本生命保険（相）  
日本たばこ産業（株）

日本鳩対策センター（株）  
（一社）日本鳩レース協会  
日本ファイリング（株）  
日本野鳥の会 茨城県支部  
日本山村硝子（株）  
（宗）如宝寺  
ネッツトヨタ京都（株）  
野田市  
（有）バード・フォト・アーカイブス  
パナソニック（株）  
林常王冠（株）  
（株）樋口松之助商店  
（株）ヒライ  
広島信用金庫  
（株）ひろ写真  
（有）廣瀬石材店  
（株）フォーブス  
福岡ソフトバンクホークス（株）  
福島潟みらい連合  
富士急行（株）  
（株）藤交通  
（株）フジシール  
不二熱学工業（株）  
（株）フジワラテクノアート  
豊安工業（株）  
星企画（株）  
（公財）ホシザキグリーン財団  
（株）堀場製作所  
松戸市  
（株）円クリエーション  
（独）水資源機構  
ミタニ建設工業（株）  
（株）三井住友銀行  
三ツ浜汽船（株）  
三菱商事（株）  
（医）天真会南高井病院  
（株）南日本銀行  
（学）御船学園 平成音楽大学  
村田機械（株）  
（宗）明治神宮  
（株）メモリード  
（医）森永産婦人科  
森ビル（株）  
（株）森ビルホスピタリティコーポレーション  
（宗）薬師寺  
（株）安井建築設計事務所  
山科電気工事（株）  
（学）山野学苑  
（株）山本精工所  
（株）ユー花園  
（株）ユーシン精機  
（株）ユニオン  
（株）横浜銀行 綱島支店  
吉田機電（株）  
（株）鈴  
（株）レイメイ藤井  
レンゴー（株）  
（株）YSトレーディング  
（株）ワコール  
和多田印刷（株）  
渡辺パイプ（株）

令和元（2019）年8月31日発行

編集・発行 公益財団法人 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

TEL: 04-7182-1101

FAX: 04-7182-1106

URL: <http://www.yamashina.or.jp>